

第4回鶴岡市における言語調査 報告書

資料編：第2分冊 「語彙・文法，言語生活項目」編

統計数理研究所・国立国語研究所

2015年3月

は し が き

本報告書は、国立国語研究所（以下、国語研）と統計数理研究所（以下、統数研）が共同プロジェクトとして2011年度を中心に遂行した「第4回鶴岡市における言語調査」の幾つかのうち、「ランダムサンプリング調査」の報告書第2分冊である。

「鶴岡市における言語調査」は共通語化の過程がテーマとなっており、その第1回は1950年に山形県鶴岡市で実施され、以降第2回1971年、第3回1991年と、ほぼ20年間隔で実施されてきた。第1回調査より二つの研究所の緊密な協力関係の下で企画・実施され、それ以来、両研究所の協力関係は60年以上にわたって継続していることになる。

1950年頃は、戦後の日本における統計的無作為標本抽出法に基づく社会調査・世論調査の黎明期で、第1回調査の報告書「地域社会における言語生活」を見ると、統数研からは林知己夫や西平重喜などが参加し、サンプリングから調査項目の選定まで、調査設計全体に深く関与したことがわかる。国語研からは柴田武や金田一春彦、野元菊雄といったその後の国語学研究を支える研究者たちが参与している。この綿密な準備・実施の記録は、統計学にもとづく実践調査の視点からも貴重な資料となっている。

今日振り返ってみると、戦後の米国政府の「日本語のローマ字化」案から日本語を救ったとされる「日本人の読み書き能力調査」（1948年）から、統数研によって60年以上継続されている「日本人の国民性」第1回調査（1953年）の約5年の間に、岡崎敬語調査（1953年）を含め、国語研がその後「定点経年調査」と呼ぶことになる各種の言語調査の立ち上げに統数研の研究者たちが情熱を持って協力してきたことが認められる。統計的ランダムサンプリングに基づく社会調査のスタイルの基礎が築き上げられたこの時期の各調査は、戦後社会調査史の重要な1ページを飾るものである。この協力関係の伝統は、第4回鶴岡調査を遂行する中で、2011年10月5日に正式に両研究所間の「研究・教育上の連携に関する基本協定」を締結する形に昇華させることができた。

同調査プロジェクトの中の「ランダムサンプリング調査」を統数研が主として担当したことから、本報告書では統数研の名前が先に表記されているが、どちらが主導ということではなく、両研究所の研究者がまさに手を携えて作り上げてきた調査の最新の記録である。鶴岡調査は、この他に主に国語研が担当した「パネル調査」や「発展的調査」など、更にいくつかのプロジェクトで構成されている。今後発行される予定のそれらの報告書と共に、社会言語学的調査に関わる全ての方の参考になれば幸いである。

このプロジェクトは、市民の皆様をはじめ、市役所、教育委員会、図書館、地元の報道各社等、鶴岡市の長年にわたる全面的な御支援なくしては成立しなかった。多数の方々のすべての御名前を挙げることはできないが、御支援いただいた関係各方面に改めてお礼を申し上げます。また、この世界でも稀な社会言語学の長期継続調査プロジェクトが、今後も継続され、その成果が広い世界で活用され続けていくことを望むものである。

2015年3月

統計数理研究所
調査科学研究センター長 吉野諒三

※本報告書の書誌的情報は以下の通りである：

編 集	：	「鶴岡市における言語調査」研究グループ
タイトル	：	第4回鶴岡市における言語調査 報告書 資料編：第2分冊「語彙・文法，言語生活」編
発 行	：	統計数理研究所・国立国語研究所 〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3 〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
発 行 日	：	2015年3月31日

※「鶴岡市における言語調査」研究グループメンバー

第4回鶴岡市における言語調査の組織・体制の全体については2014年3月に刊行した第1分冊第1章3節を参照。

組織の中で、特に下記の10名は、調査の企画・準備・実施・集計・成果報告・報告書作成の諸段階でそれぞれに貢献が大きかった中心的なメンバーであり、これらの10名をまとめて、「鶴岡市における言語調査」研究グループと呼んでいる。

阿部貴人^{*1,*2}・横山詔一^{*2}・米田正人^{*1,*2}（以上国立国語研究所）
中村 隆^{*2}・前田忠彦^{*1,*2}・吉野諒三（以上統計数理研究所）
井上史雄（明海大学）
佐藤和之（弘前大学），
佐藤亮一（国立国語研究所名誉所員），
水野義道（京都工芸繊維大学），
（所属は2011年実査当時。）

*1：本報告書の編集者

*2：実査本部メンバー：実査準備から結果報告までの両研究所の事務局メンバー

目 次

はしがき

目次

事項目次

1. 語彙・文法（語法）	3
1. 語彙項目	3
1.1 語彙項目の内容	3
1.2 4回の調査結果が得られた項目	4
1.3 第2回調査以降に実施された項目	19
2. 文法（語法）項目	26
2.1 文法（語法）項目の内容	26
2.2 4回の調査結果が得られた項目	27
2.3 第2回調査以降に実施された項目	47
2. 言語意識に関する項目	51
1. 場面によることばの使い分け	53
3. 集計表	57
1. 語彙・文法（語法）項目	59
4. 資料	75
面接調査票	77
提示リスト	89
言語生活調査票	99
調査会社の調査マニュアル	106
文化講演会の資料	113

事 項 目 次

単音項目

語彙項目

「いつも」〔241.〕	4
「留守番」〔242.〕	6
「いらっしゃい」〔243.〕	9
「もう」〔244.〕	11
「おどろいた」〔245.〕	13
「はずかしい」〔246.〕	17
「あげる」〔247.〕	19
「ツララ」〔248.〕	21
「コーデ」〔249.〕	23

文法（語法）項目

「起きろ」〔261.〕	27
「わたくしたち」〔262.〕	30
「見に行く」〔263.〕	33
「行くから」〔264.〕	35
「行くけれども」〔265.〕	39
「強かったなあ」〔266.〕	41
「勉強しないで」〔267.〕	43
「静かなら」〔268.〕	45
「あなたを」	47

言語意識に関する項目

場面によることばの使い分け	53
---------------------	----

第1章

語彙・文法(語法)

1. 語彙項目

1.1. 語彙項目の内容

語彙に関しては以下に挙げる 9 語について調査した。〔 〕内は調査票の質問番号である。9 語のうち、6 語は第 1 回～第 4 回調査の 4 回の調査結果が得られた項目である。残りの 3 語は、第 1 回調査では調査しておらず、第 2 回調査以降に実施された項目である。

< 4 回の調査結果が得られた項目 >

- (1) いつも [241]
- (2) 留守番 [242]
- (3) いらっしゃい [243.]
- (4) もう [244.]
- (5) おどろいた [245.]
- (6) はずかしい [225.]

< 第 2 回調査以降に実施された項目 >

- (7) あげる [224.]
- (8) つらら [221.]
- (9) コーデ [220.]

(1)～(6)は、日常生活における最も基本的な語について調べ、そこから方言形で現れそうなものとして選定した（国立国語研究所 1953）。

(7)は鶴岡方言の時代的变化が出そうなものとして、(8)は方言形の多く出そうなものとして、(9)は土族のことばの代表として、それぞれ第 2 回調査で追加された項目である（国立国語研究所 1974）。

国立国語研究所（1953）『地域社会の言語生活－鶴岡における実態調査－』秀英出版

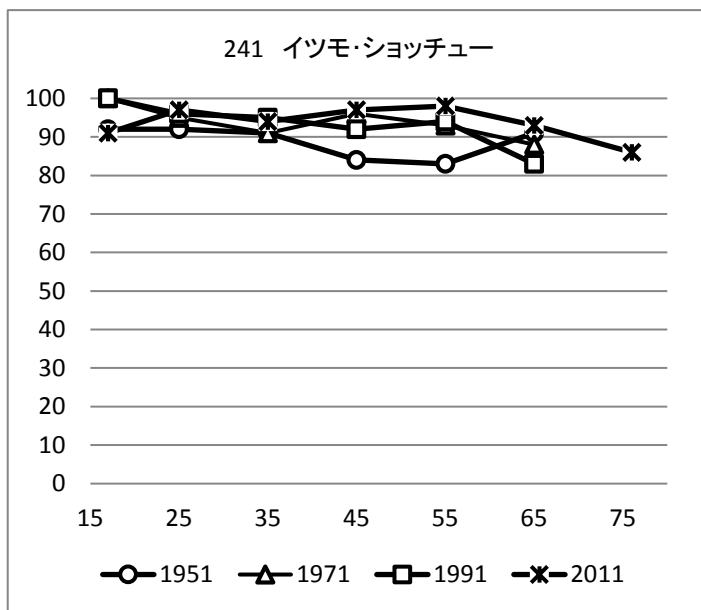
国立国語研究所（1974）『地域社会の言語生活－鶴岡における 20 年前との比較－』秀英出版

1.2 4回の調査結果が得られた項目

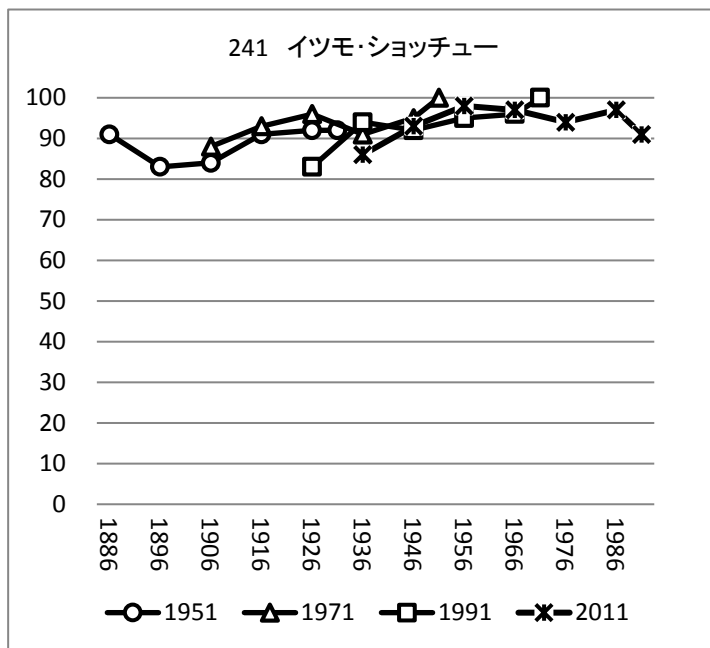
241. 「イツモ・シヨツチュー」

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	92	100	100	91
20-29歳	92	95	96	97
30-39歳	91	91	95	94
40-49歳	84	96	92	97
50-59歳	83	93	94	98
60-69歳	91	88	83	93
70-79歳	-	-	-	86
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



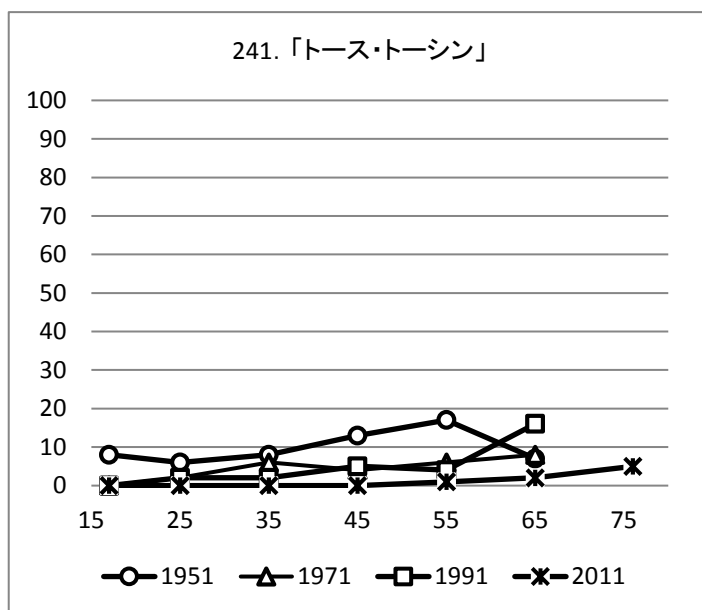
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	91			
1892-1901	83			
1902-1911	84	88		
1912-1921	91	93		
1922-1931	92	96	83	
1932-1941	92	91	94	86
1942-1951		95	92	93
1952-1961		100	95	98
1962-1971			96	97
1972-1981			100	94
1982-1991				97
1992-1996				91



241. 「トースト・トースン」

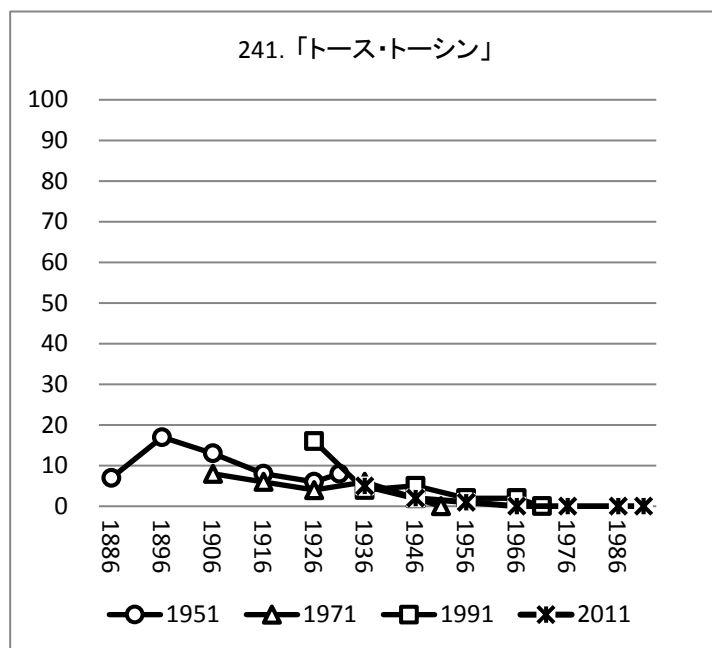
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	8	0	0	0
20-29歳	6	2	2	0
30-39歳	8	6	2	0
40-49歳	13	4	5	0
50-59歳	17	6	4	1
60-69歳	7	8	16	2
70-79歳	-	-	-	5
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

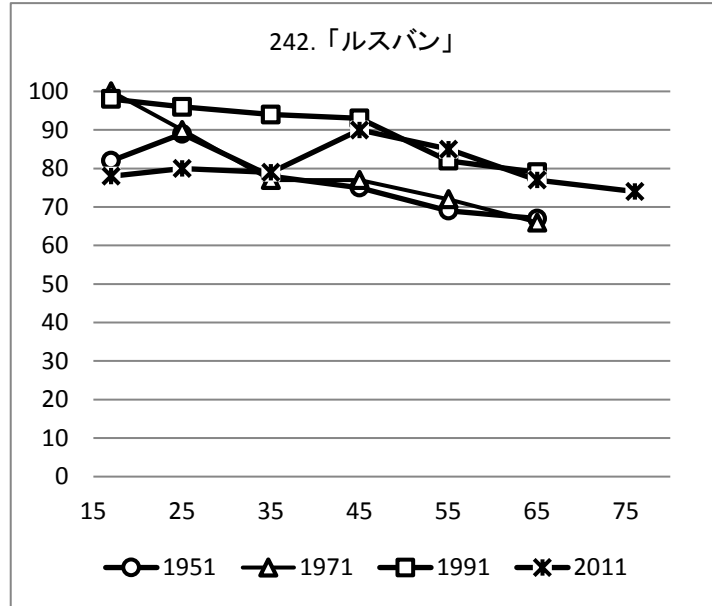
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	7			
1892-1901	17			
1902-1911	13	8		
1912-1921	8	6		
1922-1931	6	4	16	
1932-1941	8	6	4	5
1942-1951		2	5	2
1952-1961		0	2	1
1962-1971			2	0
1972-1981			0	0
1982-1991				0
1992-1996				0



242. 「ルスバン」

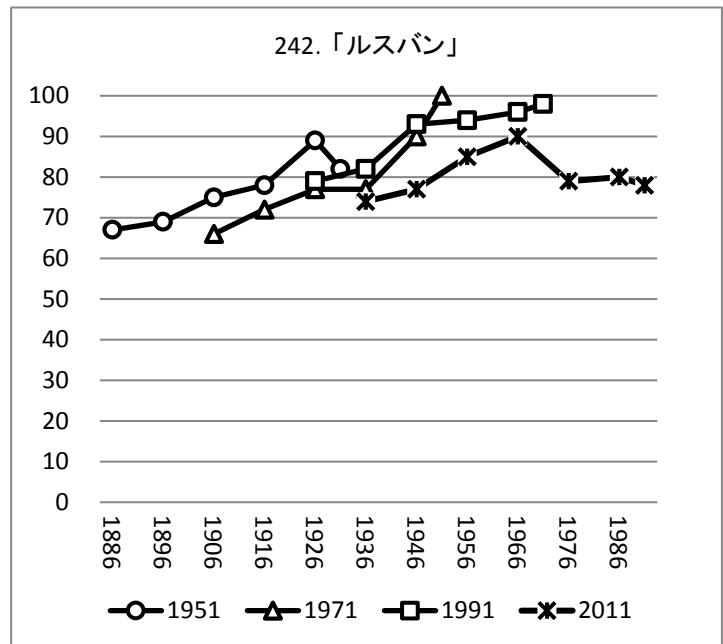
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	82	100	98	78
20-29歳	89	90	96	80
30-39歳	78	77	94	79
40-49歳	75	77	93	90
50-59歳	69	72	82	85
60-69歳	67	66	79	77
70-79歳	-	-	-	74
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

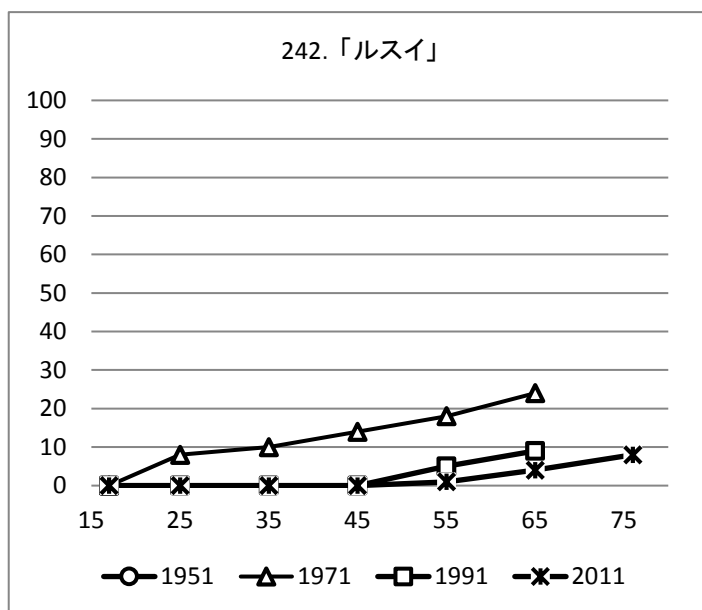
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	67			
1892-1901	69			
1902-1911	75	66		
1912-1921	78	72		
1922-1931	89	77	79	
1932-1941	82	77	82	74
1942-1951		90	93	77
1952-1961		100	94	85
1962-1971			96	90
1972-1981			98	79
1982-1991				80
1992-1996				78



242. 「ルスイ」

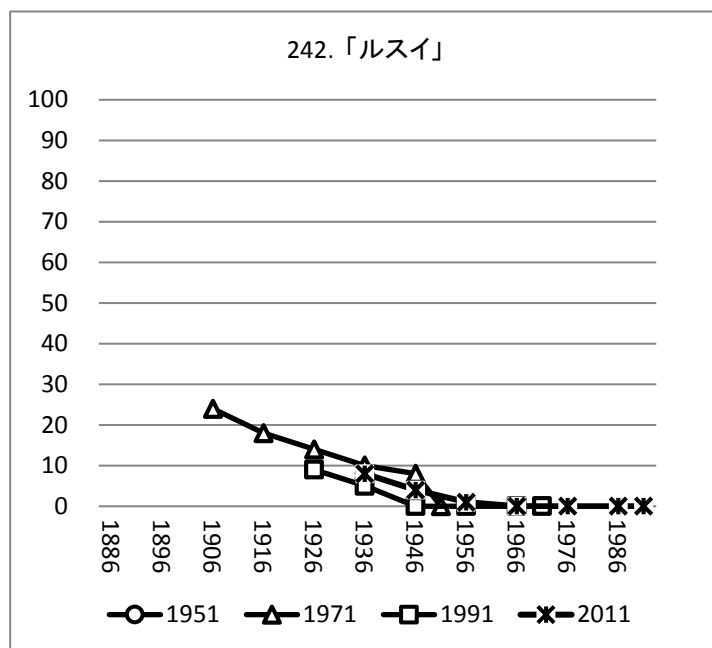
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	0	0	0
20-29歳	-	8	0	0
30-39歳	-	10	0	0
40-49歳	-	14	0	0
50-59歳	-	18	5	1
60-69歳	-	24	9	4
70-79歳	-	-	-	8
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

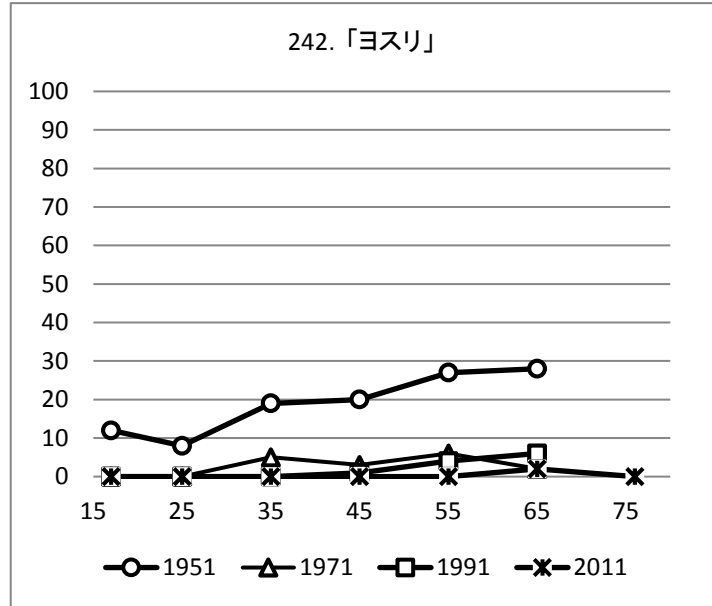
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	24	-	-
1912-1921	-	18	-	-
1922-1931	-	14	9	-
1932-1941	-	10	5	8
1942-1951	-	8	0	4
1952-1961	-	0	0	1
1962-1971	-	-	0	0
1972-1981	-	-	0	0
1982-1991	-	-	-	0
1992-1996	-	-	-	0



242. 「ヨスリ」

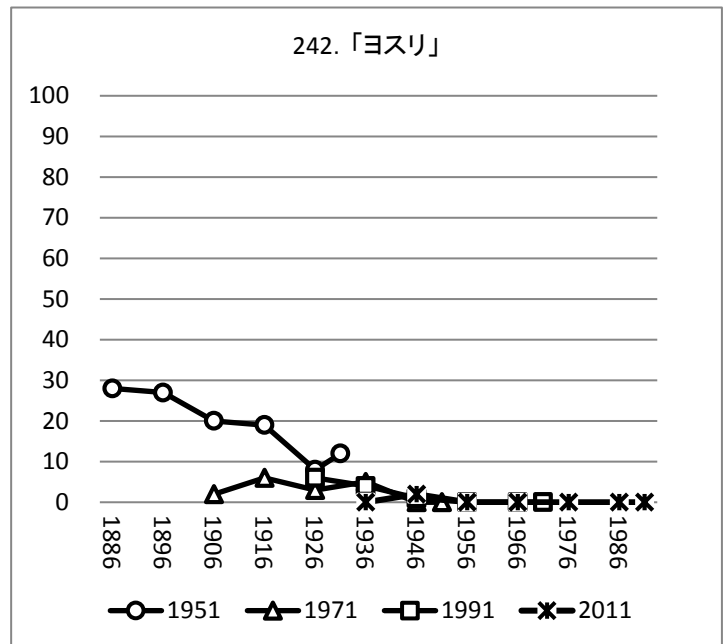
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	12	0	0	0
20-29歳	8	0	0	0
30-39歳	19	5	0	0
40-49歳	20	3	1	0
50-59歳	27	6	4	0
60-69歳	28	2	6	2
70-79歳	-	-	-	0
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

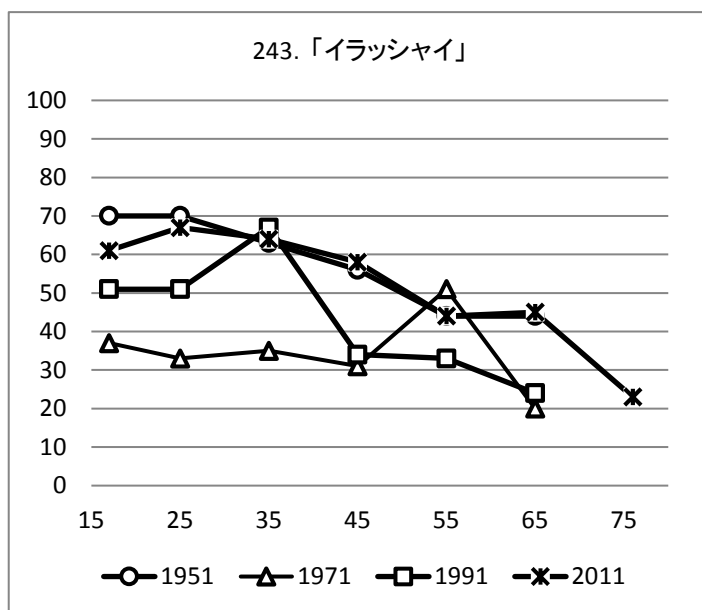
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	28			
1892-1901	27			
1902-1911	20	2		
1912-1921	19	6		
1922-1931	8	3	6	
1932-1941	12	5	4	0
1942-1951		0	1	2
1952-1961		0	0	0
1962-1971			0	0
1972-1981			0	0
1982-1991				0
1992-1996				0



243. 「イラッシャイ」

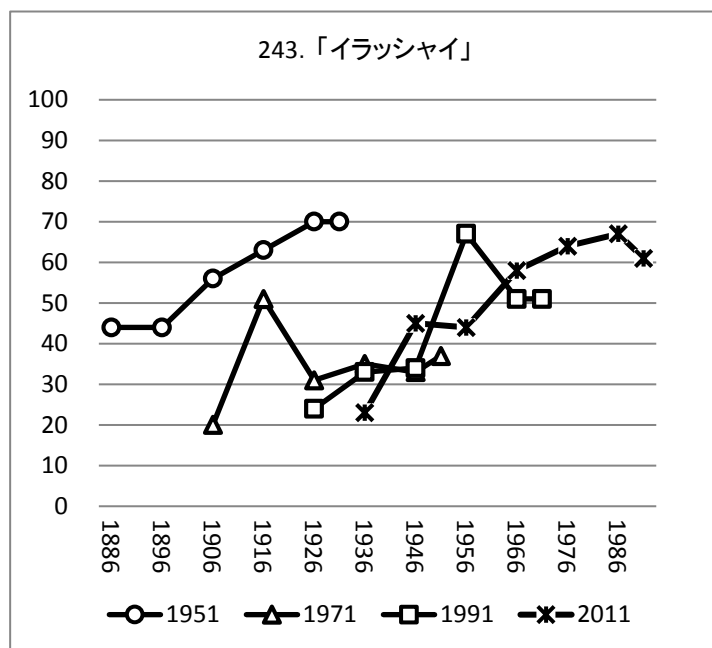
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	70	37	51	61
20-29歳	70	33	51	67
30-39歳	63	35	67	64
40-49歳	56	31	34	58
50-59歳	44	51	33	44
60-69歳	44	20	24	45
70-79歳	-	-	-	23
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

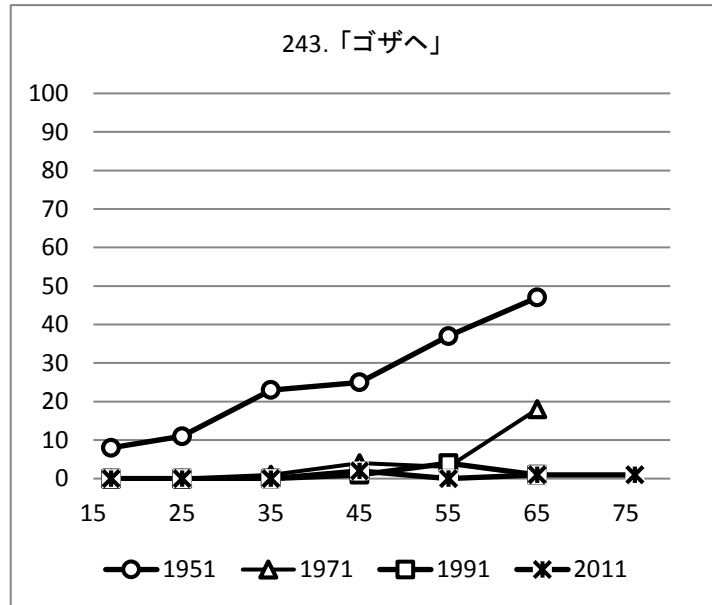
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44			
1892-1901	44			
1902-1911	56	20		
1912-1921	63	51		
1922-1931	70	31	24	
1932-1941	70	35	33	23
1942-1951		33	34	45
1952-1961		37	67	44
1962-1971			51	58
1972-1981			51	64
1982-1991				67
1992-1996				61



243. 「ゴザへ」

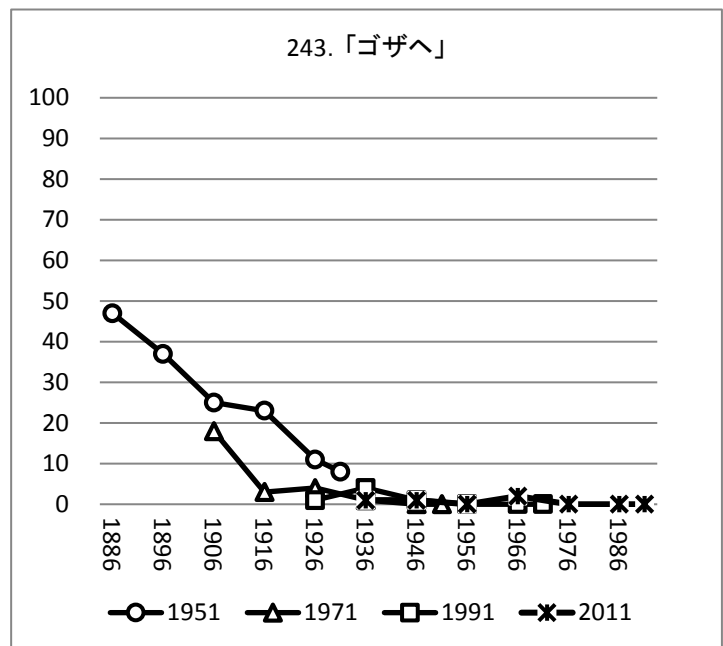
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	8	0	0	0
20-29歳	11	0	0	0
30-39歳	23	1	0	0
40-49歳	25	4	1	2
50-59歳	37	3	4	0
60-69歳	47	18	1	1
70-79歳	-	-	-	1
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

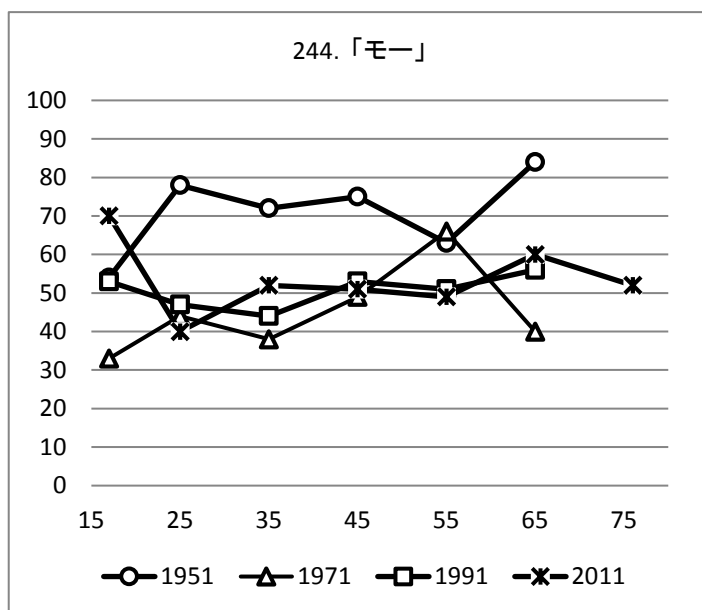
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	47			
1892-1901	37			
1902-1911	25	18		
1912-1921	23	3		
1922-1931	11	4	1	
1932-1941	8	1	4	1
1942-1951		0	1	1
1952-1961		0	0	0
1962-1971			0	2
1972-1981			0	0
1982-1991				0
1992-1996				0



244. 「毛一」

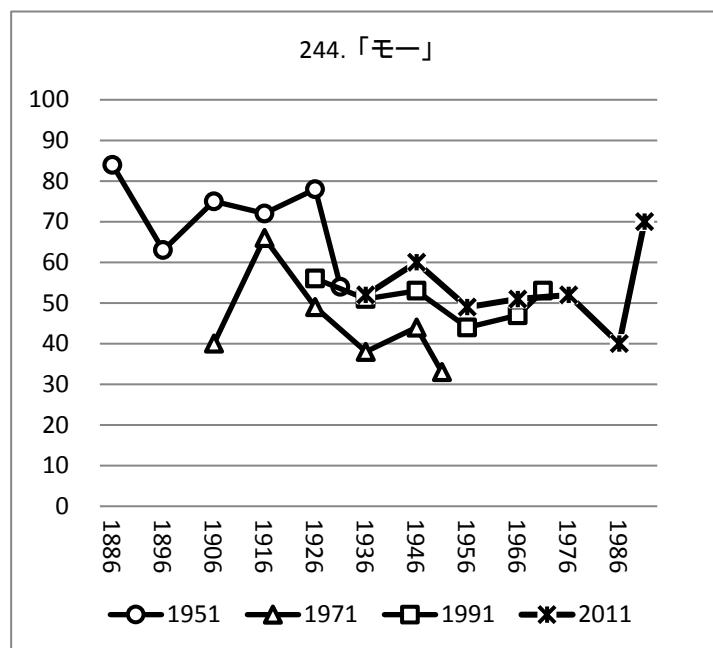
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	54	33	53	70
20-29歳	78	44	47	40
30-39歳	72	38	44	52
40-49歳	75	49	53	51
50-59歳	63	66	51	49
60-69歳	84	40	56	60
70-79歳	-	-	-	52
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

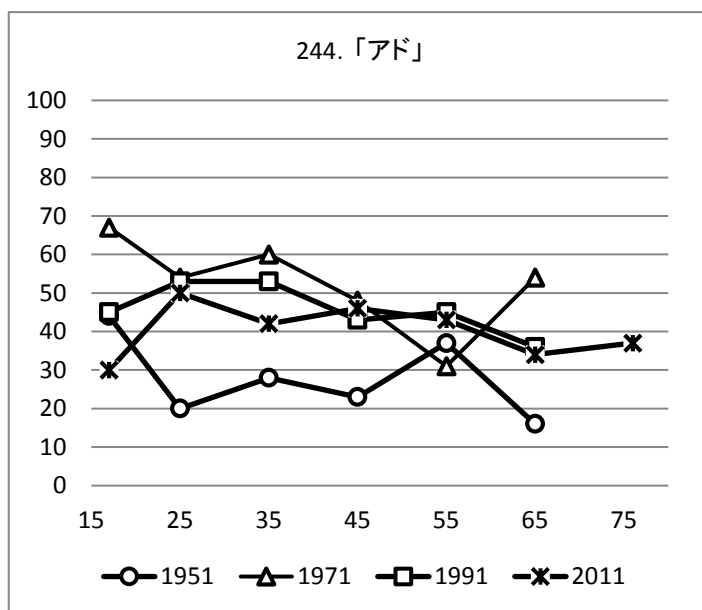
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	84			
1892-1901	63			
1902-1911	75	40		
1912-1921	72	66		
1922-1931	78	49	56	
1932-1941	54	38	51	52
1942-1951		44	53	60
1952-1961		33	44	49
1962-1971			47	51
1972-1981			53	52
1982-1991				40
1992-1996				70



244. 「アド」

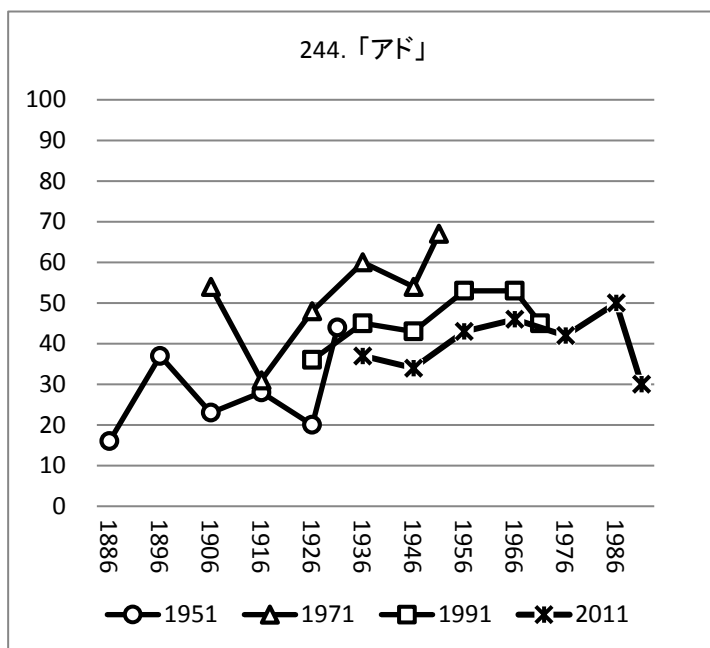
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	44	67	45	30
20-29歳	20	54	53	50
30-39歳	28	60	53	42
40-49歳	23	48	43	46
50-59歳	37	31	45	43
60-69歳	16	54	36	34
70-79歳	-	-	-	37
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

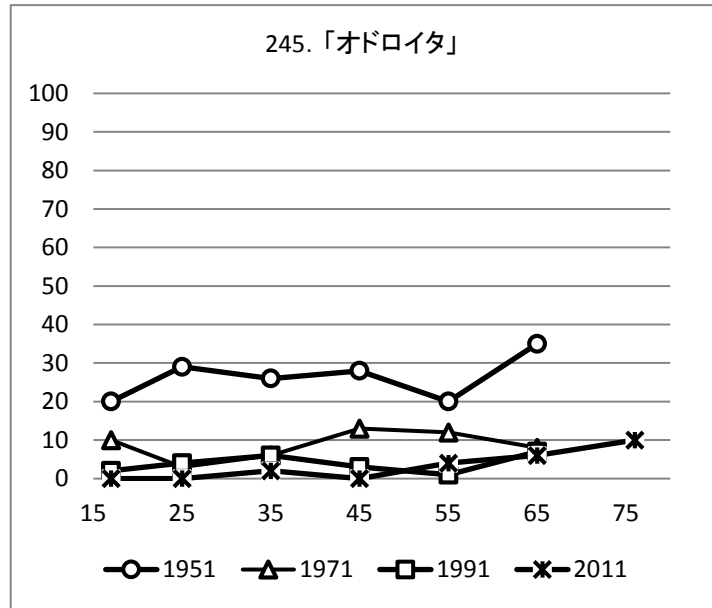
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	16			
1892-1901	37			
1902-1911	23	54		
1912-1921	28	31		
1922-1931	20	48	36	
1932-1941	44	60	45	37
1942-1951		54	43	34
1952-1961		67	53	43
1962-1971			53	46
1972-1981			45	42
1982-1991				50
1992-1996				30



245. 「オドロイタ」

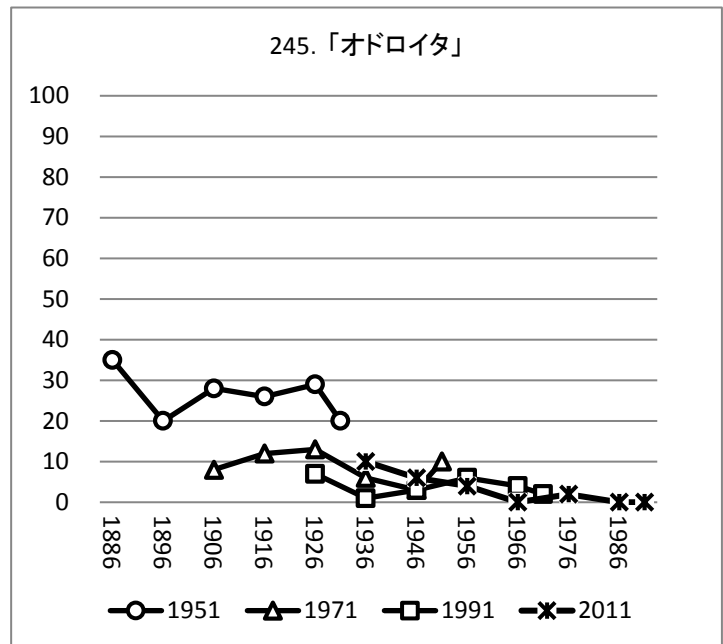
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	20	10	2	0
20-29歳	29	3	4	0
30-39歳	26	6	6	2
40-49歳	28	13	3	0
50-59歳	20	12	1	4
60-69歳	35	8	7	6
70-79歳	-	-	-	10
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

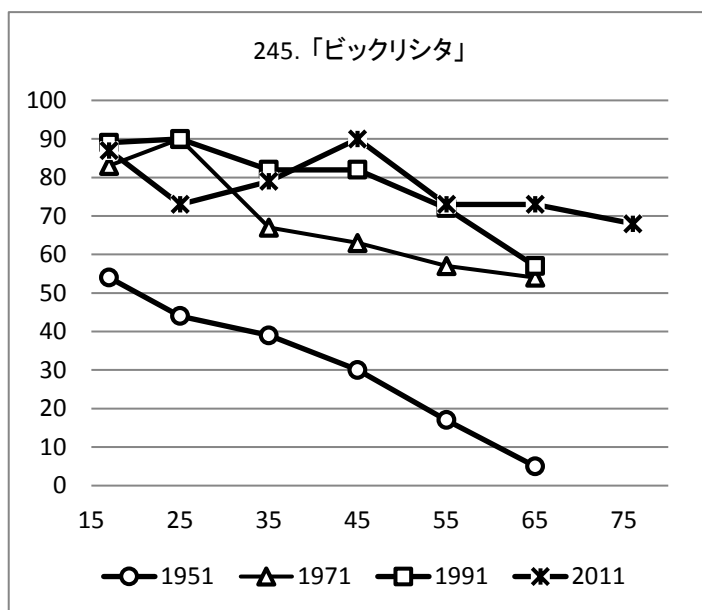
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35			
1892-1901	20			
1902-1911	28	8		
1912-1921	26	12		
1922-1931	29	13	7	
1932-1941	20	6	1	10
1942-1951		3	3	6
1952-1961		10	6	4
1962-1971			4	0
1972-1981			2	2
1982-1991				0
1992-1996				0



245. 「ビックリシタ」

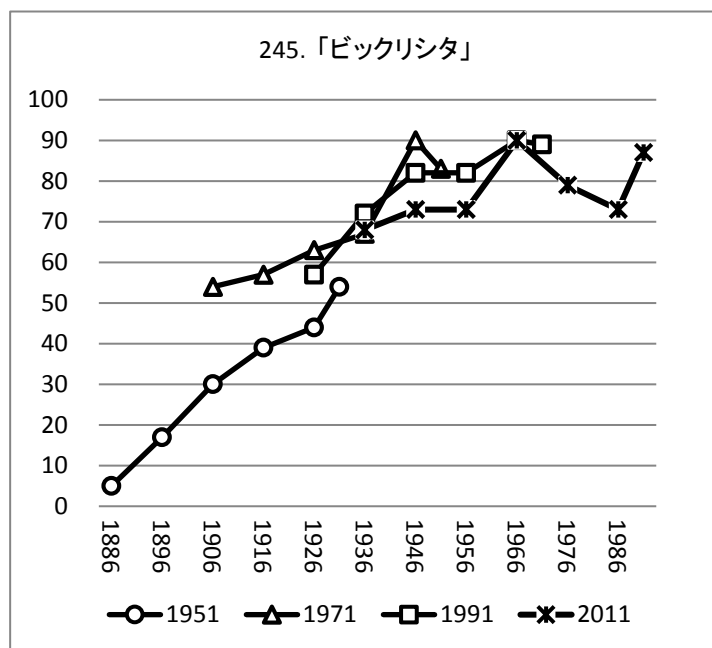
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	54	83	89	87
20-29歳	44	90	90	73
30-39歳	39	67	82	79
40-49歳	30	63	82	90
50-59歳	17	57	72	73
60-69歳	5	54	57	73
70-79歳	-	-	-	68
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

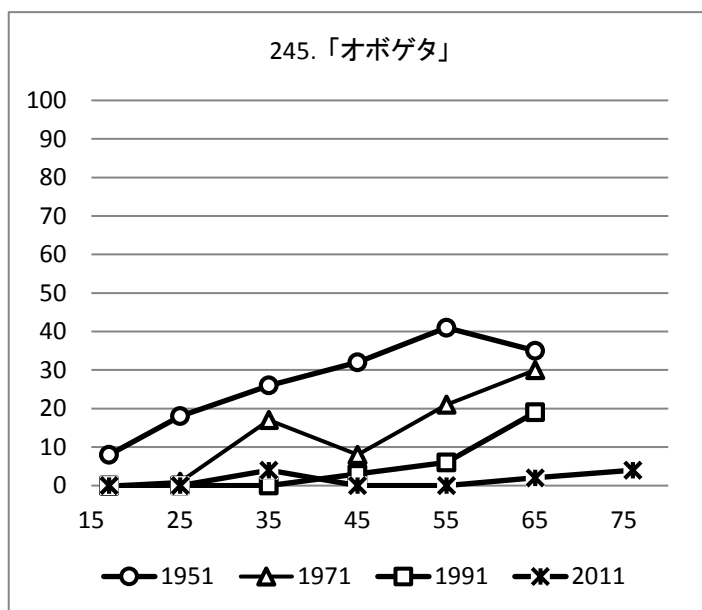
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	5			
1892-1901	17			
1902-1911	30	54		
1912-1921	39	57		
1922-1931	44	63	57	
1932-1941	54	67	72	68
1942-1951		90	82	73
1952-1961		83	82	73
1962-1971			90	90
1972-1981			89	79
1982-1991				73
1992-1996				87



245. 「オボゲタ」

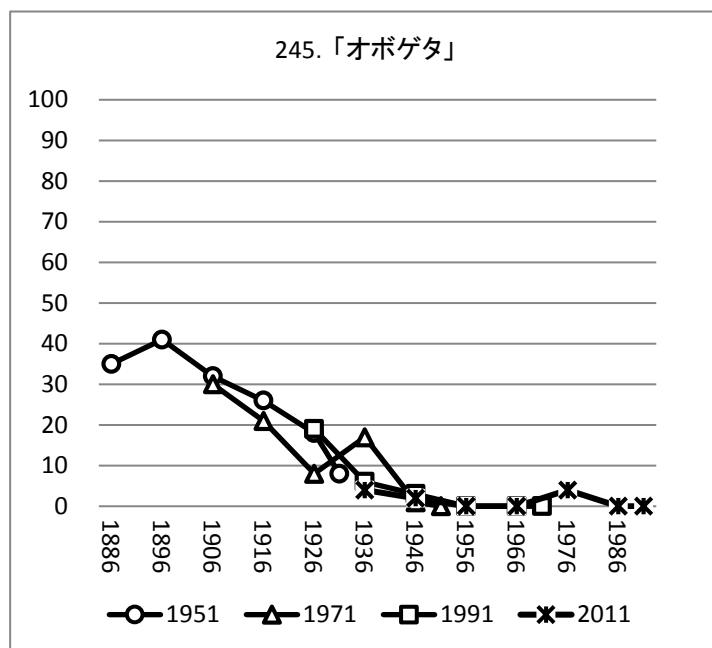
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	8	0	0	0
20-29歳	18	1	0	0
30-39歳	26	17	0	4
40-49歳	32	8	3	0
50-59歳	41	21	6	0
60-69歳	35	30	19	2
70-79歳	-	-	-	4
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

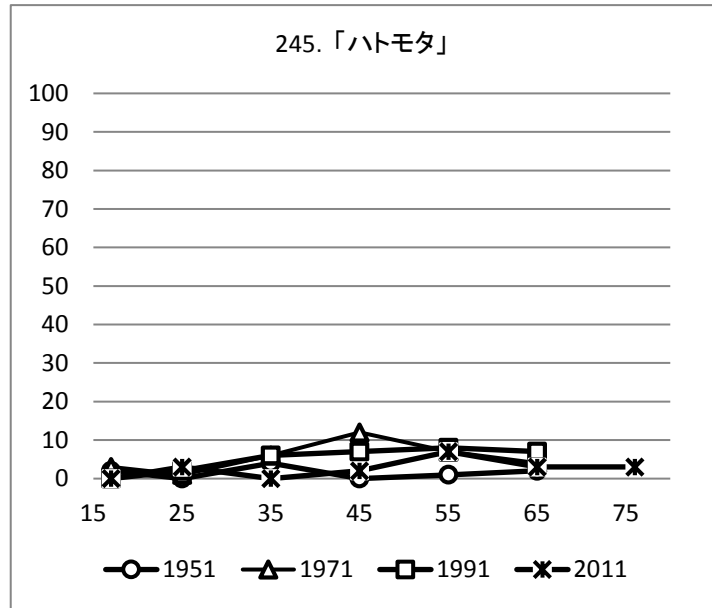
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35			
1892-1901	41			
1902-1911	32	30		
1912-1921	26	21		
1922-1931	18	8	19	
1932-1941	8	17	6	4
1942-1951		1	3	2
1952-1961		0	0	0
1962-1971			0	0
1972-1981			0	4
1982-1991				0
1992-1996				0



245. 「ハトモタ」

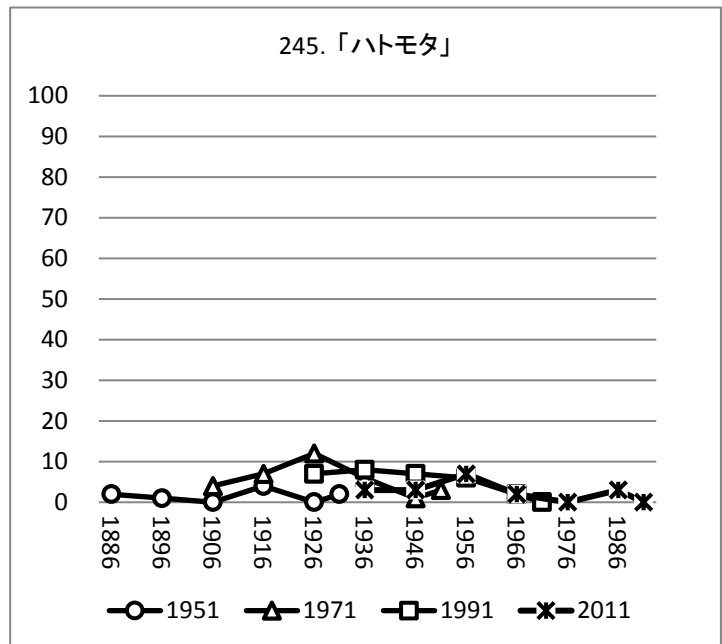
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	2	3	0	0
20-29歳	0	1	2	3
30-39歳	4	6	6	0
40-49歳	0	12	7	2
50-59歳	1	7	8	7
60-69歳	2	4	7	3
70-79歳	-	-	-	3
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

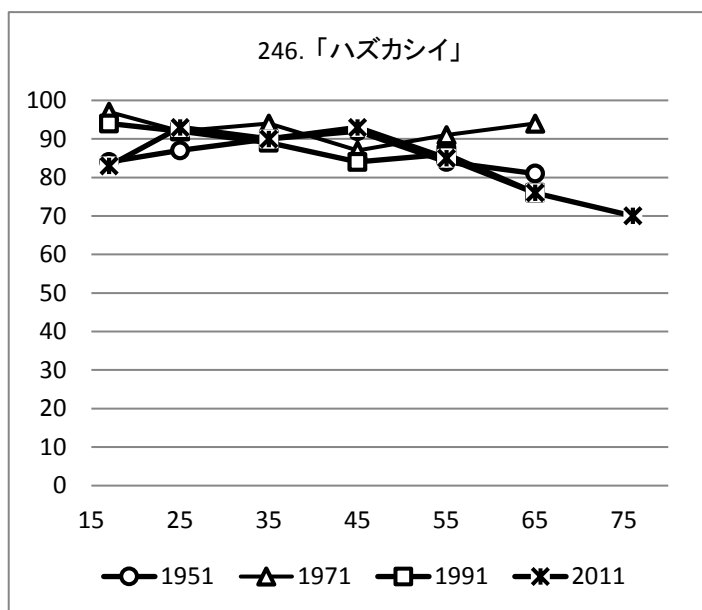
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	2			
1892-1901	1			
1902-1911	0	4		
1912-1921	4	7		
1922-1931	0	12	7	
1932-1941	2	6	8	3
1942-1951		1	7	3
1952-1961		3	6	7
1962-1971			2	2
1972-1981			0	0
1982-1991				3
1992-1996				0



246. 「ハズカシイ」

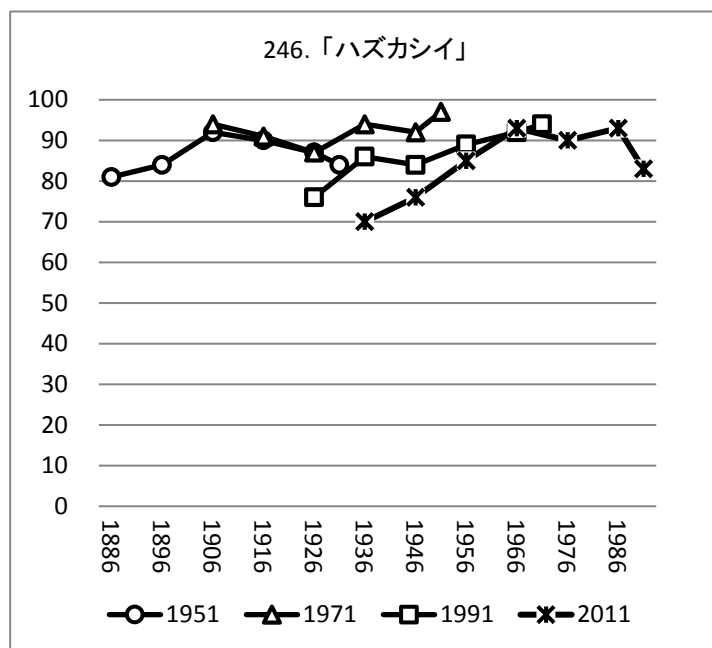
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	84	97	94	83
20-29歳	87	92	92	93
30-39歳	90	94	89	90
40-49歳	92	87	84	93
50-59歳	84	91	86	85
60-69歳	81	94	76	76
70-79歳	-	-	-	70
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

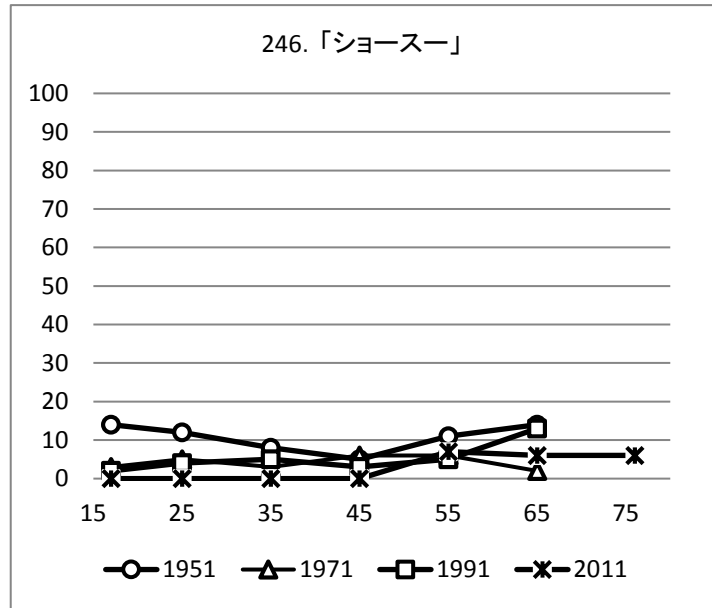
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	81			
1892-1901	84			
1902-1911	92	94		
1912-1921	90	91		
1922-1931	87	87	76	
1932-1941	84	94	86	70
1942-1951		92	84	76
1952-1961		97	89	85
1962-1971			92	93
1972-1981			94	90
1982-1991				93
1992-1996				83



246. 「シヨースー」

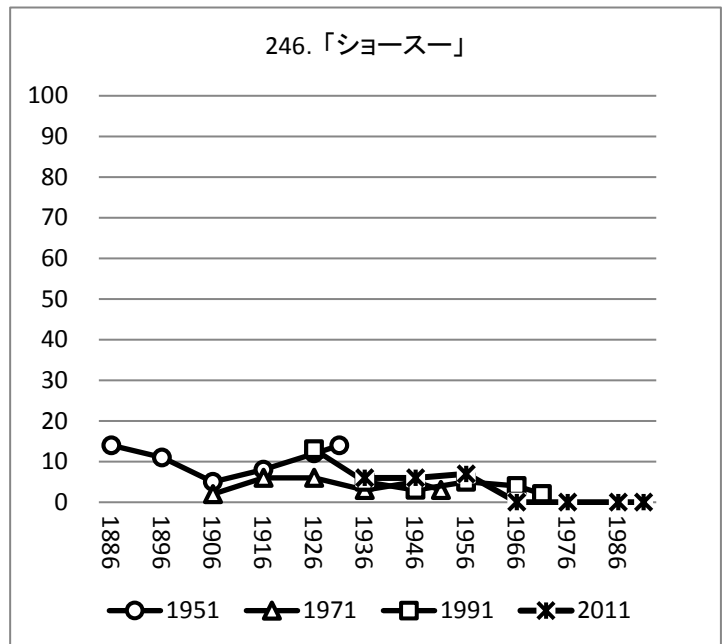
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	14	3	2	0
20-29歳	12	5	4	0
30-39歳	8	3	5	0
40-49歳	5	6	3	0
50-59歳	11	6	5	7
60-69歳	14	2	13	6
70-79歳	-	-	-	6
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	14			
1892-1901	11			
1902-1911	5	2		
1912-1921	8	6		
1922-1931	12	6	13	
1932-1941	14	3	5	6
1942-1951		5	3	6
1952-1961		3	5	7
1962-1971			4	0
1972-1981			2	0
1982-1991				0
1992-1996				0

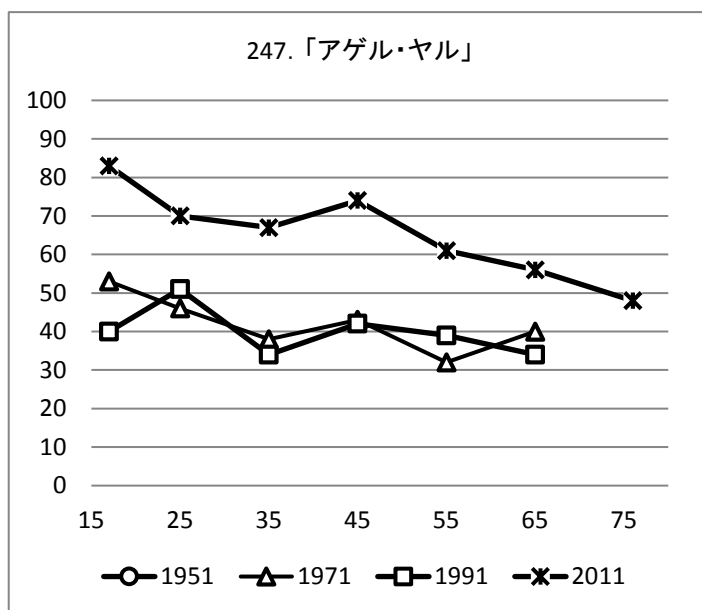


1.3 第2回調査以降に実施された項目

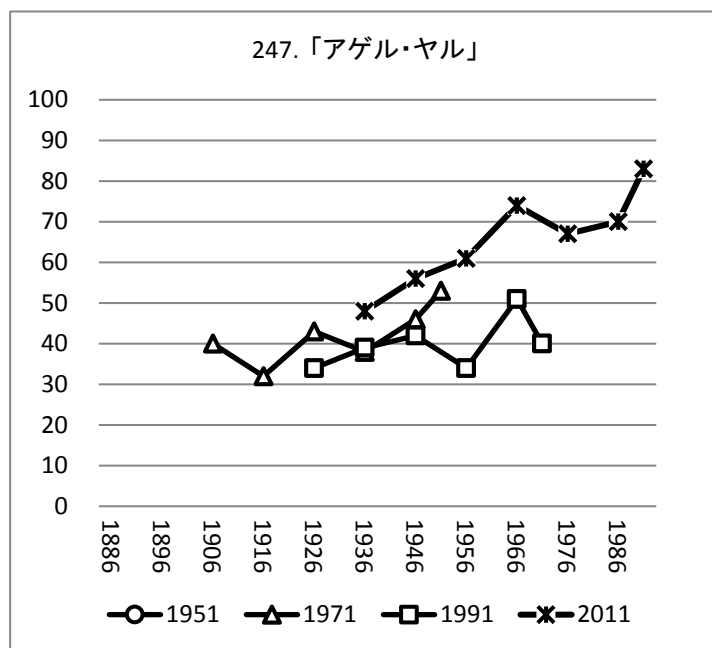
247. 「アゲル・ヤル」

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	53	40	83
20-29歳	-	46	51	70
30-39歳	-	38	34	67
40-49歳	-	43	42	74
50-59歳	-	32	39	61
60-69歳	-	40	34	56
70-79歳	-	-	-	48
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



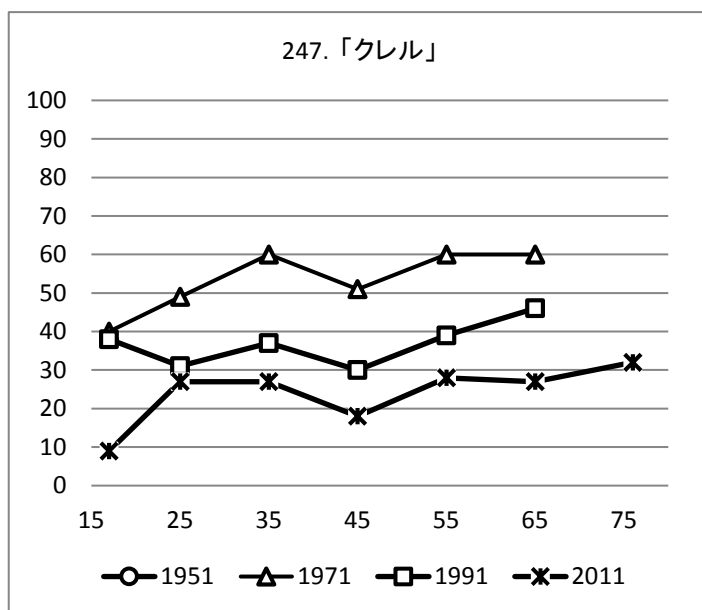
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	40	-	-
1912-1921	-	32	-	-
1922-1931	-	43	34	-
1932-1941	-	38	39	48
1942-1951	-	46	42	56
1952-1961	-	53	34	61
1962-1971	-	-	51	74
1972-1981	-	-	40	67
1982-1991	-	-	-	70
1992-1996	-	-	-	83



247. 「クレル」

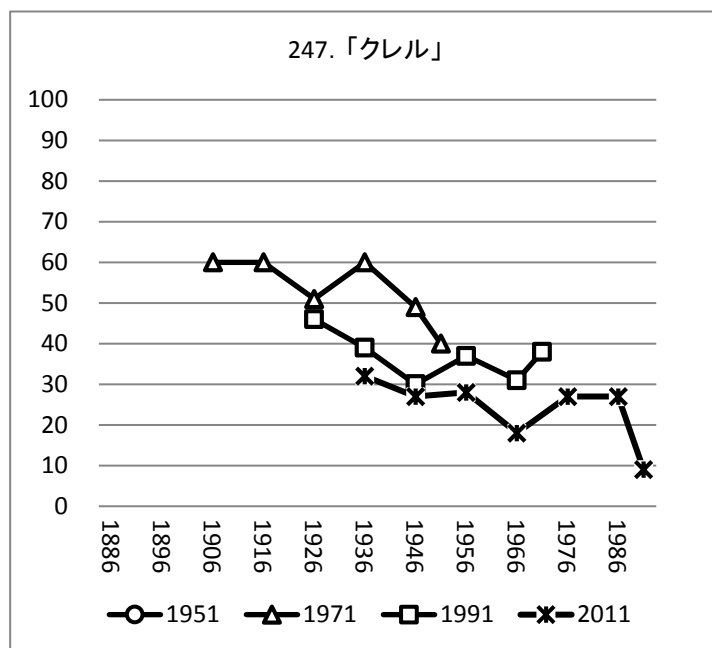
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	40	38	9
20-29歳	-	49	31	27
30-39歳	-	60	37	27
40-49歳	-	51	30	18
50-59歳	-	60	39	28
60-69歳	-	60	46	27
70-79歳	-	-	-	32
15-69歳	66	88	91	0
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

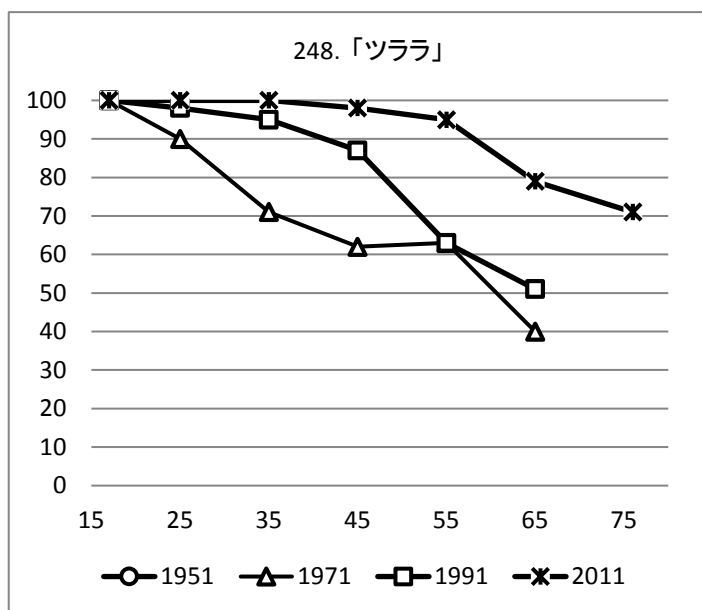
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	60	-	-
1912-1921	-	60	-	-
1922-1931	-	51	46	-
1932-1941	-	60	39	32
1942-1951	-	49	30	27
1952-1961	-	40	37	28
1962-1971	-	-	31	18
1972-1981	-	-	38	27
1982-1991	-	-	-	27
1992-1996	-	-	-	9



248. 「ツララ」

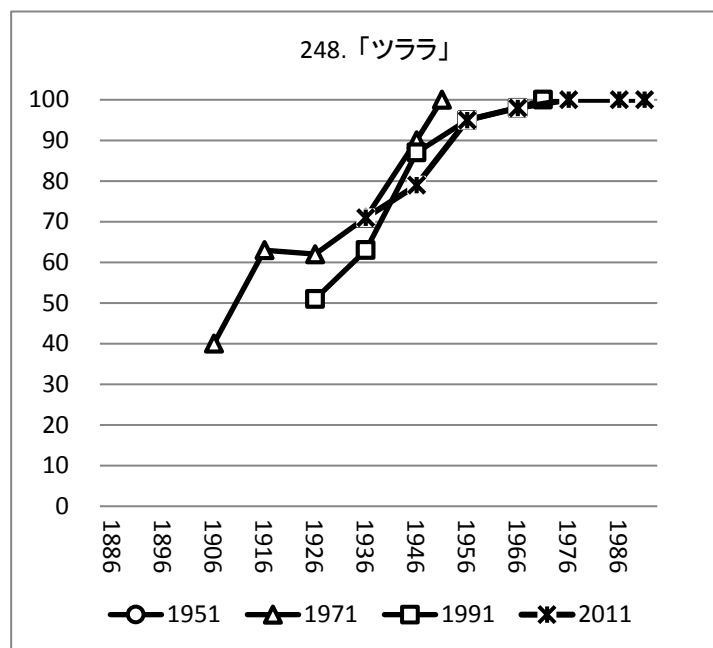
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	100	100	100
20-29歳	-	90	98	100
30-39歳	-	71	95	100
40-49歳	-	62	87	98
50-59歳	-	63	63	95
60-69歳	-	40	51	79
70-79歳	-	-	-	71
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

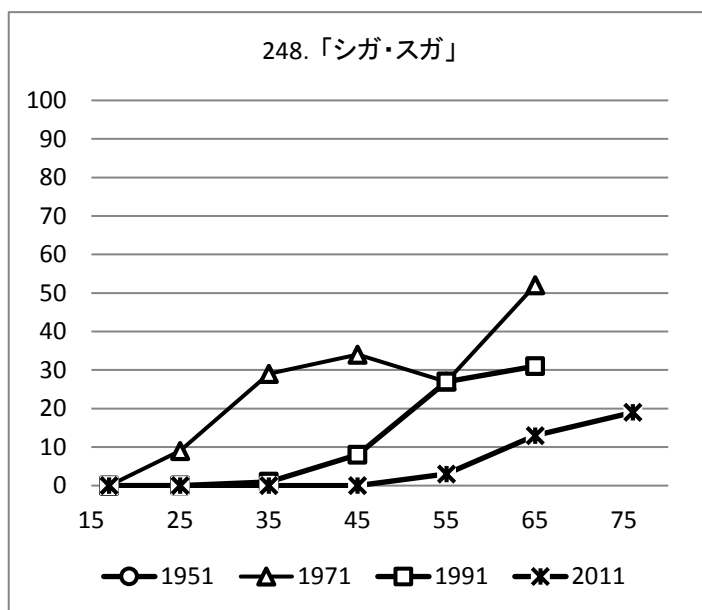
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	40	-	-
1912-1921	-	63	-	-
1922-1931	-	62	51	-
1932-1941	-	71	63	71
1942-1951	-	90	87	79
1952-1961	-	100	95	95
1962-1971	-	-	98	98
1972-1981	-	-	100	100
1982-1991	-	-	-	100
1992-1996	-	-	-	100



248. 「シガ・スガ」

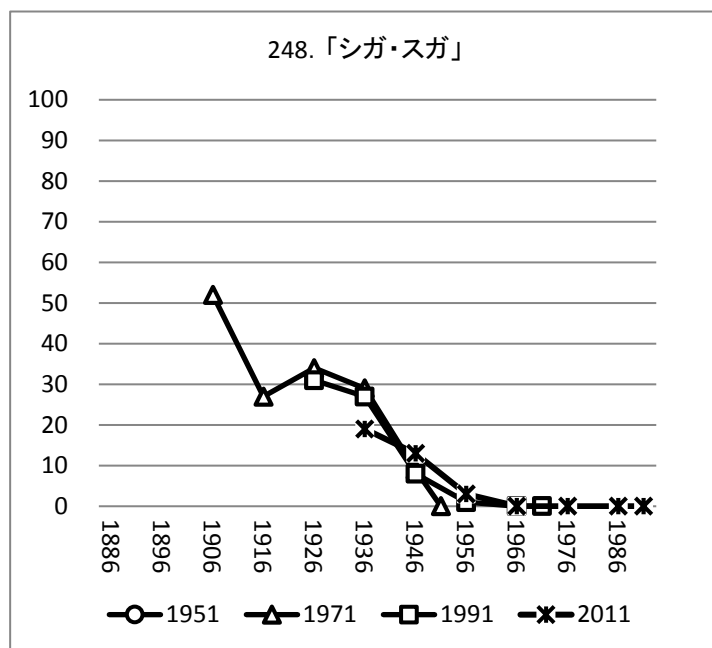
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	0	0	0
20-29歳	-	9	0	0
30-39歳	-	29	1	0
40-49歳	-	34	8	0
50-59歳	-	27	27	3
60-69歳	-	52	31	13
70-79歳	-	-	-	19
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

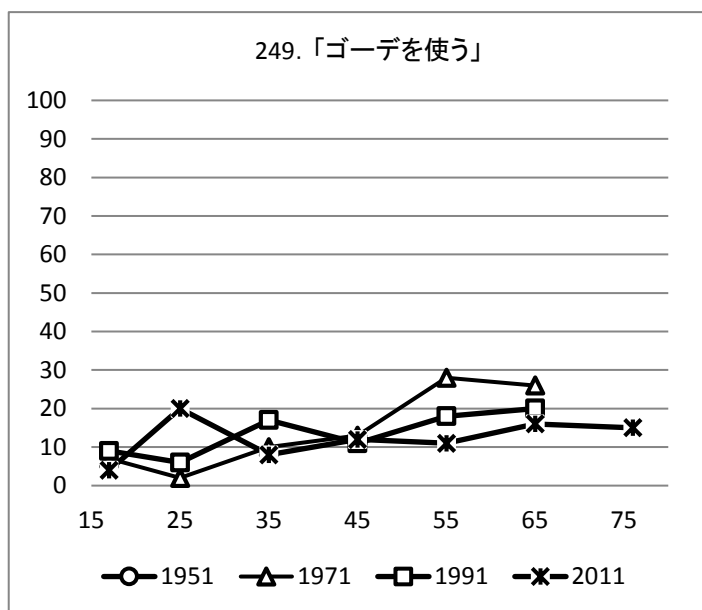
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	52	-	-
1912-1921	-	27	-	-
1922-1931	-	34	31	-
1932-1941	-	29	27	19
1942-1951	-	9	8	13
1952-1961	-	0	1	3
1962-1971	-	-	0	0
1972-1981	-	-	0	0
1982-1991	-	-	-	0
1992-1996	-	-	-	0



249. 「ゴードを使う」

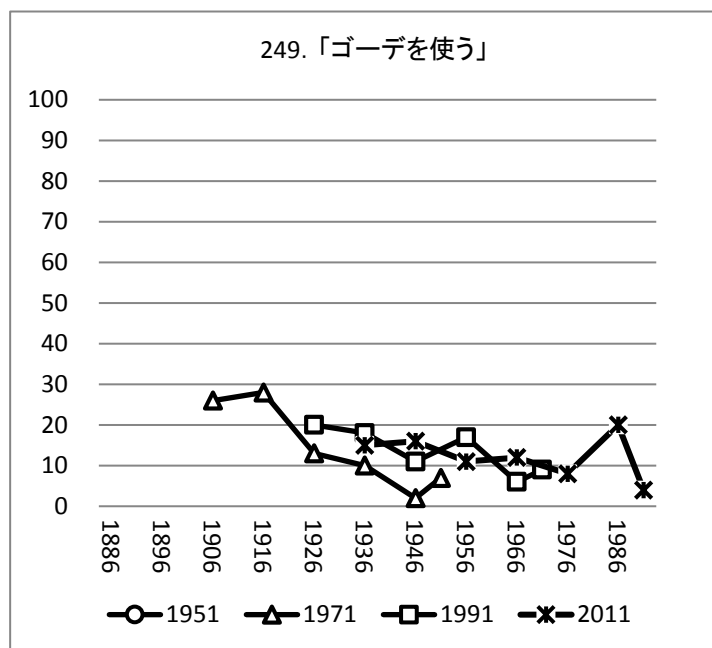
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	7	9	4
20-29歳	-	2	6	20
30-39歳	-	10	17	8
40-49歳	-	13	11	12
50-59歳	-	28	18	11
60-69歳	-	26	20	16
70-79歳	-	-	-	15
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

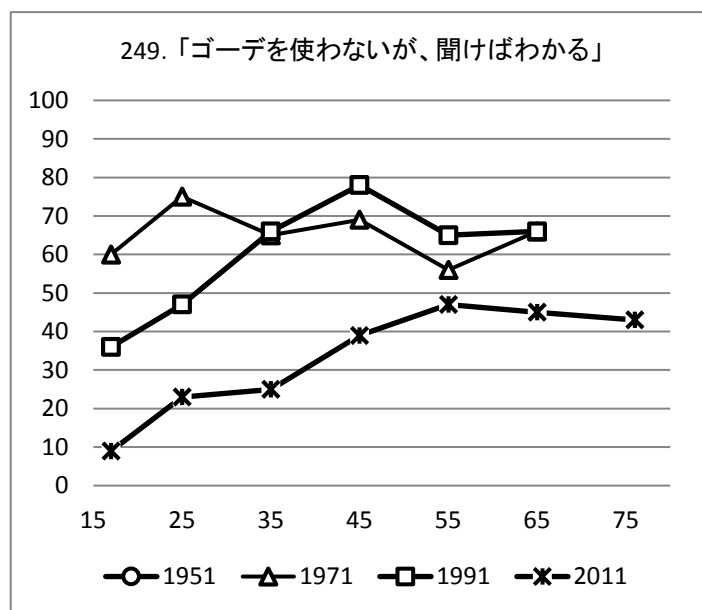
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	26	-	-
1912-1921	-	28	-	-
1922-1931	-	13	20	-
1932-1941	-	10	18	15
1942-1951	-	2	11	16
1952-1961	-	7	17	11
1962-1971	-	-	6	12
1972-1981	-	-	9	8
1982-1991	-	-	-	20
1992-1996	-	-	-	4



249. 「ゴードを使わないが、聞けばわかる」

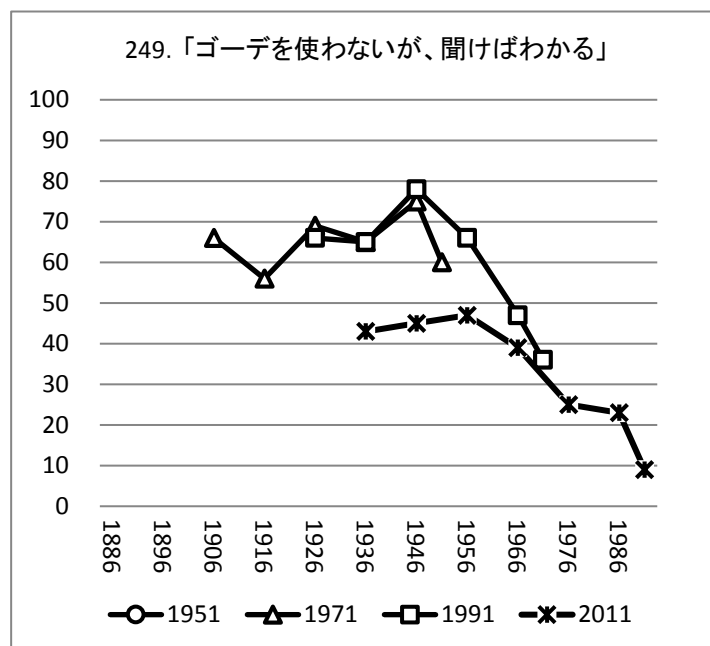
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	60	36	9
20-29歳	-	75	47	23
30-39歳	-	65	66	25
40-49歳	-	69	78	39
50-59歳	-	56	65	47
60-69歳	-	66	66	45
70-79歳	-	-	-	43
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

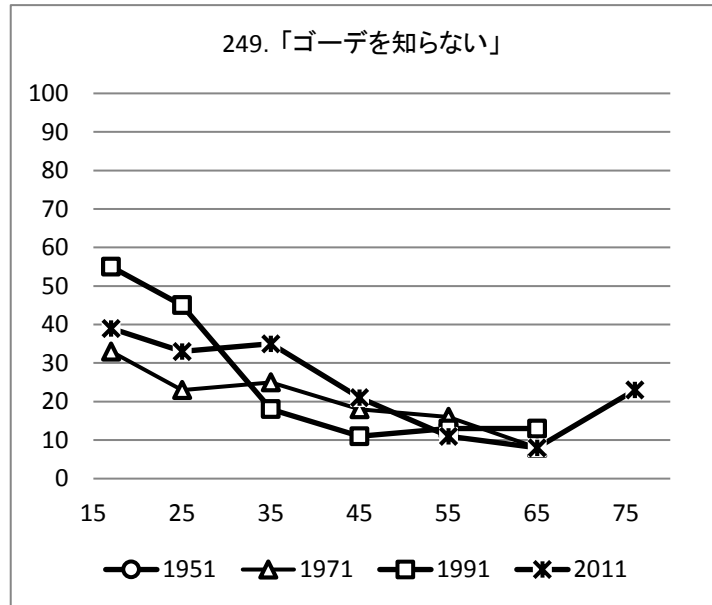
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	66	-	-
1912-1921	-	56	-	-
1922-1931	-	69	66	-
1932-1941	-	65	65	43
1942-1951	-	75	78	45
1952-1961	-	60	66	47
1962-1971	-	-	47	39
1972-1981	-	-	36	25
1982-1991	-	-	-	23
1992-1996	-	-	-	9



249. 「ゴードを知らない」

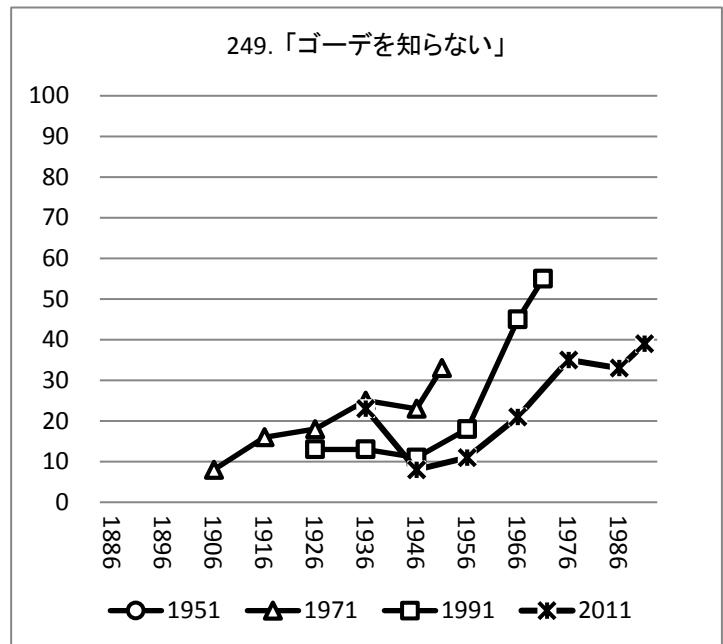
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	33	55	39
20-29歳	-	23	45	33
30-39歳	-	25	18	35
40-49歳	-	18	11	21
50-59歳	-	16	13	11
60-69歳	-	8	13	8
70-79歳	-	-	-	23
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	8	-	-
1912-1921	-	16	-	-
1922-1931	-	18	13	-
1932-1941	-	25	13	23
1942-1951	-	23	11	8
1952-1961	-	33	18	11
1962-1971	-	-	45	21
1972-1981	-	-	55	35
1982-1991	-	-	-	33
1992-1996	-	-	-	39



2.1. 文法（語法）項目の内容

語彙に関しては以下に挙げる 11 項目について調査した。〔 〕内は調査票の質問番号である。(1)～(8)は第 1 回～第 4 回調査の 4 回の調査結果が得られた項目である。(9)～(11)は、第 1 回調査では調査しておらず、第 2 回調査以降に実施された項目である。

< 4 回の調査結果が得られた項目 >

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (1) 起きろ [261] | 動詞の活用に関するもの (命令) |
| (2) わたくしたち [262] | 人称代名詞に関するもの |
| (3) 見に行く [263.] | 格助詞に関するもの |
| (4) 行くから [264.] | 接続助詞に関するもの (原因・理由) |
| (5) 行くけれども [265.] | 接続助詞に関するもの (逆接) |
| (6) 強かったなあ [266.] | 助動詞に関するもの |
| (7) 勉強しないで [267] | 動詞の活用に関するもの (否定) |
| (8) 静かなら [268] | 接続助詞に関するもの (条件) |

< 第 2 回調査以降に実施された項目 >

- (9) あなたを [269.]
- (10) そうです [270.]
- (11) かいたのか [271.]

なお、(10)は設問番号 101.と同じことを別の項目として聞いたものである。この 2 項目の回答が同じになるかどうかを見ようとしている (国立国語研究所 1974)。また、(11)は岡崎敬語調査との比較のために、第 2 回調査で追加した項目である。

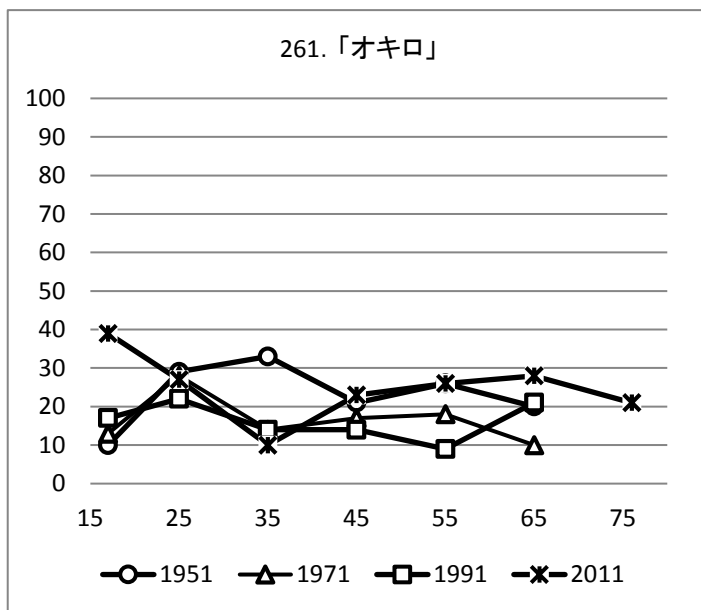
国立国語研究所 (1974) 『地域社会の言語生活－鶴岡における 20 年前との比較－』秀英出版

2.2 4回の調査結果が得られた項目

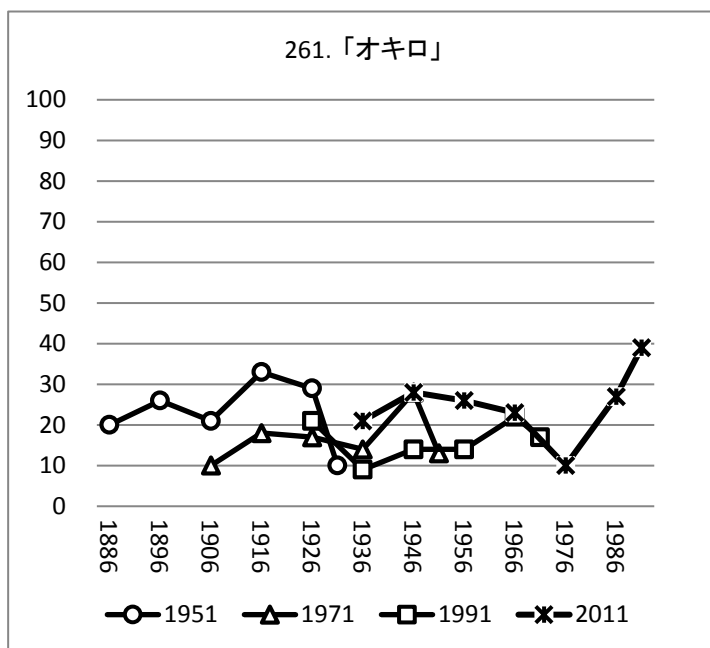
261. 「オキ口」

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	10	13	17	39
20-29歳	29	28	22	27
30-39歳	33	14	14	10
40-49歳	21	17	14	23
50-59歳	26	18	9	26
60-69歳	20	10	21	28
70-79歳	-	-	-	21
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



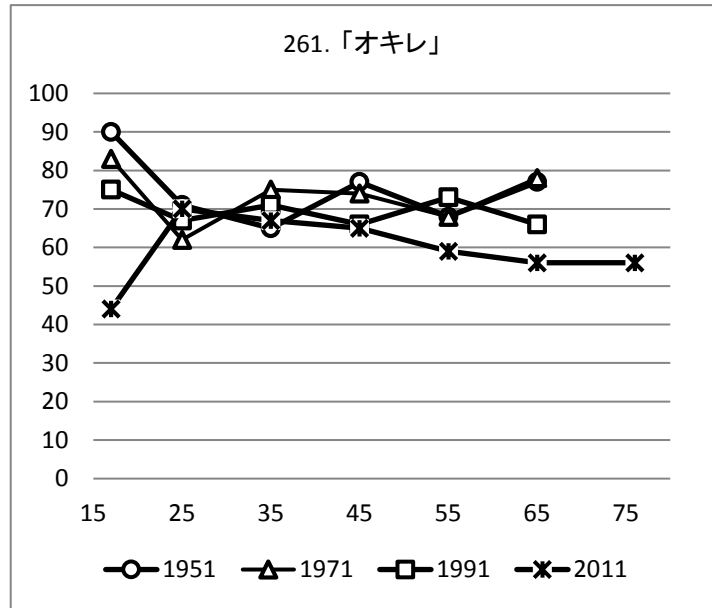
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	20			
1892-1901	26			
1902-1911	21	10		
1912-1921	33	18		
1922-1931	29	17	21	
1932-1941	10	14	9	21
1942-1951		28	14	28
1952-1961		13	14	26
1962-1971			22	23
1972-1981			17	10
1982-1991				27
1992-1996				39



261. 「オキレ」

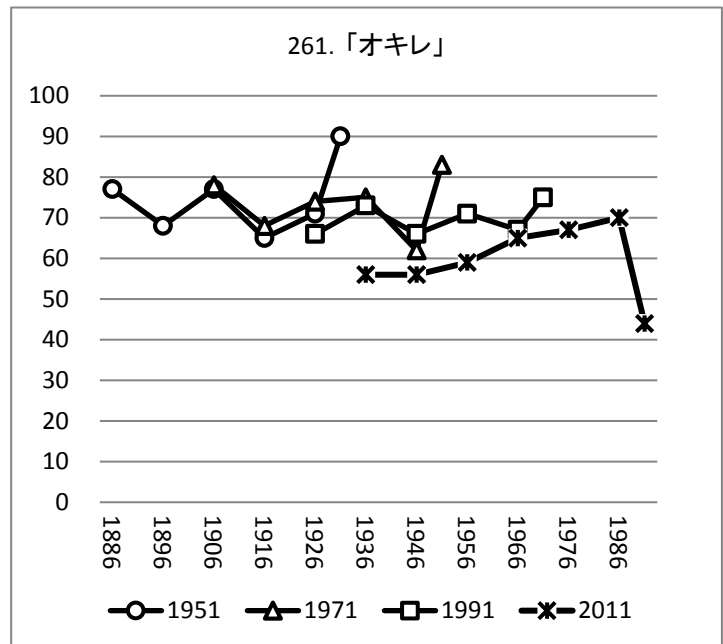
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	90	83	75	44
20-29歳	71	62	67	70
30-39歳	65	75	71	67
40-49歳	77	74	66	65
50-59歳	68	68	73	59
60-69歳	77	78	66	56
70-79歳	-	-	-	56
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

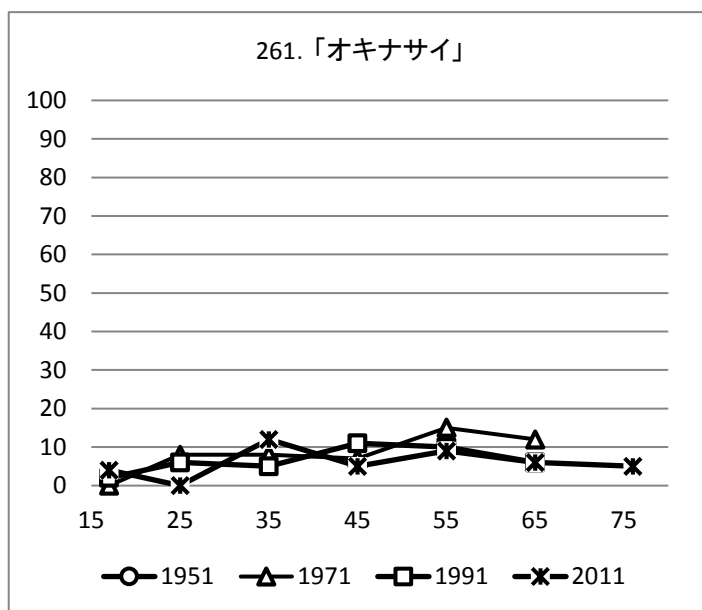
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	77			
1892-1901	68			
1902-1911	77	78		
1912-1921	65	68		
1922-1931	71	74	66	
1932-1941	90	75	73	56
1942-1951		62	66	56
1952-1961		83	71	59
1962-1971			67	65
1972-1981			75	67
1982-1991				70
1992-1996				44



261. 「オキナサイ」

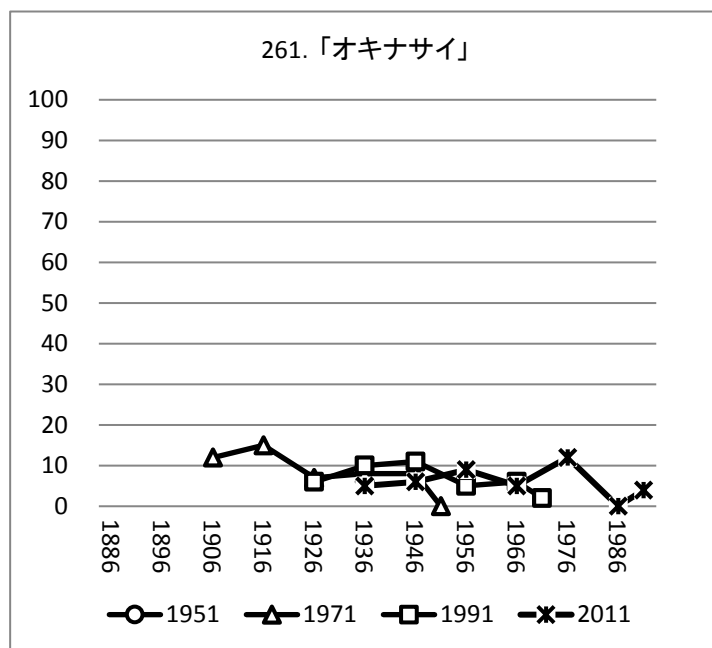
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	0	2	4
20-29歳	-	8	6	0
30-39歳	-	8	5	12
40-49歳	-	7	11	5
50-59歳	-	15	10	9
60-69歳	-	12	6	6
70-79歳	-	-	-	5
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

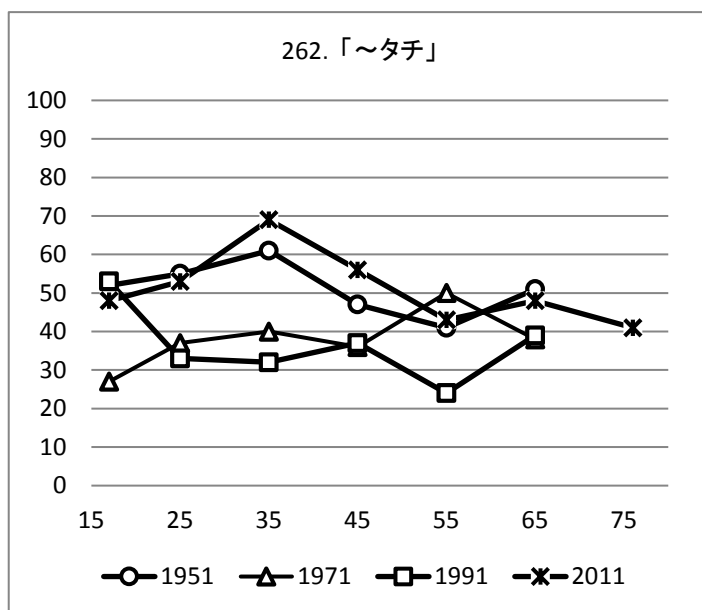
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	12	-	-
1912-1921	-	15	-	-
1922-1931	-	7	6	-
1932-1941	-	8	10	5
1942-1951	-	8	11	6
1952-1961	-	0	5	9
1962-1971	-	-	6	5
1972-1981	-	-	2	12
1982-1991	-	-	-	0
1992-1996	-	-	-	4



262. 「～タチ」

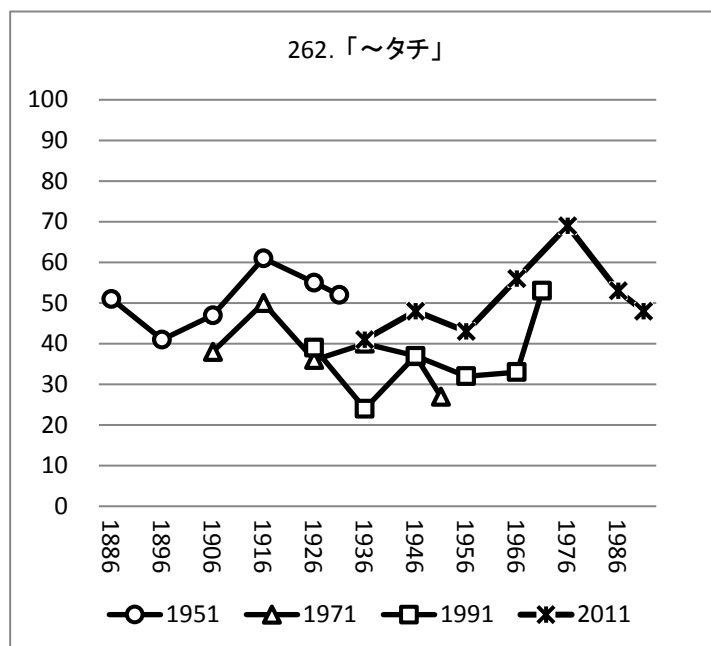
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	52	27	53	48
20-29歳	55	37	33	53
30-39歳	61	40	32	69
40-49歳	47	36	37	56
50-59歳	41	50	24	43
60-69歳	51	38	39	48
70-79歳	-	-	-	41
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

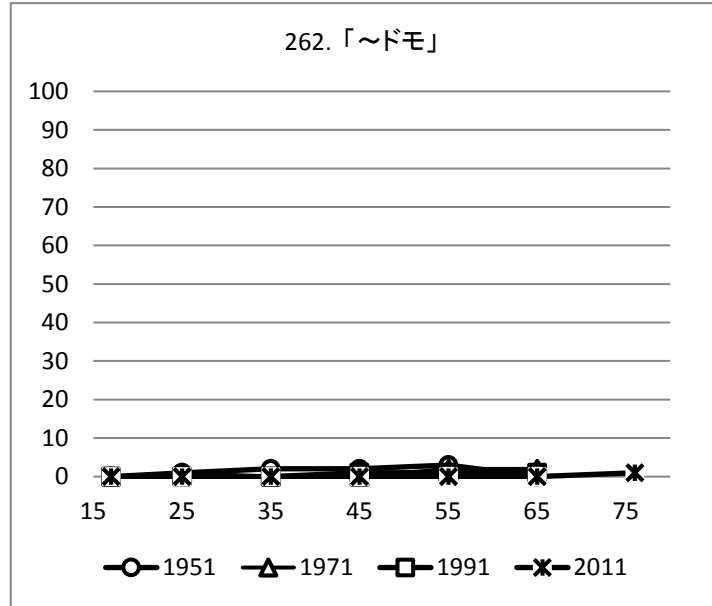
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	51			
1892-1901	41			
1902-1911	47	38		
1912-1921	61	50		
1922-1931	55	36	39	
1932-1941	52	40	24	41
1942-1951		37	37	48
1952-1961		27	32	43
1962-1971			33	56
1972-1981			53	69
1982-1991				53
1992-1996				48



262. 「～ドモ」

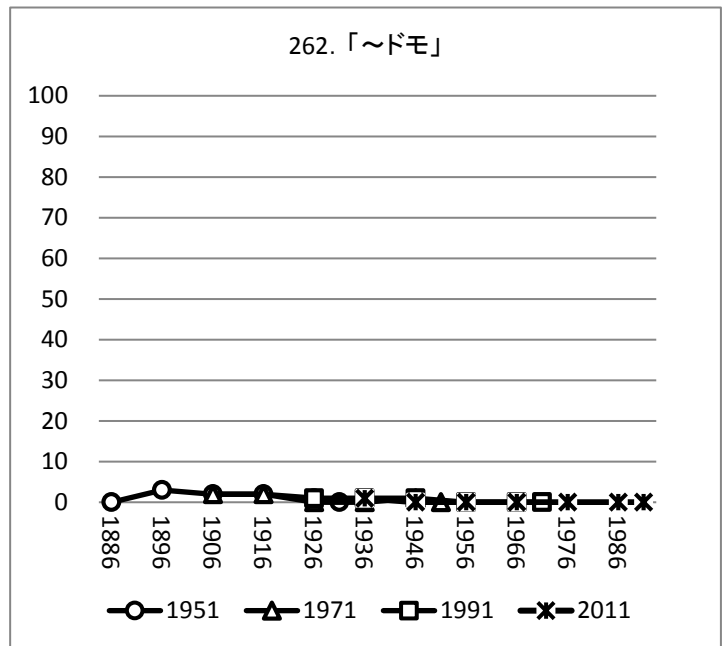
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	0	0	0	0
20-29歳	1	1	0	0
30-39歳	2	0	0	0
40-49歳	2	0	1	0
50-59歳	3	2	1	0
60-69歳	0	2	1	0
70-79歳	-	-	-	1
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

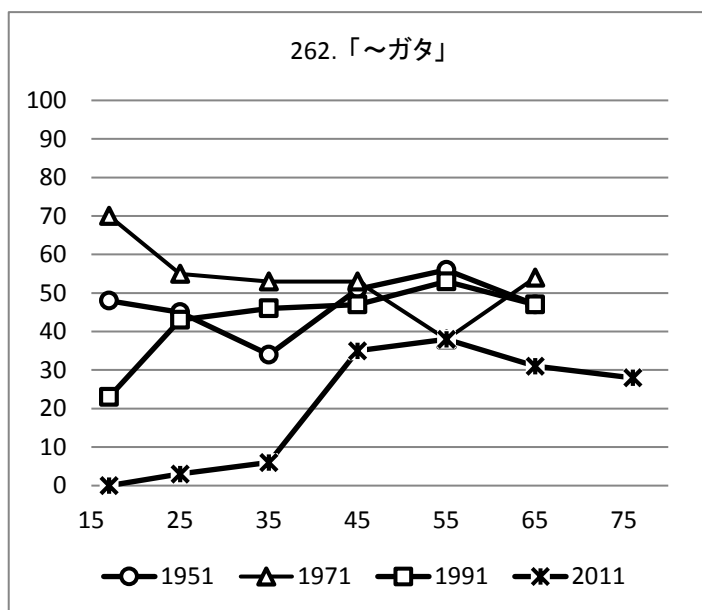
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	0			
1892-1901	3			
1902-1911	2	2		
1912-1921	2	2		
1922-1931	1	0	1	
1932-1941	0	0	1	1
1942-1951		1	1	0
1952-1961		0	0	0
1962-1971			0	0
1972-1981			0	0
1982-1991				0
1992-1996				0



262. 「～ガタ」

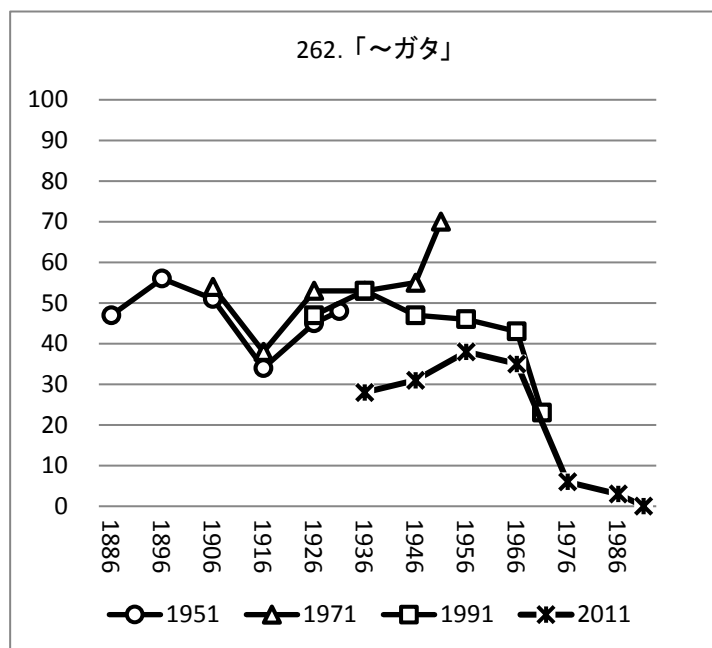
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	48	70	23	0
20-29歳	45	55	43	3
30-39歳	34	53	46	6
40-49歳	51	53	47	35
50-59歳	56	38	53	38
60-69歳	47	54	47	31
70-79歳	-	-	-	28
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

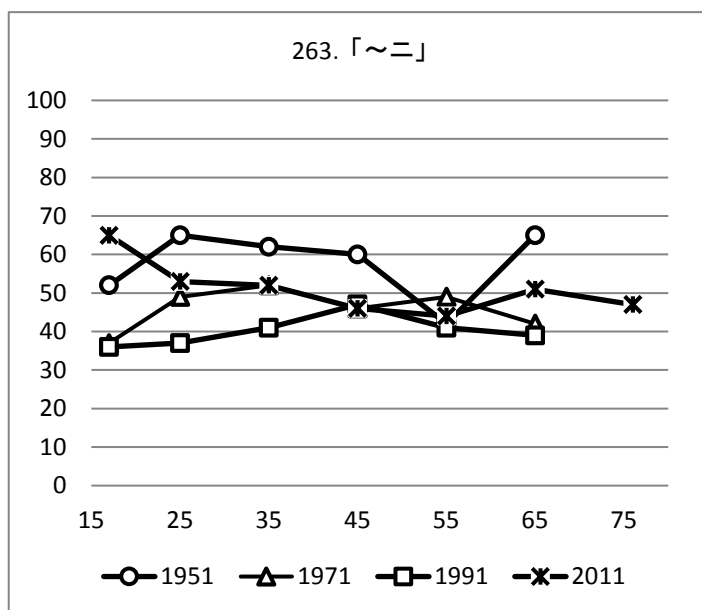
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	47			
1892-1901	56			
1902-1911	51	54		
1912-1921	34	38		
1922-1931	45	53	47	
1932-1941	48	53	53	28
1942-1951		55	47	31
1952-1961		70	46	38
1962-1971			43	35
1972-1981			23	6
1982-1991				3
1992-1996				0



263. 「～二」

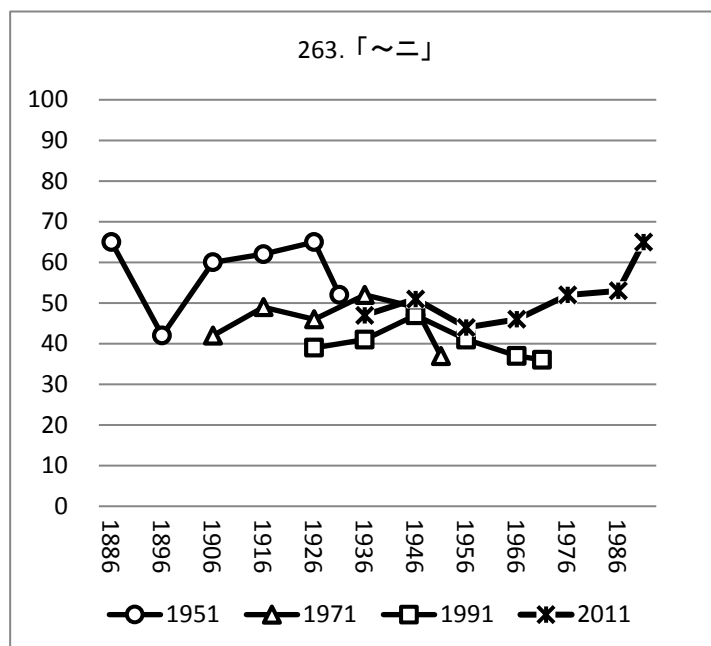
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	52	37	36	65
20-29歳	65	49	37	53
30-39歳	62	52	41	52
40-49歳	60	46	47	46
50-59歳	42	49	41	44
60-69歳	65	42	39	51
70-79歳	-	-	-	47
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

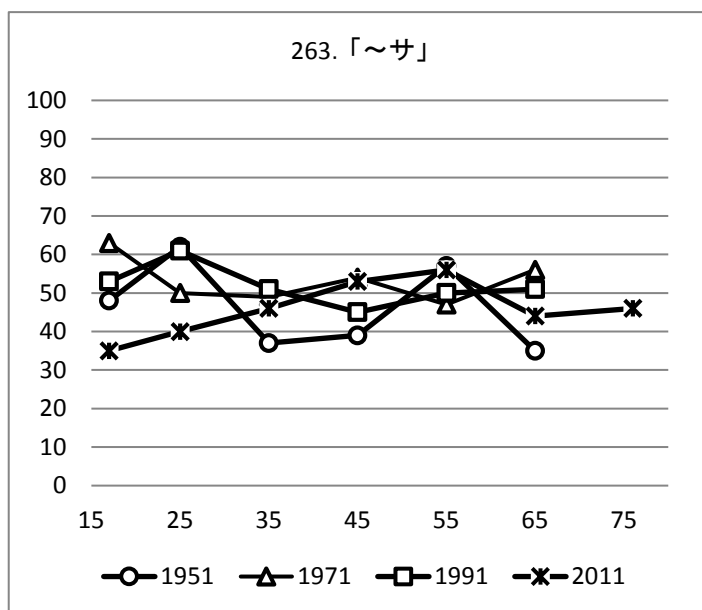
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	65			
1892-1901	42			
1902-1911	60	42		
1912-1921	62	49		
1922-1931	65	46	39	
1932-1941	52	52	41	47
1942-1951		49	47	51
1952-1961		37	41	44
1962-1971			37	46
1972-1981			36	52
1982-1991				53
1992-1996				65



263. 「～サ」

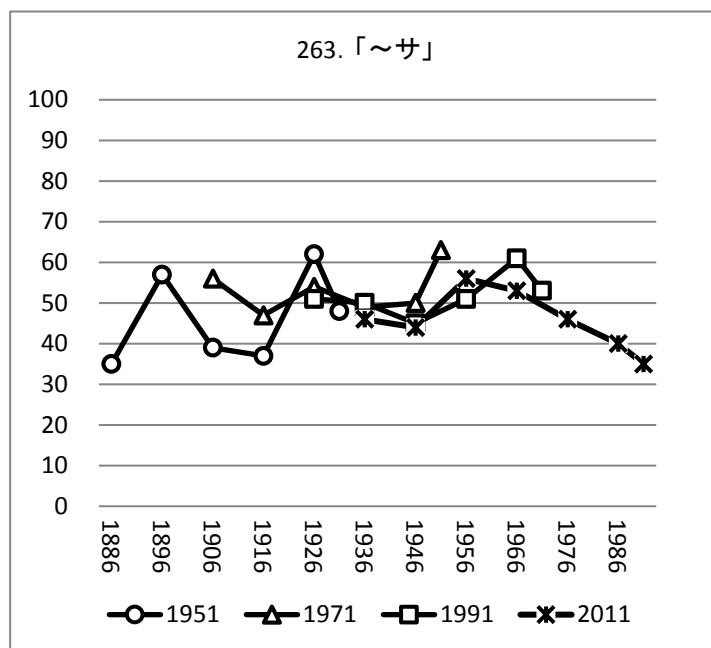
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	48	63	53	35
20-29歳	62	50	61	40
30-39歳	37	49	51	46
40-49歳	39	54	45	53
50-59歳	57	47	50	56
60-69歳	35	56	51	44
70-79歳	-	-	-	46
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

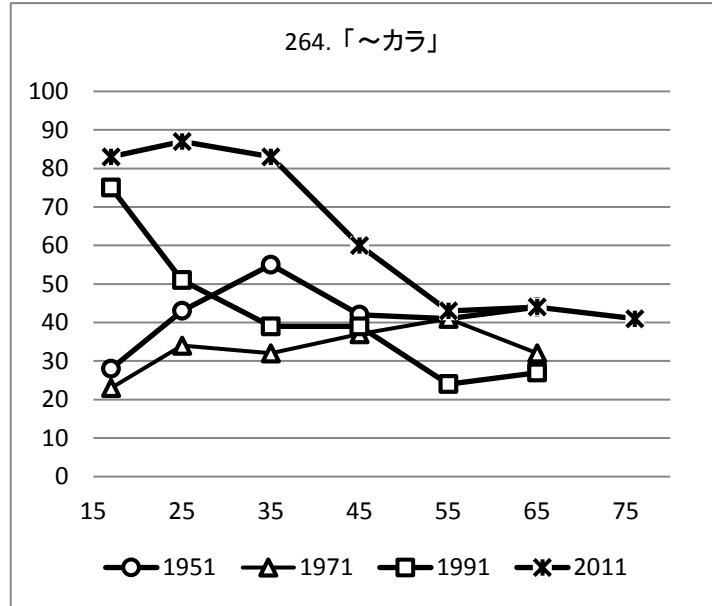
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	35			
1892-1901	57			
1902-1911	39	56		
1912-1921	37	47		
1922-1931	62	54	51	
1932-1941	48	49	50	46
1942-1951		50	45	44
1952-1961		63	51	56
1962-1971			61	53
1972-1981			53	46
1982-1991				40
1992-1996				35



264. 「～カラ」

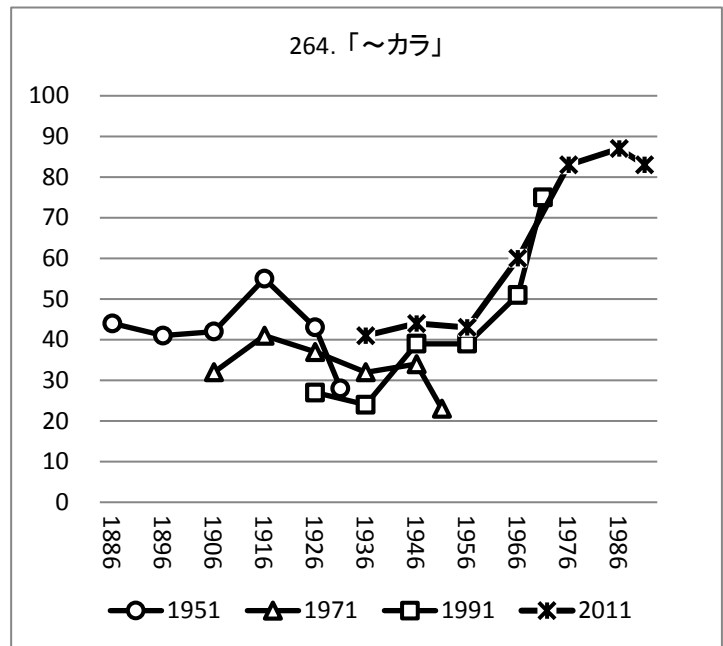
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	28	23	75	83
20-29歳	43	34	51	87
30-39歳	55	32	39	83
40-49歳	42	37	39	60
50-59歳	41	41	24	43
60-69歳	44	32	27	44
70-79歳	-	-	-	41
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

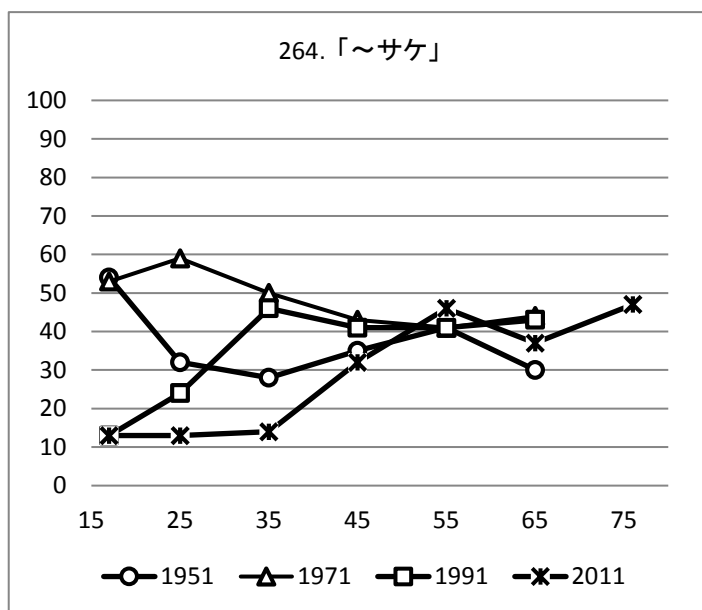
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	44			
1892-1901	41			
1902-1911	42	32		
1912-1921	55	41		
1922-1931	43	37	27	
1932-1941	28	32	24	41
1942-1951		34	39	44
1952-1961		23	39	43
1962-1971			51	60
1972-1981			75	83
1982-1991				87
1992-1996				83



264. 「～サケ」

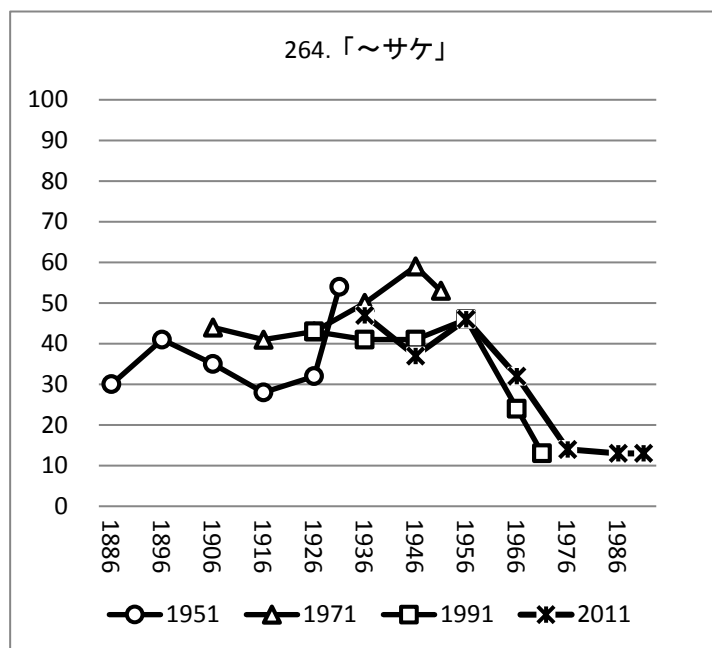
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	54	53	13	13
20-29歳	32	59	24	13
30-39歳	28	50	46	14
40-49歳	35	43	41	32
50-59歳	41	41	41	46
60-69歳	30	44	43	37
70-79歳	-	-	-	47
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

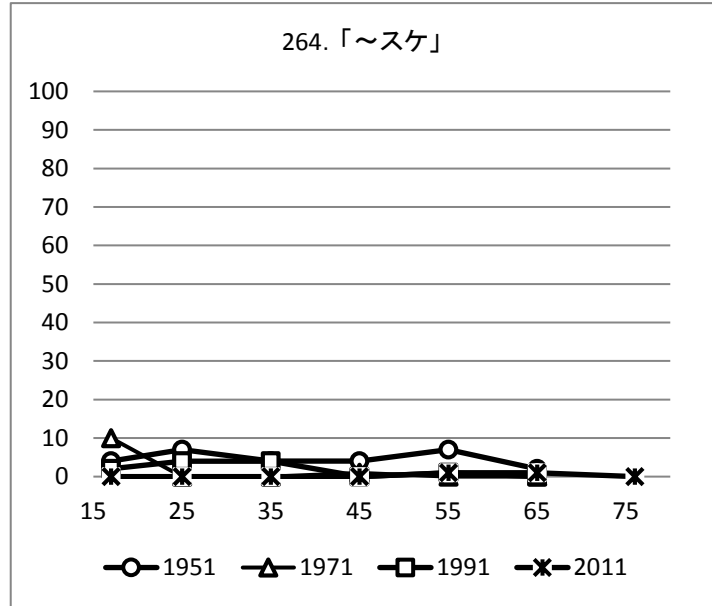
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	30			
1892-1901	41			
1902-1911	35	44		
1912-1921	28	41		
1922-1931	32	43	43	
1932-1941	54	50	41	47
1942-1951		59	41	37
1952-1961		53	46	46
1962-1971			24	32
1972-1981			13	14
1982-1991				13
1992-1996				13



264. 「～スケ」

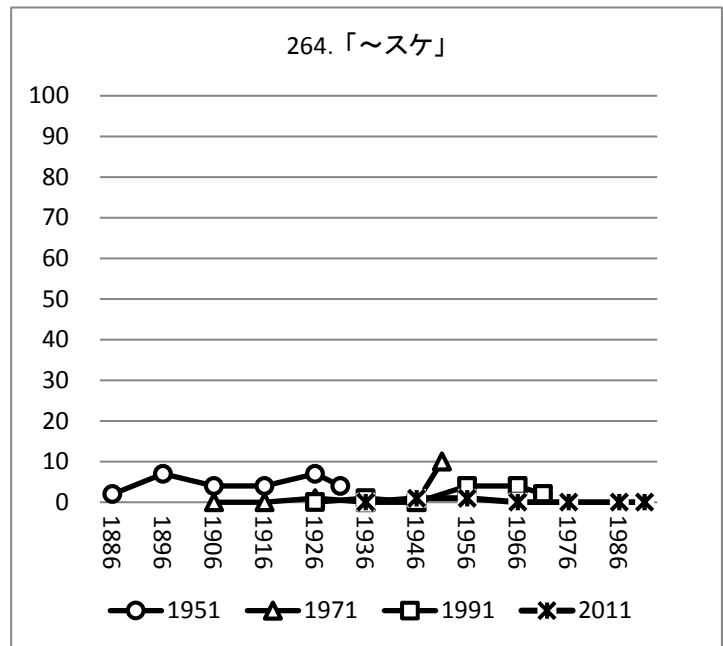
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	4	10	2	0
20-29歳	7	0	4	0
30-39歳	4	0	4	0
40-49歳	4	1	0	0
50-59歳	7	0	1	1
60-69歳	2	0	0	1
70-79歳	-	-	-	0
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

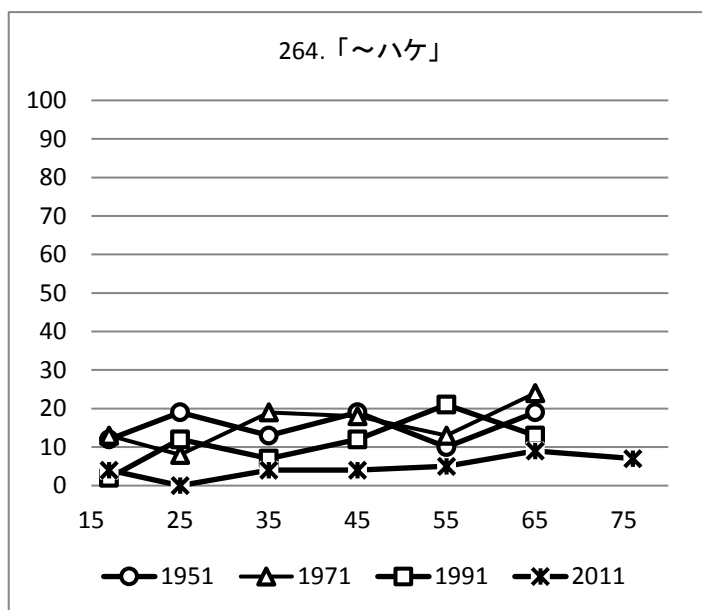
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	2			
1892-1901	7			
1902-1911	4	0		
1912-1921	4	0		
1922-1931	7	1	0	
1932-1941	4	0	1	0
1942-1951		0	0	1
1952-1961		10	4	1
1962-1971			4	0
1972-1981			2	0
1982-1991				0
1992-1996				0



264. 「～ハケ」

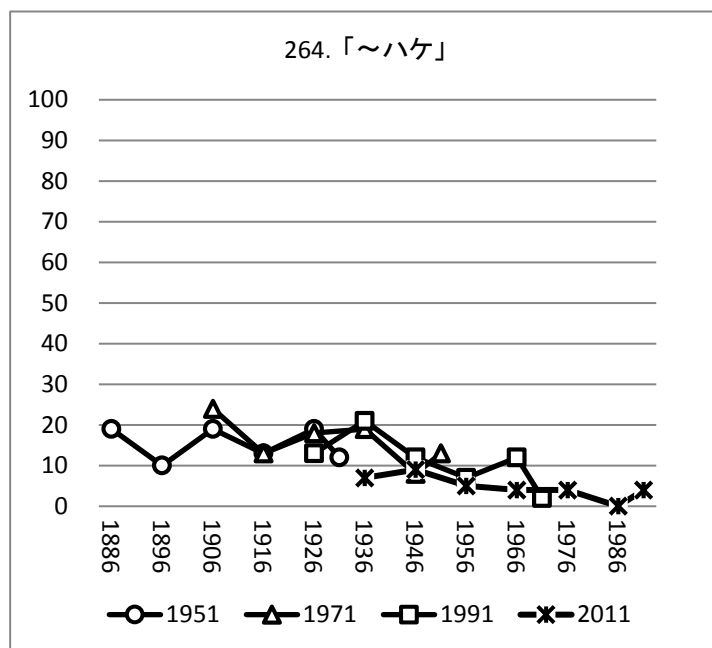
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	12	13	2	4
20-29歳	19	8	12	0
30-39歳	13	19	7	4
40-49歳	19	18	12	4
50-59歳	10	13	21	5
60-69歳	19	24	13	9
70-79歳	-	-	-	7
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

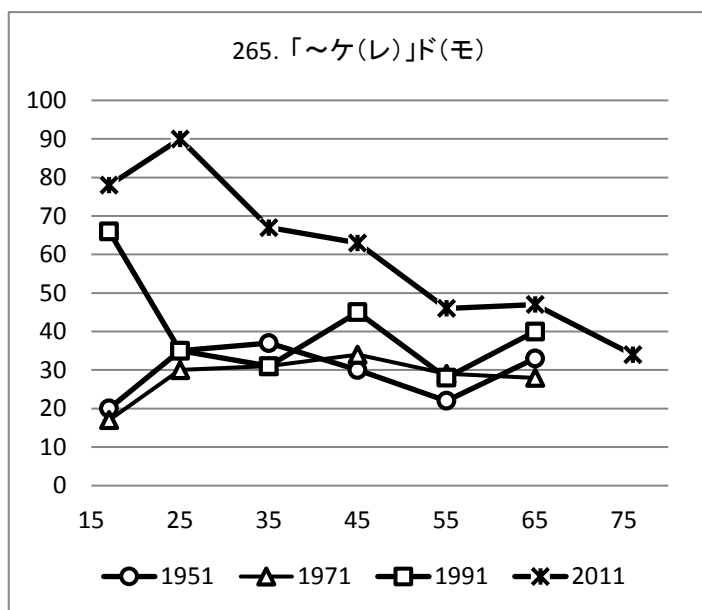
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	19			
1892-1901	10			
1902-1911	19	24		
1912-1921	13	13		
1922-1931	19	18	13	
1932-1941	12	19	21	7
1942-1951		8	12	9
1952-1961		13	7	5
1962-1971			12	4
1972-1981			2	4
1982-1991				0
1992-1996				4



265. 「～ケ(レ)」ド(モ)

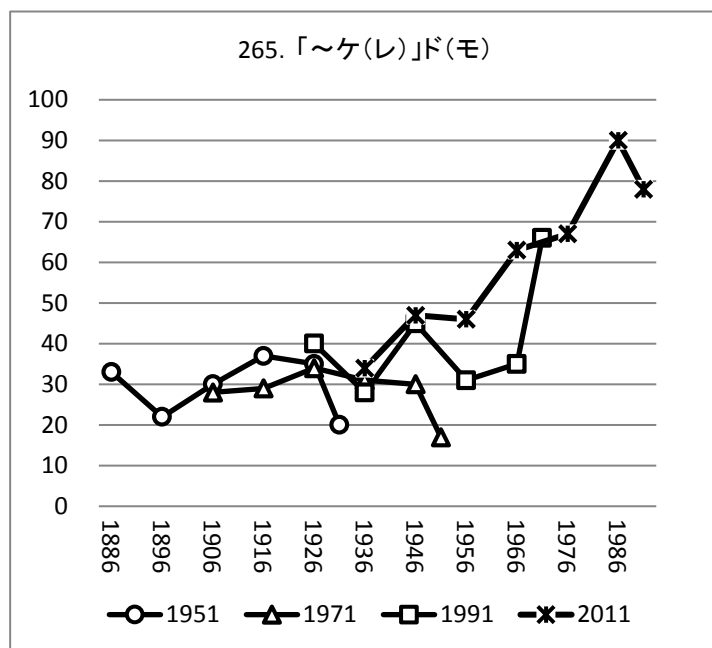
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	20	17	66	78
20-29歳	35	30	35	90
30-39歳	37	31	31	67
40-49歳	30	34	45	63
50-59歳	22	29	28	46
60-69歳	33	28	40	47
70-79歳	-	-	-	34
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

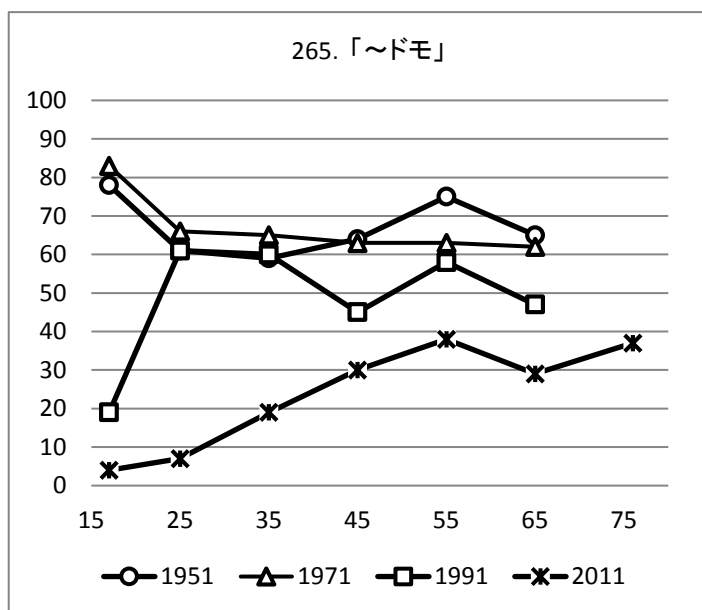
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	33			
1892-1901	22			
1902-1911	30	28		
1912-1921	37	29		
1922-1931	35	34	40	
1932-1941	20	31	28	34
1942-1951		30	45	47
1952-1961		17	31	46
1962-1971			35	63
1972-1981			66	67
1982-1991				90
1992-1996				78



265. 「～ドモ」

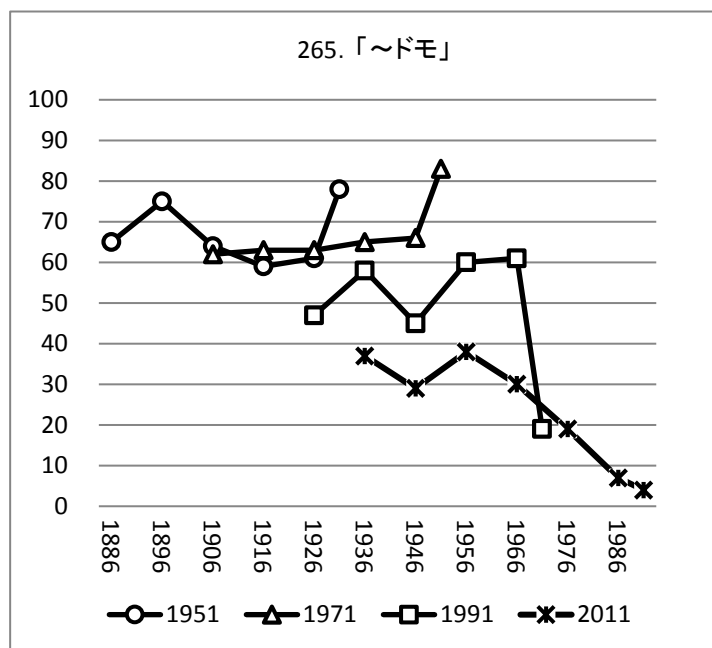
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	78	83	19	4
20-29歳	61	66	61	7
30-39歳	59	65	60	19
40-49歳	64	63	45	30
50-59歳	75	63	58	38
60-69歳	65	62	47	29
70-79歳	-	-	-	37
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

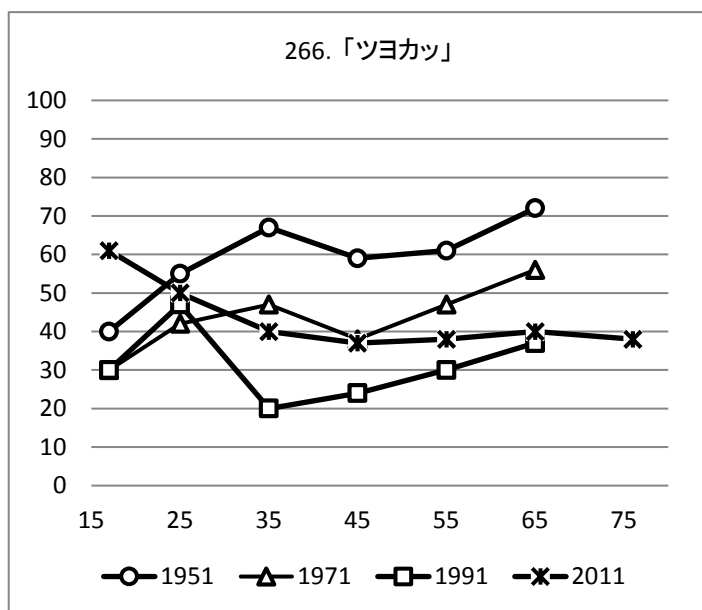
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	65			
1892-1901	75			
1902-1911	64	62		
1912-1921	59	63		
1922-1931	61	63	47	
1932-1941	78	65	58	37
1942-1951		66	45	29
1952-1961		83	60	38
1962-1971			61	30
1972-1981			19	19
1982-1991				7
1992-1996				4



266. 「ツヨカッ」

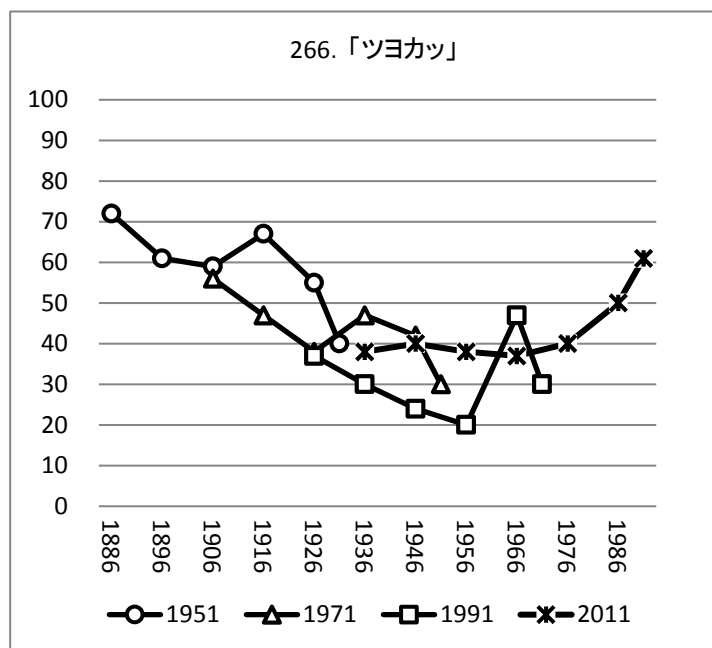
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	40	30	30	61
20-29歳	55	42	47	50
30-39歳	67	47	20	40
40-49歳	59	38	24	37
50-59歳	61	47	30	38
60-69歳	72	56	37	40
70-79歳	-	-	-	38
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

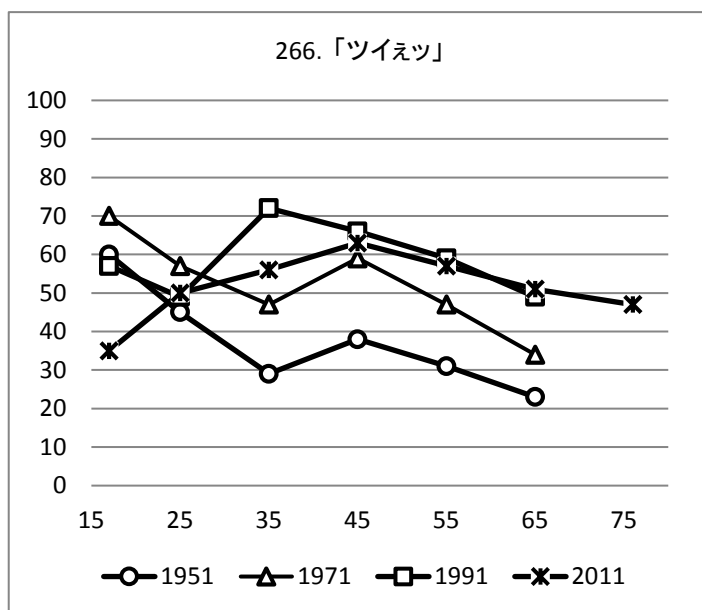
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	72			
1892-1901	61			
1902-1911	59	56		
1912-1921	67	47		
1922-1931	55	38	37	
1932-1941	40	47	30	38
1942-1951		42	24	40
1952-1961		30	20	38
1962-1971			47	37
1972-1981			30	40
1982-1991				50
1992-1996				61



266. 「ツイエツ」

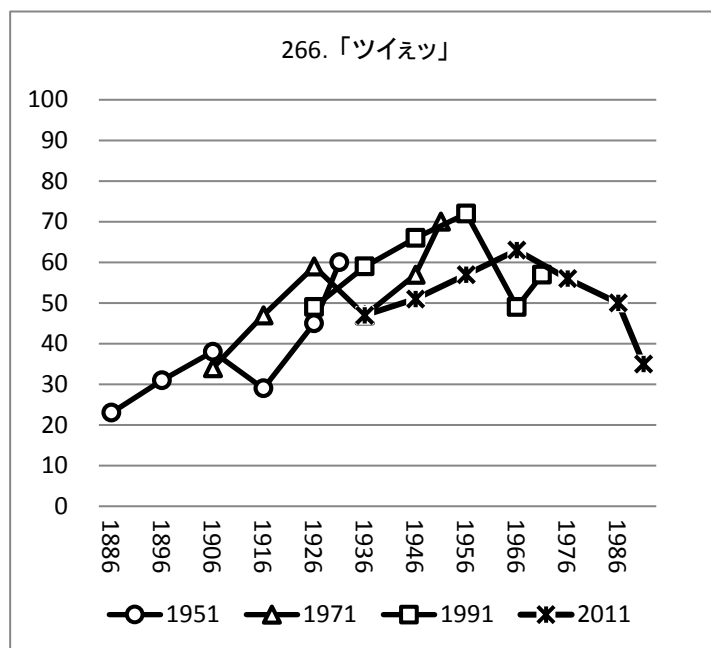
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	60	70	57	35
20-29歳	45	57	49	50
30-39歳	29	47	72	56
40-49歳	38	59	66	63
50-59歳	31	47	59	57
60-69歳	23	34	49	51
70-79歳	-	-	-	47
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

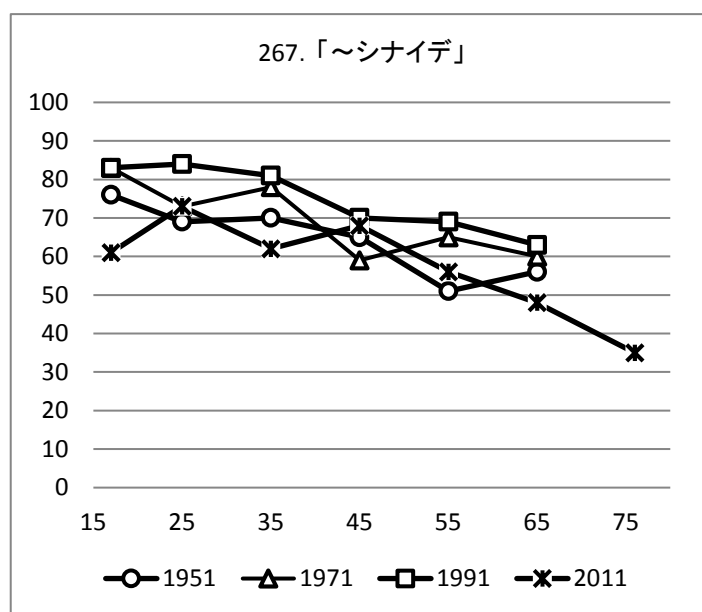
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	23			
1892-1901	31			
1902-1911	38	34		
1912-1921	29	47		
1922-1931	45	59	49	
1932-1941	60	47	59	47
1942-1951		57	66	51
1952-1961		70	72	57
1962-1971			49	63
1972-1981			57	56
1982-1991				50
1992-1996				35



267. 「～シナイデ」

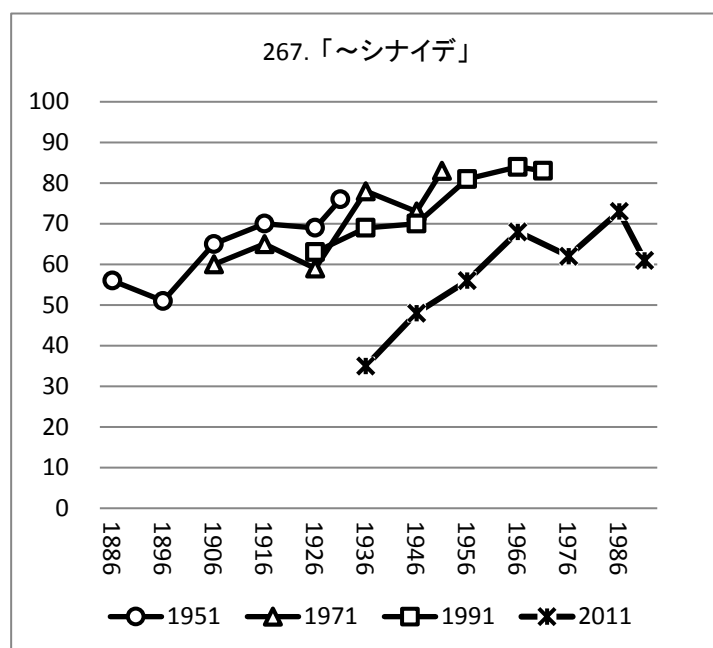
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	76	83	83	61
20-29歳	69	73	84	73
30-39歳	70	78	81	62
40-49歳	65	59	70	68
50-59歳	51	65	69	56
60-69歳	56	60	63	48
70-79歳	-	-	-	35
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

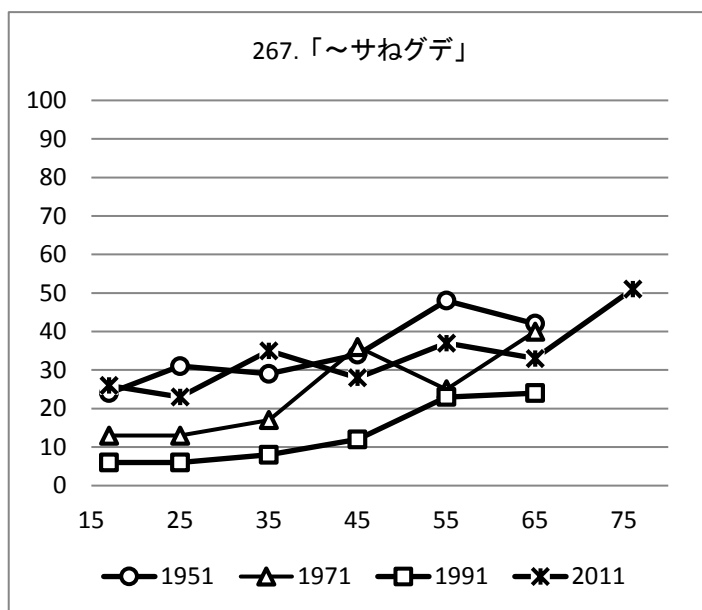
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	56			
1892-1901	51			
1902-1911	65	60		
1912-1921	70	65		
1922-1931	69	59	63	
1932-1941	76	78	69	35
1942-1951		73	70	48
1952-1961		83	81	56
1962-1971			84	68
1972-1981			83	62
1982-1991				73
1992-1996				61



267. 「～サねグデ」

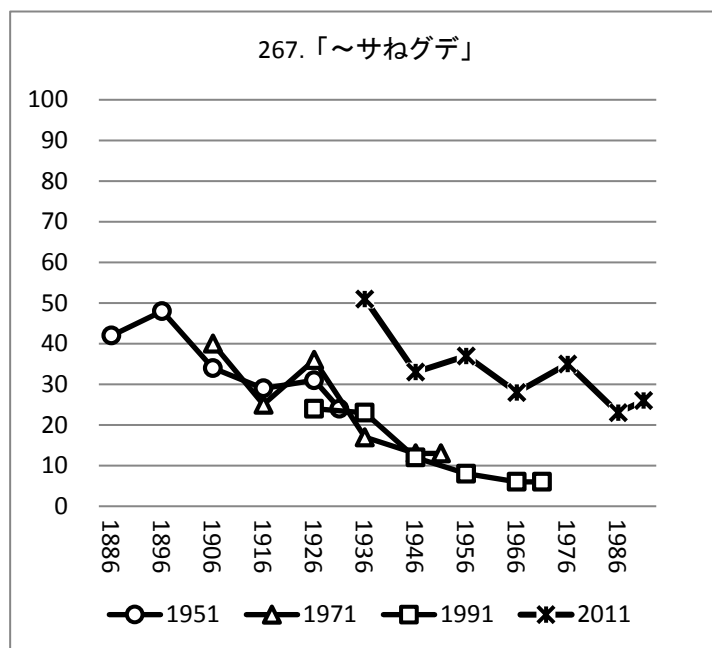
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	24	13	6	26
20-29歳	31	13	6	23
30-39歳	29	17	8	35
40-49歳	34	36	12	28
50-59歳	48	25	23	37
60-69歳	42	40	24	33
70-79歳	-	-	-	51
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

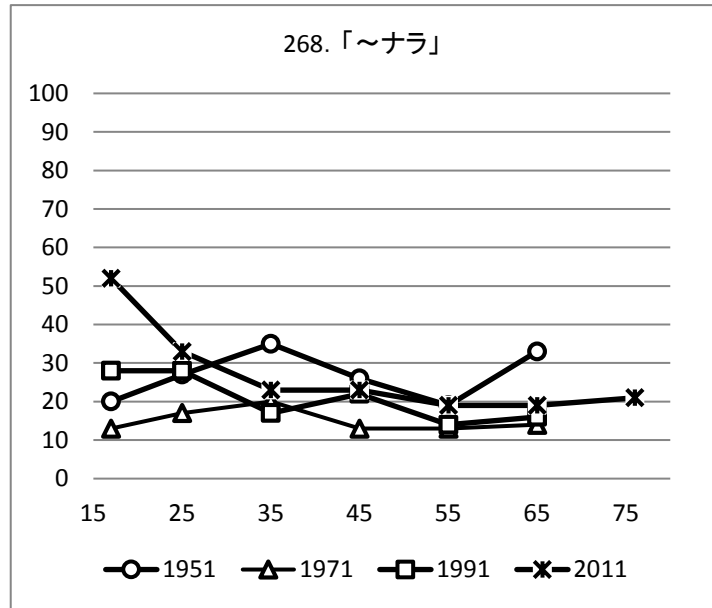
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	42			
1892-1901	48			
1902-1911	34	40		
1912-1921	29	25		
1922-1931	31	36	24	
1932-1941	24	17	23	51
1942-1951		13	12	33
1952-1961		13	8	37
1962-1971			6	28
1972-1981			6	35
1982-1991				23
1992-1996				26



268. 「～ナラ」

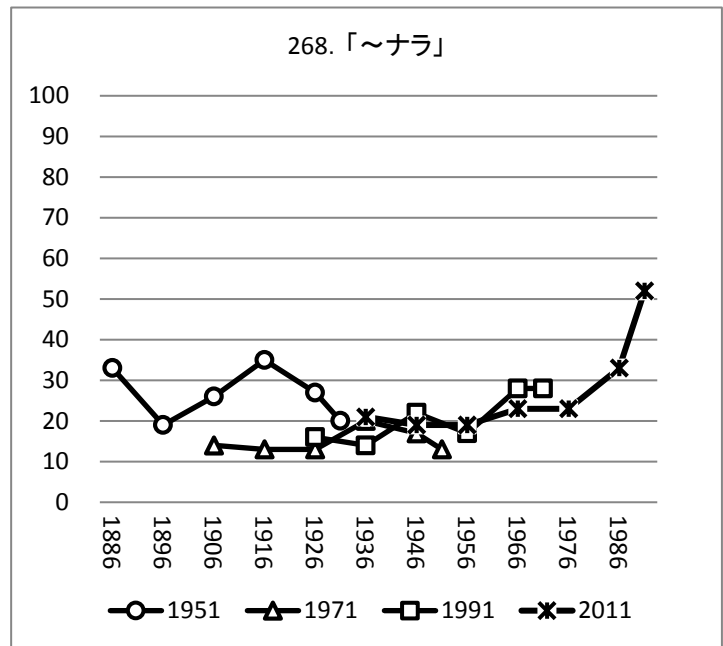
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	20	13	28	52
20-29歳	27	17	28	33
30-39歳	35	20	17	23
40-49歳	26	13	22	23
50-59歳	19	13	14	19
60-69歳	33	14	16	19
70-79歳	-	-	-	21
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

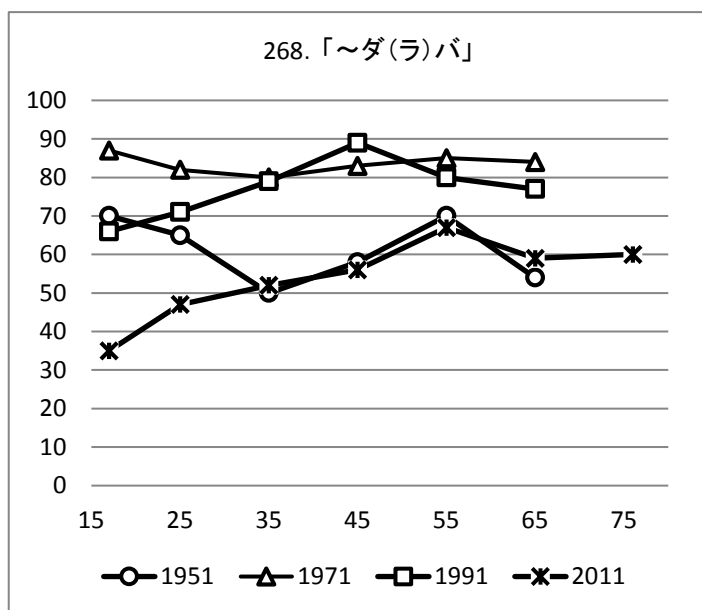
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	33			
1892-1901	19			
1902-1911	26	14		
1912-1921	35	13		
1922-1931	27	13	16	
1932-1941	20	20	14	21
1942-1951		17	22	19
1952-1961		13	17	19
1962-1971			28	23
1972-1981			28	23
1982-1991				33
1992-1996				52



268. 「～ダ(ラ)バ」

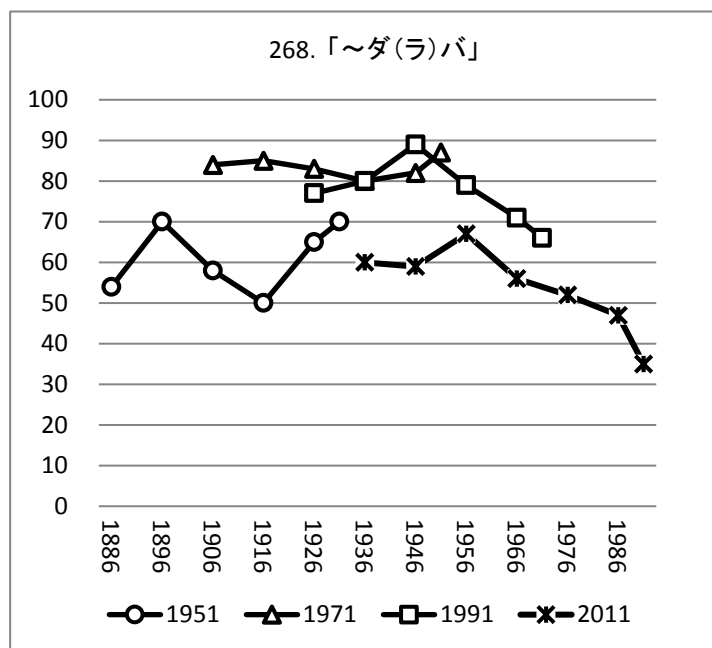
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	70	87	66	35
20-29歳	65	82	71	47
30-39歳	50	80	79	52
40-49歳	58	83	89	56
50-59歳	70	85	80	67
60-69歳	54	84	77	59
70-79歳	-	-	-	60
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	54			
1892-1901	70			
1902-1911	58	84		
1912-1921	50	85		
1922-1931	65	83	77	
1932-1941	70	80	80	60
1942-1951		82	89	59
1952-1961		87	79	67
1962-1971			71	56
1972-1981			66	52
1982-1991				47
1992-1996				35

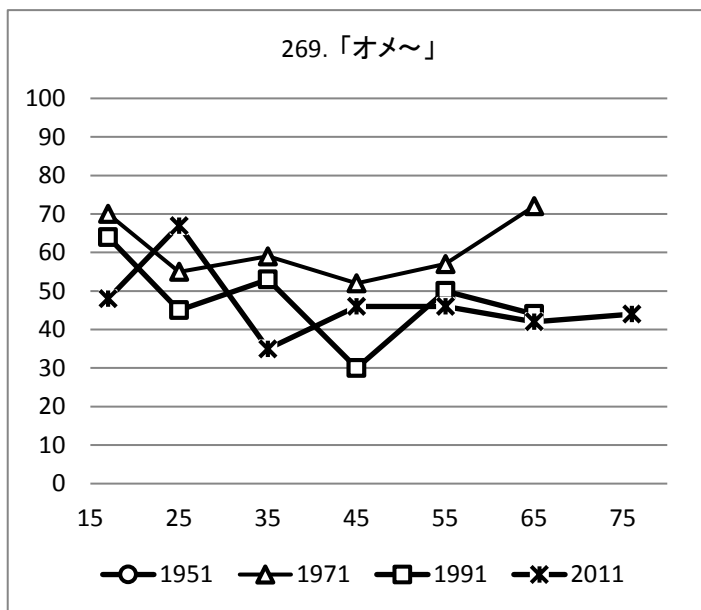


2.3 第2回調査以降に実施された項目

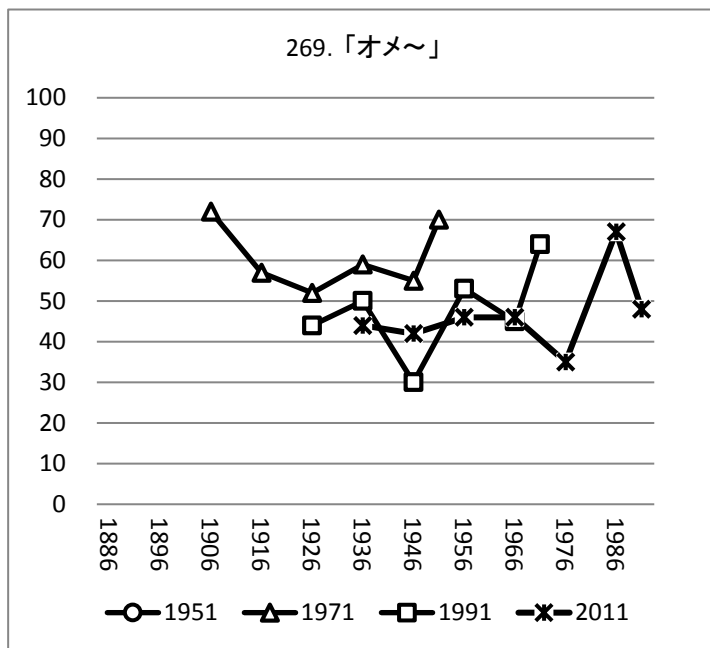
269. 「オメ～」

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	70	64	48
20-29歳	-	55	45	67
30-39歳	-	59	53	35
40-49歳	-	52	30	46
50-59歳	-	57	50	46
60-69歳	-	72	44	42
70-79歳	-	-	-	44
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



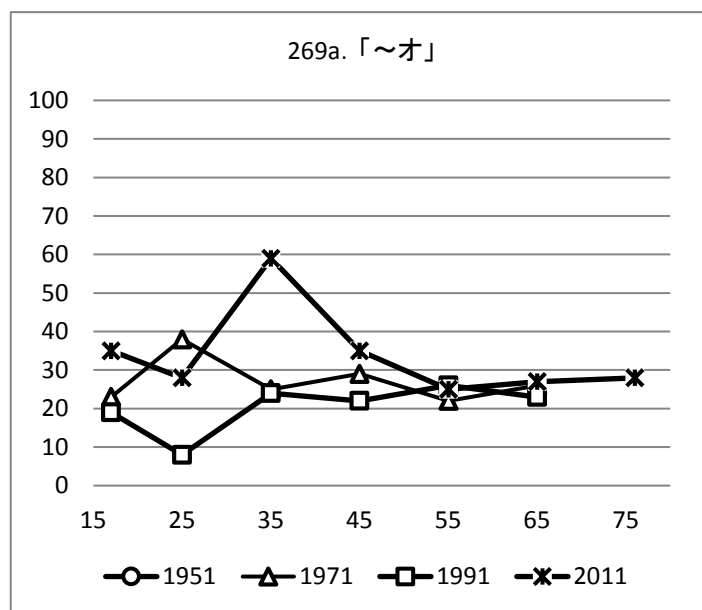
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-			
1892-1901	-			
1902-1911	-	72		
1912-1921	-	57		
1922-1931	-	52	44	
1932-1941	-	59	50	44
1942-1951		55	30	42
1952-1961		70	53	46
1962-1971			45	46
1972-1981			64	35
1982-1991				67
1992-1996				48



269a. 「～才」

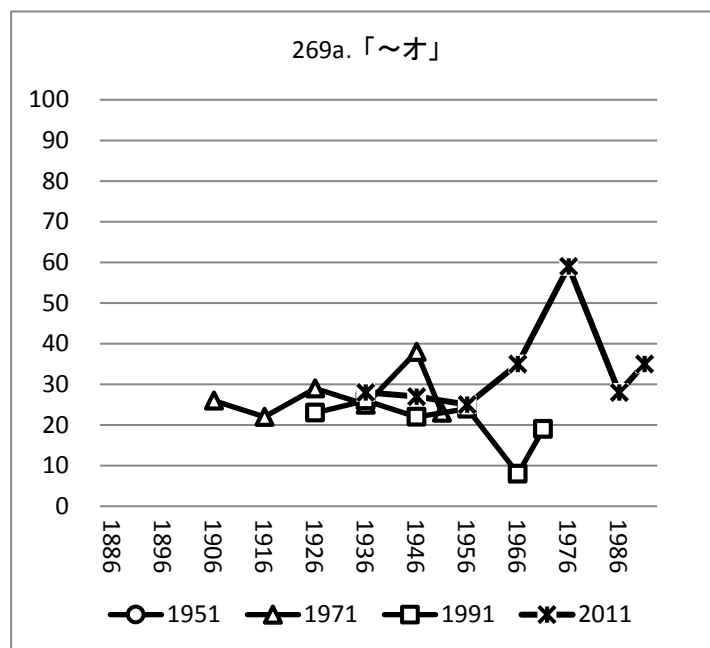
調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	23	19	35
20-29歳	-	38	8	28
30-39歳	-	25	24	59
40-49歳	-	29	22	35
50-59歳	-	22	26	25
60-69歳	-	26	23	27
70-79歳	-	-	-	28
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



生年コウホ-

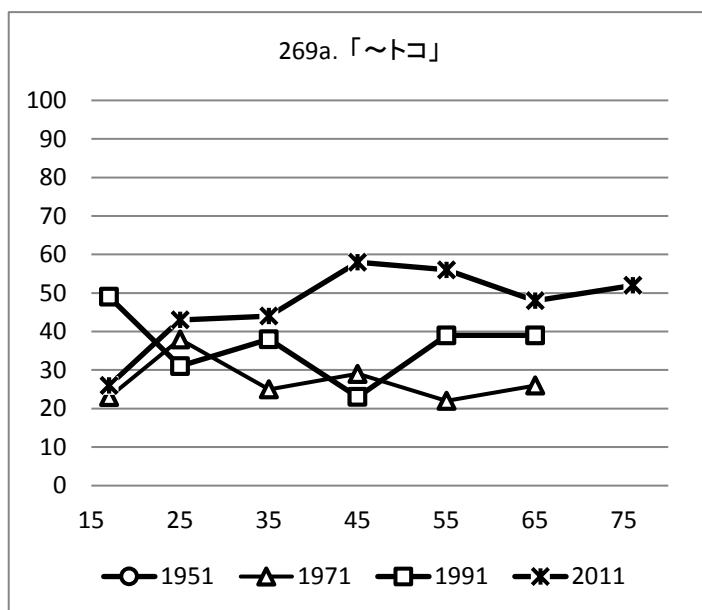
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	26	-	-
1912-1921	-	22	-	-
1922-1931	-	29	23	-
1932-1941	-	25	26	28
1942-1951	-	38	22	27
1952-1961	-	23	24	25
1962-1971	-	-	8	35
1972-1981	-	-	19	59
1982-1991	-	-	-	28
1992-1996	-	-	-	35



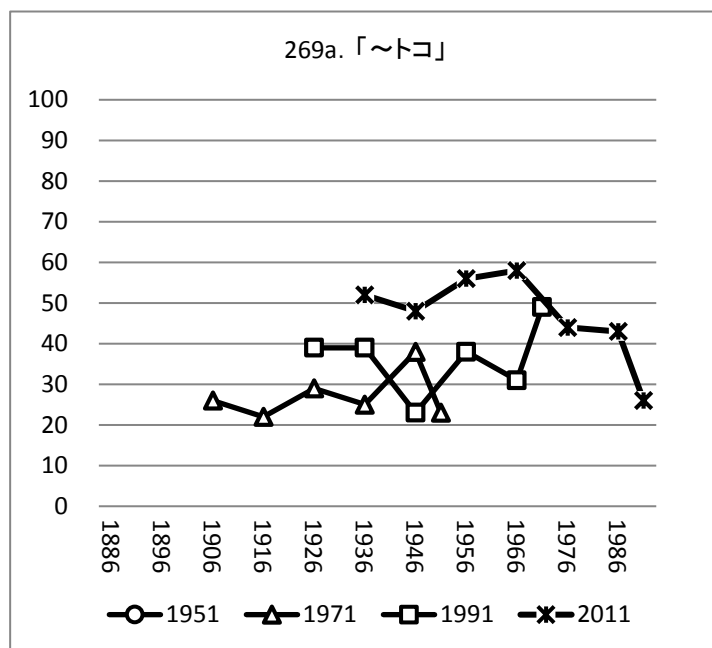
269a. 「～トコ」

調査年別・年代別共通語化率

年代	1951	1971	1991	2011
15-19歳	-	23	49	26
20-29歳	-	38	31	43
30-39歳	-	25	38	44
40-49歳	-	29	23	58
50-59歳	-	22	39	56
60-69歳	-	26	39	48
70-79歳	-	-	-	52
15-69歳	66	88	91	100
15-79歳	-	-	-	98



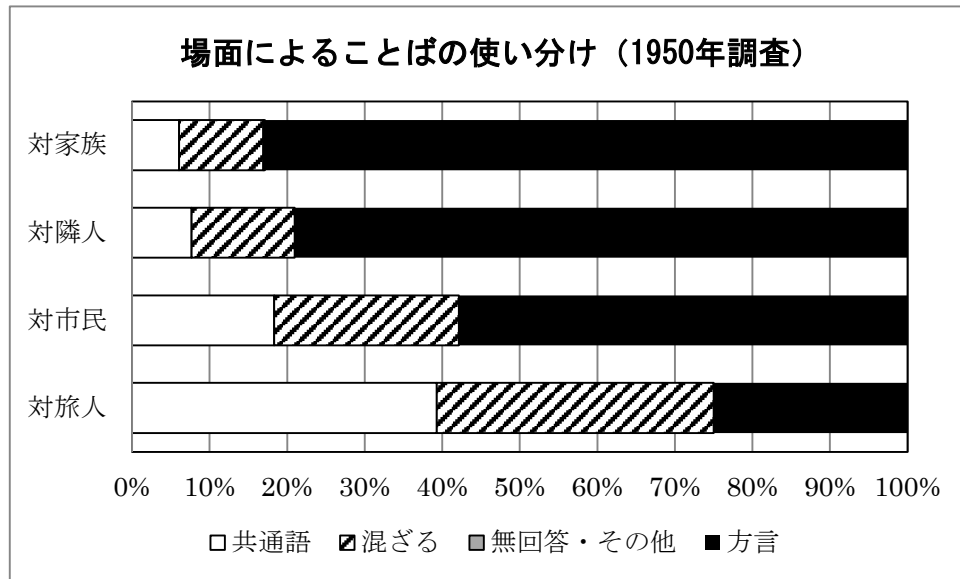
生年コウホ-	1951	1971	1991	2011
1882-1891	-	-	-	-
1892-1901	-	-	-	-
1902-1911	-	26	-	-
1912-1921	-	22	-	-
1922-1931	-	29	39	-
1932-1941	-	25	39	52
1942-1951	-	38	23	48
1952-1961	-	23	38	56
1962-1971	-	-	31	58
1972-1981	-	-	49	44
1982-1991	-	-	-	43
1992-1996	-	-	-	26



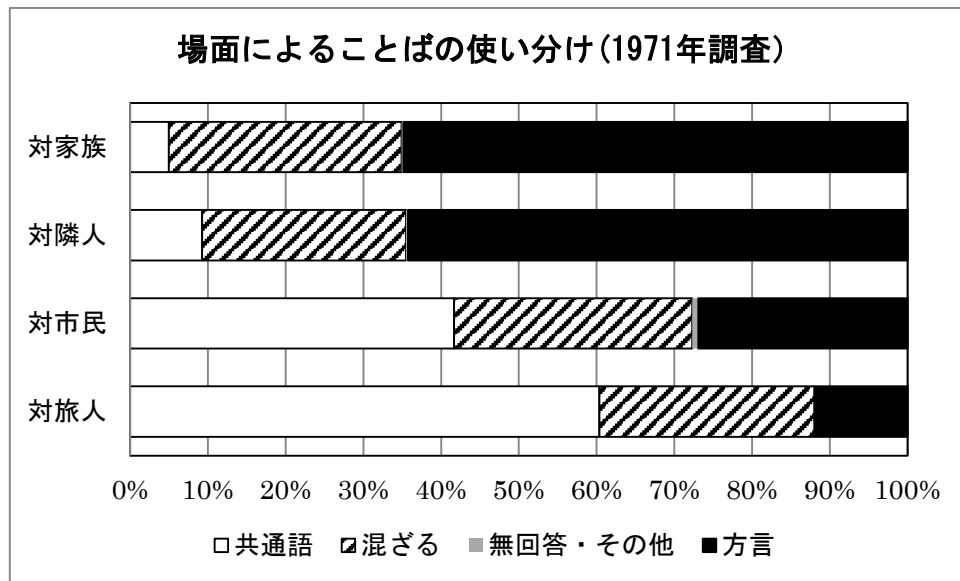
第2章

言語意識に関する項目

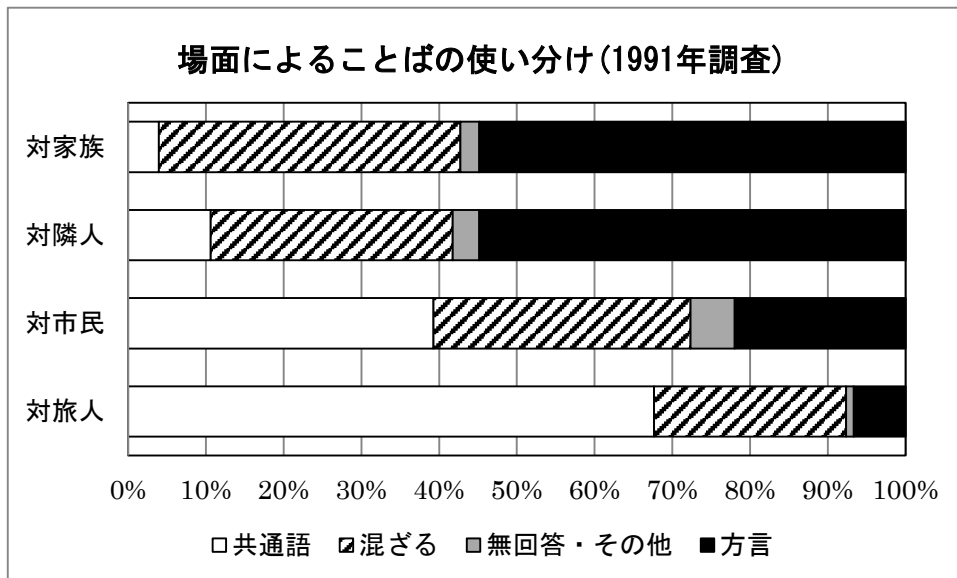
1. 場面によることばの使い分け



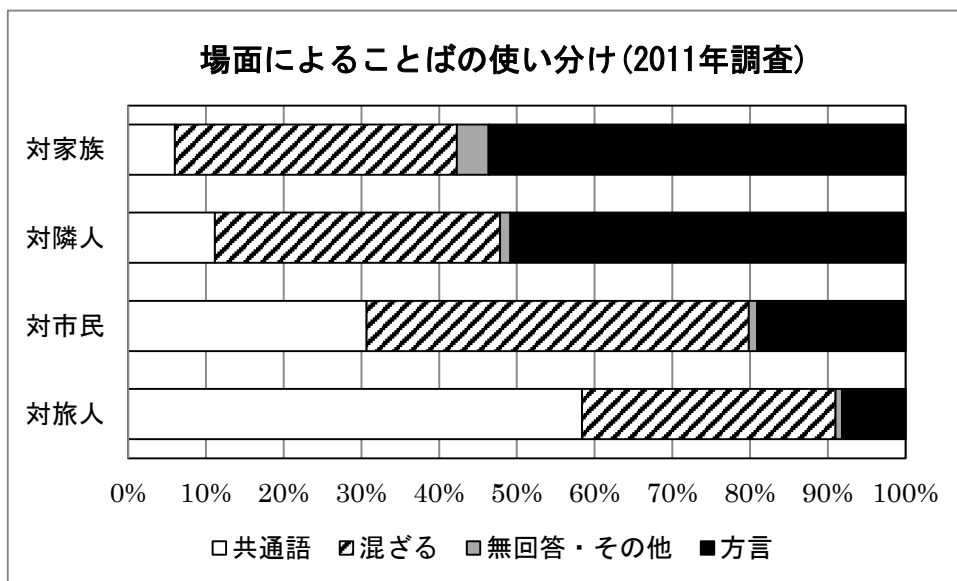
図II-1 場面によることばの使い分け（1950年調査）



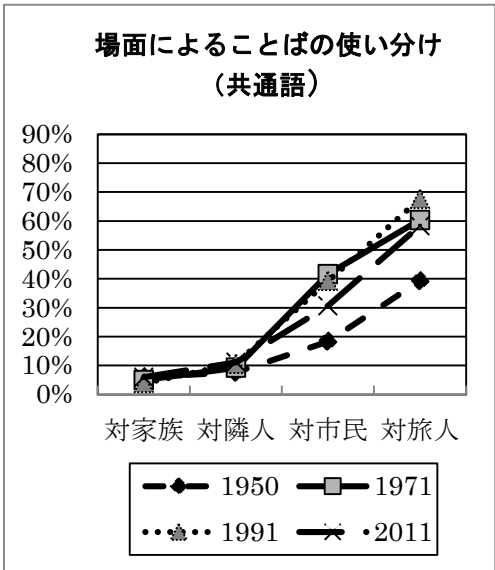
図II-2 場面によることばの使い分け（1971年調査）



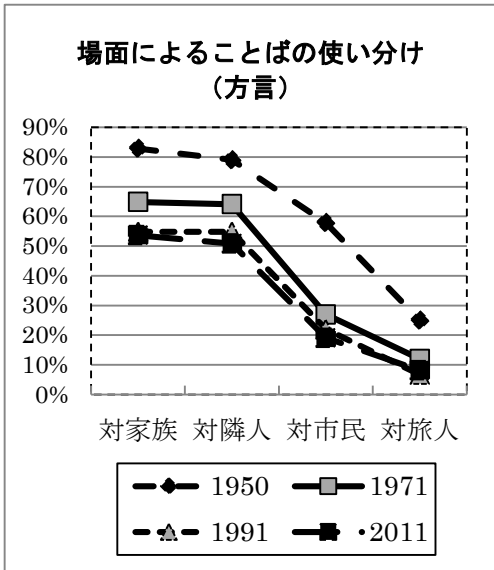
図II-3 場面によることばの使い分け (1991年調査)



図II-4 場面によることばの使い分け (2011年調査)



図II-5 場面による共通語の使用



図II-6 場面による方言の使用

集計表

表Ⅲ-1 「いつも」

		無回答	いつも	シヨツ チュー	イツモ/ シヨツ チュー	トース	複数回答	その他	
男	度数	2	157	23	6	3	0	8	199
	%	1.0%	78.9%	11.6%	3.0%	1.5%	0.0%	4.0%	100.0%
女	度数	1	218	23	7	5	1	12	267
	%	.4%	81.6%	8.6%	2.6%	1.9%	.4%	4.5%	100.0%
10歳代	度数	0	21	0	0	0	0	2	23
	%	0.0%	91.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	100.0%
20歳代	度数	0	24	4	1	0	0	1	30
	%	0.0%	80.0%	13.3%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	100.0%
30歳代	度数	1	47	2	0	0	0	2	52
	%	1.9%	90.4%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	100.0%
40歳代	度数	0	52	3	0	0	0	2	57
	%	0.0%	91.2%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	100.0%
50歳代	度数	0	67	11	1	1	0	1	81
	%	0.0%	82.7%	13.6%	1.2%	1.2%	0.0%	1.2%	100.0%
60歳代	度数	1	98	14	7	2	0	6	128
	%	.8%	76.6%	10.9%	5.5%	1.6%	0.0%	4.7%	100.0%
70歳代	度数	1	66	12	4	5	1	6	95
	%	1.1%	69.5%	12.6%	4.2%	5.3%	1.1%	6.3%	100.0%
低学歴	度数	0	57	3	2	2	0	7	71
	%	0.0%	80.3%	4.2%	2.8%	2.8%	0.0%	9.9%	100.0%
中学歴	度数	2	229	32	7	5	1	9	285
	%	.7%	80.4%	11.2%	2.5%	1.8%	.4%	3.2%	100.0%
高学歴	度数	1	89	10	4	1	0	4	109
	%	.9%	81.7%	9.2%	3.7%	.9%	0.0%	3.7%	100.0%

表Ⅲ-2 「留守番」

		無回答	ルスバン	ルスイ	ヨスリ	ルス	複数回答	その他	
男	度数	6	158	6	0	23	3	3	199
	%	3.0%	79.4%	3.0%	0.0%	11.6%	1.5%	1.5%	100.0%
女	度数	7	213	8	2	31	3	3	267
	%	2.6%	79.8%	3.0%	.7%	11.6%	1.1%	1.1%	100.0%
10歳代	度数	1	18	0	0	3	0	1	23
	%	4.3%	78.3%	0.0%	0.0%	13.0%	0.0%	4.3%	100.0%
20歳代	度数	1	24	0	0	4	1	0	30
	%	3.3%	80.0%	0.0%	0.0%	13.3%	3.3%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	1	41	0	0	10	0	0	52
	%	1.9%	78.8%	0.0%	0.0%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	1	51	0	0	4	1	0	57
	%	1.8%	89.5%	0.0%	0.0%	7.0%	1.8%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	1	69	1	0	10	0	0	81
	%	1.2%	85.2%	1.2%	0.0%	12.3%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	4	98	5	2	14	1	4	128
	%	3.1%	76.6%	3.9%	1.6%	10.9%	.8%	3.1%	100.0%
70歳代	度数	4	70	8	0	9	3	1	95
	%	4.2%	73.7%	8.4%	0.0%	9.5%	3.2%	1.1%	100.0%
低学歴	度数	3	52	2	1	11	1	1	71
	%	4.2%	73.2%	2.8%	1.4%	15.5%	1.4%	1.4%	100.0%
中学歴	度数	7	227	10	1	33	3	4	285
	%	2.5%	79.6%	3.5%	.4%	11.6%	1.1%	1.4%	100.0%
高学歴	度数	3	91	2	0	10	2	1	109
	%	2.8%	83.5%	1.8%	0.0%	9.2%	1.8%	.9%	100.0%

表Ⅲ-3 「いらっしやい」

		無回答	イラッ シヤイ	キテクダ サイ	オイデク ダサイ	ゴザヘ	オハイリ クダサイ	その他	
男	度数	69	88	26	14	1	0	1	199
	%	34.7%	44.2%	13.1%	7.0%	.5%	0.0%	.5%	100.0%
女	度数	76	128	35	22	2	4	0	267
	%	28.5%	47.9%	13.1%	8.2%	.7%	1.5%	0.0%	100.0%
10歳代	度数	2	14	6	1	0	0	0	23
	%	8.7%	60.9%	26.1%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	6	20	3	1	0	0	0	30
	%	20.0%	66.7%	10.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	8	33	8	3	0	0	0	52
	%	15.4%	63.5%	15.4%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	12	33	4	6	1	1	0	57
	%	21.1%	57.9%	7.0%	10.5%	1.8%	1.8%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	25	36	15	5	0	0	0	81
	%	30.9%	44.4%	18.5%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	43	58	14	10	1	1	1	128
	%	33.6%	45.3%	10.9%	7.8%	.8%	.8%	.8%	100.0%
70歳代	度数	49	22	11	10	1	2	0	95
	%	51.6%	23.2%	11.6%	10.5%	1.1%	2.1%	0.0%	100.0%
低学歴	度数	28	31	8	3	1	0	0	71
	%	39.4%	43.7%	11.3%	4.2%	1.4%	0.0%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	93	128	38	20	1	4	1	285
	%	32.6%	44.9%	13.3%	7.0%	.4%	1.4%	.4%	100.0%
高学歴	度数	24	57	15	12	1	0	0	109
	%	22.0%	52.3%	13.8%	11.0%	.9%	0.0%	0.0%	100.0%

表Ⅲ-4 「もう」

		無回答	モー	アド	複数回答	
男	度数	11	107	77	4	199
	%	5.5%	53.8%	38.7%	2.0%	100.0%
女	度数	12	143	107	5	267
	%	4.5%	53.6%	40.1%	1.9%	100.0%
10歳代	度数	0	16	7	0	23
	%	0.0%	69.6%	30.4%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	1	12	15	2	30
	%	3.3%	40.0%	50.0%	6.7%	100.0%
30歳代	度数	2	27	22	1	52
	%	3.8%	51.9%	42.3%	1.9%	100.0%
40歳代	度数	1	29	26	1	57
	%	1.8%	50.9%	45.6%	1.8%	100.0%
50歳代	度数	6	40	35	0	81
	%	7.4%	49.4%	43.2%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	5	77	44	2	128
	%	3.9%	60.2%	34.4%	1.6%	100.0%
70歳代	度数	8	49	35	3	95
	%	8.4%	51.6%	36.8%	3.2%	100.0%
低学歴	度数	6	41	24	0	71
	%	8.5%	57.7%	33.8%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	11	144	122	8	285
	%	3.9%	50.5%	42.8%	2.8%	100.0%
高学歴	度数	6	64	38	1	109
	%	5.5%	58.7%	34.9%	.9%	100.0%

表Ⅲ-5 「おどろいた」

		無回答	オドロ イタ	ビック リシタ	オボケ タ	ハトモ タ	タマゲ タ	複数回 答	その他	
男	度数	20	7	146	2	7	9	6	2	199
	%	10.1%	3.5%	73.4%	1.0%	3.5%	4.5%	3.0%	1.0%	100.0%
女	度数	21	14	206	7	8	7	4	0	267
	%	7.9%	5.2%	77.2%	2.6%	3.0%	2.6%	1.5%	0.0%	100.0%
10歳代	度数	3	0	20	0	0	0	0	0	23
	%	13.0%	0.0%	87.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	6	0	22	0	1	0	0	1	30
	%	20.0%	0.0%	73.3%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	100.0%
30歳代	度数	6	1	41	2	0	1	0	1	52
	%	11.5%	1.9%	78.8%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%	1.9%	100.0%
40歳代	度数	3	0	51	0	1	1	1	0	57
	%	5.3%	0.0%	89.5%	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	8	3	59	0	6	4	1	0	81
	%	9.9%	3.7%	72.8%	0.0%	7.4%	4.9%	1.2%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	8	8	94	3	4	5	6	0	128
	%	6.3%	6.3%	73.4%	2.3%	3.1%	3.9%	4.7%	0.0%	100.0%
70歳代	度数	7	9	65	4	3	5	2	0	95
	%	7.4%	9.5%	68.4%	4.2%	3.2%	5.3%	2.1%	0.0%	100.0%
低学歴	度数	8	4	48	4	1	5	0	1	71
	%	11.3%	5.6%	67.6%	5.6%	1.4%	7.0%	0.0%	1.4%	100.0%
中学歴	度数	24	8	222	3	12	6	9	1	285
	%	8.4%	2.8%	77.9%	1.1%	4.2%	2.1%	3.2%	.4%	100.0%
高学歴	度数	9	9	81	2	2	5	1	0	109
	%	8.3%	8.3%	74.3%	1.8%	1.8%	4.6%	.9%	0.0%	100.0%

表Ⅲ-6 「はずかしい」

		無回答	はずかしい	シヨース	複数回答	その他	
男	度数	29	156	11	1	2	199
	%	14.6%	78.4%	5.5%	.5%	1.0%	100.0%
女	度数	31	223	9	1	3	267
	%	11.6%	83.5%	3.4%	.4%	1.1%	100.0%
10歳代	度数	3	19	0	0	1	23
	%	13.0%	82.6%	0.0%	0.0%	4.3%	100.0%
20歳代	度数	2	28	0	0	0	30
	%	6.7%	93.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	4	47	0	1	0	52
	%	7.7%	90.4%	0.0%	1.9%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	3	53	0	0	1	57
	%	5.3%	93.0%	0.0%	0.0%	1.8%	100.0%
50歳代	度数	6	69	6	0	0	81
	%	7.4%	85.2%	7.4%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	21	97	8	1	1	128
	%	16.4%	75.8%	6.3%	.8%	.8%	100.0%
70歳代	度数	21	66	6	0	2	95
	%	22.1%	69.5%	6.3%	0.0%	2.1%	100.0%
低学歴	度数	12	53	4	0	2	71
	%	16.9%	74.6%	5.6%	0.0%	2.8%	100.0%
中学歴	度数	36	235	10	2	2	285
	%	12.6%	82.5%	3.5%	.7%	.7%	100.0%
高学歴	度数	12	90	6	0	1	109
	%	11.0%	82.6%	5.5%	0.0%	.9%	100.0%

表Ⅲ-7 「あげる」

		無回答	クレル	クエル	ケル	アゲル	ヤル	複数回 答	その他		
男	度数	10	22	11	35	94	17	8	2	199	
	%	5.0%	11.1%	5.5%	17.6%	47.2%	8.5%	4.0%	1.0%	100.0%	
女	度数	17	12	13	29	167	6	21	2	267	
	%	6.4%	4.5%	4.9%	10.9%	62.5%	2.2%	7.9%	.7%	100.0%	
10歳代	度数	1	1	0	1	17	2	1	0	23	
	%	4.3%	4.3%	0.0%	4.3%	73.9%	8.7%	4.3%	0.0%	100.0%	
20歳代	度数	0	5	0	3	20	1	1	0	30	
	%	0.0%	16.7%	0.0%	10.0%	66.7%	3.3%	3.3%	0.0%	100.0%	
30歳代	度数	1	2	0	12	34	1	2	0	52	
	%	1.9%	3.8%	0.0%	23.1%	65.4%	1.9%	3.8%	0.0%	100.0%	
40歳代	度数	3	2	5	3	42	0	2	0	57	
	%	5.3%	3.5%	8.8%	5.3%	73.7%	0.0%	3.5%	0.0%	100.0%	
50歳代	度数	3	4	8	11	44	5	4	2	81	
	%	3.7%	4.9%	9.9%	13.6%	54.3%	6.2%	4.9%	2.5%	100.0%	
60歳代	度数	8	12	7	16	65	7	13	0	128	
	%	6.3%	9.4%	5.5%	12.5%	50.8%	5.5%	10.2%	0.0%	100.0%	
70歳代	度数	11	8	4	18	39	7	6	2	95	
	%	11.6%	8.4%	4.2%	18.9%	41.1%	7.4%	6.3%	2.1%	100.0%	
低学歴	度数	9	2	3	9	38	3	6	1	71	
	%	12.7%	2.8%	4.2%	12.7%	53.5%	4.2%	8.5%	1.4%	100.0%	
中学歴	度数	15	21	14	42	154	17	19	3	285	
	%	5.3%	7.4%	4.9%	14.7%	54.0%	6.0%	6.7%	1.1%	100.0%	
高学歴	度数	3	10	7	13	69	3	4	0	109	
	%	2.8%	9.2%	6.4%	11.9%	63.3%	2.8%	3.7%	0.0%	100.0%	

表Ⅲ-8 「ツララ」

		無回答	ツララ	シガ/ スガ	タロゲ	複数回答	その他	複数回答
男	度数	2	168	23	0	6	0	199
	%	1.0%	84.4%	11.6%	0.0%	3.0%	0.0%	100.0%
女	度数	1	238	14	1	10	3	267
	%	.4%	89.1%	5.2%	.4%	3.7%	1.1%	100.0%
10歳代	度数	0	23	0	0	0	0	23
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	0	30	0	0	0	0	30
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	0	52	0	0	0	0	52
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	0	56	0	0	0	1	57
	%	0.0%	98.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	100.0%
50歳代	度数	0	77	2	0	1	1	81
	%	0.0%	95.1%	2.5%	0.0%	1.2%	1.2%	100.0%
60歳代	度数	0	101	17	1	9	0	128
	%	0.0%	78.9%	13.3%	.8%	7.0%	0.0%	100.0%
70歳代	度数	3	67	18	0	6	1	95
	%	3.2%	70.5%	18.9%	0.0%	6.3%	1.1%	100.0%
低学歴	度数	0	57	9	0	5	0	71
	%	0.0%	80.3%	12.7%	0.0%	7.0%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	3	246	24	1	9	2	285
	%	1.1%	86.3%	8.4%	.4%	3.2%	.7%	100.0%
高学歴	度数	0	102	4	0	2	1	109
	%	0.0%	93.6%	3.7%	0.0%	1.8%	.9%	100.0%

表Ⅲ-9 「起きろ」

		無回答	オキ口	オキレ	オキナサ イ	オキテ	複数回答	その他	
男	度数	5	70	112	6	2	2	2	199
	%	2.5%	35.2%	56.3%	3.0%	1.0%	1.0%	1.0%	100.0%
女	度数	4	42	164	24	27	2	4	267
	%	1.5%	15.7%	61.4%	9.0%	10.1%	.7%	1.5%	100.0%
10歳代	度数	0	9	10	1	3	0	0	23
	%	0.0%	39.1%	43.5%	4.3%	13.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	1	8	21	0	0	0	0	30
	%	3.3%	26.7%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	0	5	35	6	5	0	1	52
	%	0.0%	9.6%	67.3%	11.5%	9.6%	0.0%	1.9%	100.0%
40歳代	度数	1	13	37	3	3	0	0	57
	%	1.8%	22.8%	64.9%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	1	21	48	7	3	0	1	81
	%	1.2%	25.9%	59.3%	8.6%	3.7%	0.0%	1.2%	100.0%
60歳代	度数	1	36	72	8	8	1	2	128
	%	.8%	28.1%	56.3%	6.3%	6.3%	.8%	1.6%	100.0%
70歳代	度数	5	20	53	5	7	3	2	95
	%	5.3%	21.1%	55.8%	5.3%	7.4%	3.2%	2.1%	100.0%
低学歴	度数	2	20	43	1	3	2	0	71
	%	2.8%	28.2%	60.6%	1.4%	4.2%	2.8%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	6	72	169	17	19	1	1	285
	%	2.1%	25.3%	59.3%	6.0%	6.7%	.4%	.4%	100.0%
高学歴	度数	1	20	64	11	7	1	5	109
	%	.9%	18.3%	58.7%	10.1%	6.4%	.9%	4.6%	100.0%

表Ⅲ-10 「わたくしたち」

		無回答	タチ	ドモ	ガタ	ダ	ラ	複数回 答	その他	
男	度数	9	97	1	45	8	19	3	17	199
	%	4.5%	48.7%	.5%	22.6%	4.0%	9.5%	1.5%	8.5%	100.0%
女	度数	18	133	0	76	3	20	3	14	267
	%	6.7%	49.8%	0.0%	28.5%	1.1%	7.5%	1.1%	5.2%	100.0%
10歳代	度数	1	11	0	0	0	11	0	0	23
	%	4.3%	47.8%	0.0%	0.0%	0.0%	47.8%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	1	16	0	1	0	10	0	2	30
	%	3.3%	53.3%	0.0%	3.3%	0.0%	33.3%	0.0%	6.7%	100.0%
30歳代	度数	2	36	0	3	1	7	1	2	52
	%	3.8%	69.2%	0.0%	5.8%	1.9%	13.5%	1.9%	3.8%	100.0%
40歳代	度数	0	32	0	20	2	3	0	0	57
	%	0.0%	56.1%	0.0%	35.1%	3.5%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	6	35	0	31	2	3	3	1	81
	%	7.4%	43.2%	0.0%	38.3%	2.5%	3.7%	3.7%	1.2%	100.0%
60歳代	度数	7	61	0	39	4	3	1	13	128
	%	5.5%	47.7%	0.0%	30.5%	3.1%	2.3%	.8%	10.2%	100.0%
70歳代	度数	10	39	1	27	2	2	1	13	95
	%	10.5%	41.1%	1.1%	28.4%	2.1%	2.1%	1.1%	13.7%	100.0%
低学歴	度数	3	35	0	19	2	5	3	4	71
	%	4.2%	49.3%	0.0%	26.8%	2.8%	7.0%	4.2%	5.6%	100.0%
中学歴	度数	19	138	1	74	7	25	1	20	285
	%	6.7%	48.4%	.4%	26.0%	2.5%	8.8%	.4%	7.0%	100.0%
高学歴	度数	5	56	0	28	2	9	2	7	109
	%	4.6%	51.4%	0.0%	25.7%	1.8%	8.3%	1.8%	6.4%	100.0%

表Ⅲ-11 「見に行く」

		無回答	ミニ	ミサ	ミ	複数回答	その他	
男	度数	3	96	92	3	4	1	199
	%	1.5%	48.2%	46.2%	1.5%	2.0%	.5%	100.0%
女	度数	2	134	127	1	3	0	267
	%	.7%	50.2%	47.6%	.4%	1.1%	0.0%	100.0%
10歳代	度数	0	15	8	0	0	0	23
	%	0.0%	65.2%	34.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	0	16	12	1	1	0	30
	%	0.0%	53.3%	40.0%	3.3%	3.3%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	0	27	24	0	1	0	52
	%	0.0%	51.9%	46.2%	0.0%	1.9%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	0	26	30	0	1	0	57
	%	0.0%	45.6%	52.6%	0.0%	1.8%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	0	36	45	0	0	0	81
	%	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	2	65	56	2	3	0	128
	%	1.6%	50.8%	43.8%	1.6%	2.3%	0.0%	100.0%
70歳代	度数	3	45	44	1	1	1	95
	%	3.2%	47.4%	46.3%	1.1%	1.1%	1.1%	100.0%
低学歴	度数	1	38	28	1	2	1	71
	%	1.4%	53.5%	39.4%	1.4%	2.8%	1.4%	100.0%
中学歴	度数	4	133	141	3	4	0	285
	%	1.4%	46.7%	49.5%	1.1%	1.4%	0.0%	100.0%
高学歴	度数	0	58	50	0	1	0	109
	%	0.0%	53.2%	45.9%	0.0%	.9%	0.0%	100.0%

表Ⅲ-12 「行くから」

		無回答	カラ	サケ	スケ	ハケ	複数回 答	その他	
男	度数	7	112	64	2	13	1	0	199
	%	3.5%	56.3%	32.2%	1.0%	6.5%	.5%	0.0%	100.0%
女	度数	7	140	97	0	14	8	1	267
	%	2.6%	52.4%	36.3%	0.0%	5.2%	3.0%	.4%	100.0%
10歳代	度数	0	19	3	0	1	0	0	23
	%	0.0%	82.6%	13.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	0	26	4	0	0	0	0	30
	%	0.0%	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	0	43	7	0	2	0	0	52
	%	0.0%	82.7%	13.5%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	2	34	18	0	2	1	0	57
	%	3.5%	59.6%	31.6%	0.0%	3.5%	1.8%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	1	35	37	1	4	3	0	81
	%	1.2%	43.2%	45.7%	1.2%	4.9%	3.7%	0.0%	100.0%
60歳代	度数	7	56	47	1	11	5	1	128
	%	5.5%	43.8%	36.7%	.8%	8.6%	3.9%	.8%	100.0%
70歳代	度数	4	39	45	0	7	0	0	95
	%	4.2%	41.1%	47.4%	0.0%	7.4%	0.0%	0.0%	100.0%
低学歴	度数	3	31	31	0	5	1	0	71
	%	4.2%	43.7%	43.7%	0.0%	7.0%	1.4%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	7	156	96	2	16	7	1	285
	%	2.5%	54.7%	33.7%	.7%	5.6%	2.5%	.4%	100.0%
高学歴	度数	4	64	34	0	6	1	0	109
	%	3.7%	58.7%	31.2%	0.0%	5.5%	.9%	0.0%	100.0%

表Ⅲ-13 「行くけれども」

		無回答	ケレドモ	ドモ	サゲ・ハ ゲ	複数回答	その他	
男	度数	12	101	56	16	2	12	199
	%	6.0%	50.8%	28.1%	8.0%	1.0%	6.0%	100.0%
女	度数	13	144	77	13	4	16	267
	%	4.9%	53.9%	28.8%	4.9%	1.5%	6.0%	100.0%
10歳代	度数	1	18	1	0	0	3	23
	%	4.3%	78.3%	4.3%	0.0%	0.0%	13.0%	100.0%
20歳代	度数	1	27	2	0	0	0	30
	%	3.3%	90.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	1	35	10	3	1	2	52
	%	1.9%	67.3%	19.2%	5.8%	1.9%	3.8%	100.0%
40歳代	度数	0	36	17	1	0	3	57
	%	0.0%	63.2%	29.8%	1.8%	0.0%	5.3%	100.0%
50歳代	度数	1	37	31	4	3	5	81
	%	1.2%	45.7%	38.3%	4.9%	3.7%	6.2%	100.0%
60歳代	度数	9	60	37	13	2	7	128
	%	7.0%	46.9%	28.9%	10.2%	1.6%	5.5%	100.0%
70歳代	度数	12	32	35	8	0	8	95
	%	12.6%	33.7%	36.8%	8.4%	0.0%	8.4%	100.0%
低学歴	度数	6	30	19	11	0	5	71
	%	8.5%	42.3%	26.8%	15.5%	0.0%	7.0%	100.0%
中学歴	度数	12	153	79	16	4	21	285
	%	4.2%	53.7%	27.7%	5.6%	1.4%	7.4%	100.0%
高学歴	度数	7	61	35	2	2	2	109
	%	6.4%	56.0%	32.1%	1.8%	1.8%	1.8%	100.0%

表Ⅲ-14 「強かったなあ」

		無回答	ツヨカッタ	ツエツケ	複数回答	その他	
男	度数	6	86	100	0	7	199
	%	3.0%	43.2%	50.3%	0.0%	3.5%	100.0%
女	度数	12	103	144	2	6	267
	%	4.5%	38.6%	53.9%	.7%	2.2%	100.0%
10歳代	度数	0	14	8	0	1	23
	%	0.0%	60.9%	34.8%	0.0%	4.3%	100.0%
20歳代	度数	0	15	15	0	0	30
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	1	21	29	0	1	52
	%	1.9%	40.4%	55.8%	0.0%	1.9%	100.0%
40歳代	度数	0	21	36	0	0	57
	%	0.0%	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	1	31	46	1	2	81
	%	1.2%	38.3%	56.8%	1.2%	2.5%	100.0%
60歳代	度数	6	51	65	1	5	128
	%	4.7%	39.8%	50.8%	.8%	3.9%	100.0%
70歳代	度数	10	36	45	0	4	95
	%	10.5%	37.9%	47.4%	0.0%	4.2%	100.0%
低学歴	度数	4	29	34	0	4	71
	%	5.6%	40.8%	47.9%	0.0%	5.6%	100.0%
中学歴	度数	13	102	163	0	7	285
	%	4.6%	35.8%	57.2%	0.0%	2.5%	100.0%
高学歴	度数	1	58	47	1	2	109
	%	.9%	53.2%	43.1%	.9%	1.8%	100.0%

表Ⅲ-15 「勉強しないで」

		無回答	シねデ	シねグデ	サねグデ	複数回答	その他	
男	度数	12	114	32	29	2	10	199
	%	6.0%	57.3%	16.1%	14.6%	1.0%	5.0%	100.0%
女	度数	15	132	78	28	2	12	267
	%	5.6%	49.4%	29.2%	10.5%	.7%	4.5%	100.0%
10歳代	度数	1	14	2	4	1	1	23
	%	4.3%	60.9%	8.7%	17.4%	4.3%	4.3%	100.0%
20歳代	度数	0	22	6	1	0	1	30
	%	0.0%	73.3%	20.0%	3.3%	0.0%	3.3%	100.0%
30歳代	度数	0	32	13	5	0	2	52
	%	0.0%	61.5%	25.0%	9.6%	0.0%	3.8%	100.0%
40歳代	度数	1	39	12	4	0	1	57
	%	1.8%	68.4%	21.1%	7.0%	0.0%	1.8%	100.0%
50歳代	度数	1	45	19	11	0	5	81
	%	1.2%	55.6%	23.5%	13.6%	0.0%	6.2%	100.0%
60歳代	度数	14	61	27	15	1	10	128
	%	10.9%	47.7%	21.1%	11.7%	.8%	7.8%	100.0%
70歳代	度数	10	33	31	17	2	2	95
	%	10.5%	34.7%	32.6%	17.9%	2.1%	2.1%	100.0%
低学歴	度数	9	30	16	12	0	4	71
	%	12.7%	42.3%	22.5%	16.9%	0.0%	5.6%	100.0%
中学歴	度数	16	157	63	33	2	14	285
	%	5.6%	55.1%	22.1%	11.6%	.7%	4.9%	100.0%
高学歴	度数	2	59	30	12	2	4	109
	%	1.8%	54.1%	27.5%	11.0%	1.8%	3.7%	100.0%

表Ⅲ-16 「静かなら」

		無回答	ナラ	ダバ	ダラ	ダト	ダッタ ラ	複数回 答	その他	
男	度数	14	51	113	4	6	9	1	1	199
	%	7.0%	25.6%	56.8%	2.0%	3.0%	4.5%	.5%	.5%	100.0%
女	度数	20	55	147	3	11	25	5	1	267
	%	7.5%	20.6%	55.1%	1.1%	4.1%	9.4%	1.9%	.4%	100.0%
10歳代	度数	0	12	8	0	0	3	0	0	23
	%	0.0%	52.2%	34.8%	0.0%	0.0%	13.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	度数	2	10	14	0	0	4	0	0	30
	%	6.7%	33.3%	46.7%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	度数	0	12	27	0	4	9	0	0	52
	%	0.0%	23.1%	51.9%	0.0%	7.7%	17.3%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	度数	1	13	32	0	2	7	2	0	57
	%	1.8%	22.8%	56.1%	0.0%	3.5%	12.3%	3.5%	0.0%	100.0%
50歳代	度数	4	15	53	1	3	2	2	1	81
	%	4.9%	18.5%	65.4%	1.2%	3.7%	2.5%	2.5%	1.2%	100.0%
60歳代	度数	14	24	72	4	6	6	1	1	128
	%	10.9%	18.8%	56.3%	3.1%	4.7%	4.7%	.8%	.8%	100.0%
70歳代	度数	13	20	54	2	2	3	1	0	95
	%	13.7%	21.1%	56.8%	2.1%	2.1%	3.2%	1.1%	0.0%	100.0%
低学歴	度数	3	17	45	2	0	3	1	0	71
	%	4.2%	23.9%	63.4%	2.8%	0.0%	4.2%	1.4%	0.0%	100.0%
中学歴	度数	24	59	165	4	8	20	5	0	285
	%	8.4%	20.7%	57.9%	1.4%	2.8%	7.0%	1.8%	0.0%	100.0%
高学歴	度数	7	30	50	1	8	11	0	2	109
	%	6.4%	27.5%	45.9%	.9%	7.3%	10.1%	0.0%	1.8%	100.0%

資料

地点番号

対象番号

		—		
--	--	---	--	--

「第4回 鶴岡市における言語調査」

平成23年11月

【調査主体】 国立国語研究所・統計数理研究所

【調査実施】 株式会社日本リサーチセンター

調査員名					
------	--	--	--	--	--

検票者名	
------	--

001.	ふりがな 氏名		男・女	No.
------	------------	--	-----	-----

002.	現住所	鶴岡市
------	-----	-----

003.	生年月日	大正 昭和 平成	[] 年 [] 月 [] 日	→	大正 昭和 平成	[] 年 [] 月 [] 日
------	------	----------------	-------------------	---	----------------	-------------------

004.	調査月日	[] 月 [] 日
------	------	-------------

005.	開始時刻	1. 午前 [] 時 [] 分 2. 午後 [] 時 [] 分
------	------	--

電池チェック 録音確認

101. [] 年の [] 月生まれですね。
 (調査員注: 質問開始という印象を与えないよう、できるだけ自然に話しかけて、反応を確認し「うなずき」の「あり／なし」のどちらかに○をすること。)

1.1. うなずき (1.あり / 2.なし)

- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| 2.1. ハイ | 2.2. ハー | 2.3. エー |
| 3.1. ソー | 3.2. ン | 3.3. アー |
| 4.1. ソーダ | 4.2. ンダ | |
| 5.1. ソーデゴザイマス | 5.2. ソーデガンス | 5.3. ンデガンス |
| 6.1. ソーデス | 6.2. ンデス | |
| 7 つぎたし [] | | |
| 9 その他 [] | | |
| a. ノー | b. チャ | c. ノツジャ |
| | | d. [] |

それでは、今からことばのことについてお尋ねします。まず、カードを見て、何が書かれているかお答えください。

(調査員注:201.~231.は単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。

ヒントは、カードを提示しても対象者から回答が得られなかったときに初めて読み上げること。)

201. 【カード】 口(クチ) 1. t̥ 2. z 9. []

ヒント 201:ものを食べるところですが、なんとおっしゃいますか?

202. 【カード】 髭(ヒゲ) 1. ç 2. ø 9. []

ヒント 202:(ヒゲを指さしながら)はえているのは?

203. 【カード】 背中(セナカ) 1. s 2. š, ç 9. []

1. / 2. \ 9. []

ヒント 203:(セナカ全体を指さしながら)ここ全体を何とおっしゃいますか?

204. 夏、働くと背中からだらだら流れるものを何とおっしゃいますか。

- 汗(アセ) 1. s 2. š, ç 9. []

205. 【カード】 蜂(ハチ) 1. t̥ 2. z 9. []

ヒント 205:ちくりと刺されるとはれあがる…

206. 【カード】 鳩(ハト) 1. t 2. d 9. []

ヒント 206:ポップポップとなくのは?

207. 【カード】 猫(ネコ) 1. k 2. g 9. []

1. \ 2. / 9. []

ヒント 207:ニャアンとなくのは?

208. 【カード】 蛇(ヘビ) 1. x 2. ø 9. []

ヒント 208:ニョロニョロ這うのは?

209. 【カード】 窓(マド) 1. d 2. ð 9. []

ヒント 209:ガラスのはまっているのは?開けたり閉めたりするところです。

210. 【カード】 旗(ハタ) 1. t 2. d 9. []

1. / 2. _ (\) 9. []

ヒント 210:なにをあげるといいますか?この人が手で上げているのは?

211. 【カード】 鈴(スズ) 1. ð 2. ž 9. []

ヒント 211:チリンチリンとならすのは?(猫の首につけるのは?)

212. 【カード】 帯(オビ) 1. b 2. ð 9. []

ヒント 212:なにをしめるといいますか?

213. 【カード】 靴(クツ) 1. ts 2. z 9. []

ヒント 213:履くのは、下駄じゃなくて…

214. 【カード】 柿(カキ) 1. k 2. g 9. []

ヒント 214:秋赤く実るのは?(渋いものもあります)

215. 【カード】 松(マツ) 1. ts 2. z 9. []

ヒント 215:これは、梅、竹、ではなくて…

216. 【カード】 西瓜(スイカ) 1. k 2. g^w, k^w 9. []

ヒント 216:中が赤い…

217. 曜日の名前についておたずねしますが、
日曜日のつぎは月曜日、では月曜日のつぎは何とおっしゃいますか。

- 火曜日(カヨウビ) 1. k 2. k^w 9. []

218. 【カード】 97, 98, 99の次は何ですか。

- 百(ヒヤク) 1. ç 2. ø 9. []

□ 219. 税金をとりたてる役所を何とおっしゃいますか。

税務署(ゼイムシヨ) 1. ㄐ 2. ㄗ 9. []

□ 220. 口からハーツとはくもの、これを何とおっしゃいますか。

息(イキ) 1. i 2. è 3. i 9. []

ヒント 220: (口の前に手をかざして)

□ 221. 【カード】 駅(エキ) 1. e 2. è 3. i 9. []

ヒント 221: 昔は停車場といいましたが、今の言い方では?(電車のとまるどころ)

□ 222. 【カード】 糸(イト) 1. i 2. è 3. i 9. []

ヒント 222: ぬいものに使うのは?(針に通すのは?)

□ 223. 【カード】 煙突(エントツ) 1. e 2. è 3. i 9. []

ヒント 223: 煙が出るのは…

□ 224. 市でいちばん上の人を「市長」と言いますが、県でいちばん上の人を何とおっしゃいますか。

知事(チジ) 1. i 2. i 9. []

□ 225. 【カード】 地図(チズ) 1. ㄣ 2. i 9. []

ヒント 225: (全体を指しながら)これは日本の…

□ 226. 【カード】 島(シマ) 1. i 2. i 9. []

ヒント 226: 海に浮かんでいる小さな陸地です

□ 227. 【カード】 墨(スミ) 1. ㄣ 2. i 9. []

ヒント 227: 習字のすずりと…

□ 228. 【カード】 烏(カラス) 1. ㄣ 2. i 9. []

1.  2.  9. []

ヒント 228: カーカーなくのは…

□ 229. こちらの名産の小さななすを漬ける辛い黄色い粉を何とおっしゃいますか。

辛子(カラシ) 1. i 2. i 9. []

ヒント 229: おでんなどに付ける…

□ 230. 【カード】 狐(キツネ) 1. ㄣ 2. i 9. []

ヒント 230: コンコンなくのは…

□ 231. 【カード】 団扇(ウチワ) 1. i 2. i 9. []

1.  2.  9. []

ヒント 231: あおぐのは…

これから、少し内容の違うご質問をします。

(調査員注:241.~271.は単語だけの回答でなくてもかまわないが、下線部の単語が全く含まれていない場合には、**「●の部分を含めて、もう一度おっしゃってください」と、促すこと。**

質問文を2回読みあげても回答が得られない場合は、選択肢を1つずつ読みあげて、それぞれ使うか使わないかを聞いていく。使うと答えたものすべてに○印をつけた上で、□にチェックすること。)

241. 「あの人はいつも遅れてくる」という時、「いつも」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. イツモ 2. ショツチュー 3. トース、トーシン 9.[]
-
242. 「わたくしが留守番をしています」という時、「留守番」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. ルスバン 2. ルスイ 3. ヨスリ 9.[]
-
243. 「どうぞこちらへいらっしゃい」といねいにいう時、「いらっしゃい」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. イラツシャイ 2. ゴザへ 3. ハイテクネヘン 9.[]
-
244. 「くたびれた、もう歩けない」という時の「もう」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. モー 2. アド 9.[]
-
245. うしろから急にワツと大きい声をかけられた時の感じですが、「アツ、どうした」とおっしゃいますか。
1. オドロイタ 2. ビックリシタ 3. オボゲタ 4. ハトモタ 9.[]
-
246. みんなのしている前で失敗して、顔が赤くなるような感じをつつどんなだとおっしゃいますか。
1. ハズカシイ 2. ショ(一)ス(一) 9.[]
-
247. 相手からお金をとって物を渡すのは「売る」と言いますが、お金をとらないで物を「与える」という時には、
つつどうするとおっしゃいますか。
1. クレル 2. クエル 3. ケル 9.[]
-
248. 【カード】冬、軒先などにさがるコオリの棒です。これを何とおっしゃいますか。
1. ツララ 2. シガ、スガ 3. タロキ 9.[]
-
249. 「このお菓子はコーデうめえちゃ」などのように、「コーデ」という言葉をお使いになりますか。(使わないと答えた人には「聞けばわかりますか」と尋ねる。)
1. 使う 2. 使わないが聞けばわかる 3. 知らない
-
261. こども(弟・妹)にむかって「朝寝坊をしないで早く起きる」という時、つつ何とおっしゃいますか。
(調査員注:「子ども」は、自分の子どもに限らず、自分より年齢の低い子ども(小さな子)に向かって言っているシーンを想定して回答してもらおう。)
1. オキロ 2. オキレ 9.[]
-
262. あなたが親しい友達にむかっていう時の言葉についていくつかお尋ねします。
「わたくしたちもいっしょに行こう」という時、「わたくしたち」ということをつつ何とおっしゃいますか。
(「われわれ」という回答が出た場合)他の言い方はありませんか?
1. ~タチ 2. ~ドモ 3. ~ガタ 9.[]
-
263. では、「おもしろい映画だってね。いっしょに見に行かないか」という時、「見に行かないか」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. ミニ 2. ミサ 3. ミエ 9.[]
-
264. では、「おれも行くから、ちょっと待ってくれ」という時、「行くから」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. ~カラ 2. ~サケ 3. ~スケ 4. ~ハケ 9.[]
-
265. 同じように、親しい友達にむかっていう時の言葉についてもうすこしお尋ねしますが、「おれも行くけれども早くは行けない」という時「行くけれども」ということをつつ何とおっしゃいますか。
1. ~ケレドモ 2. ~ドモ 9.[]

- 266. では、「あの人はずいぶんすもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、「強かったなあ」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ツヨカッタ 2. ツイエケ・ツエケ 3. ツヨイケ 9.[]

- 267. では、「どうも、この子(弟・妹)は勉強しないで困る」という時、「勉強しないで」ということをおっしゃいますか。
1. ~シナイデ・シねデ 2. ~シナクテ 3. ~サねデ 4. ~サねクテ
9.[]

- 268. では、「もっと海が静かならいいんだがなあ」という時、「静かなら」ということをおっしゃいますか。
1. ~ナラ(バ) 2. ~ダバ 3. ~ダラ(バ) 9.[]

- 269. もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「(〇〇先生が)あなたをほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。
1. アナタオ・アンタオ 2. オめーオ 3. オメコ 4. オめコト
5. オメバ 6. アナタ・アンタ 7. オめー 9.[]

- 270. 小学校時代の先生から「あなたは何年何月なんねんなんがつ生まれですね」ときかれて、「そうです」と答える時、ふつう何とおっしゃいますか。
(調査員注:質問をした後、反応を確認し「うなずき」の「あり/なし」のどちらかに○をすること。)

1.1. うなずき (1. あり / 2. なし)

- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| 2.1. ハイ | 2.2. ハー | 2.3. エー |
| 3.1. ソー | 3.2. ン | 3.3. アー |
| 4.1. ソーダ | 4.2. ンダ | |
| 5.1. ソーデゴザイマス | 5.2. ソーデガンス | 5.3. ンデガンス |
| 6.1. ソーデス | 6.2. ンデス | |
| 7 つぎたし [] | | |
| 9 その他 [] | | |
| a. ノー | b. チャ | c. ノッシャ |
| d. [] | | |

- 271. 尊敬している先生にむかっていう時の言葉についてお尋ねします。
「この絵はあなたがかいたのか」と尋ねる時、ふつう何とおっしゃいますか。
- | | | | | |
|---------------|---|---|-------------|-----|
| 1. オカキニ(ン)ナッタ | ● | ● | ノ(ン)デゴザイマスカ | (1) |
| 2. カカレタ | ● | ● | ノ(ン)デスカ | (2) |
| 3. オカキナリマシタ | ● | ● | ノ(ン)デガンスカ | (3) |
| 4. カカハリマシタ | ● | ● | ノ(ン)ダカ | (4) |
| 5. カカシタ | ● | ● | ノカ | (5) |
| 6. カイタ | ● | | | |
| 9. [] | | | | |

では、またこのカードをご覧ください。

(調査員注:301.~303.は単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。
ヒントは、カードを提示した上で質問文を2回読みあげても対象者から回答が得られなかったときに初めて読みあげること。)

- 301.** 【カード】 ここにある、食べ物を消化するところを何とおっしゃいますか。

胃 (イ) 1. i 2. è 3. i 9. []

- 302.** 【カード】 景色などを描いた物を何とおっしゃいますか。写真ではなく…

絵 (エ) 1. e 2. è 3. i 9. []

ヒント 302: 1文字で言うと…, 絵画のことを簡単に言うと…

- 303.** 【カード】 自分の顔をうつすための、こういうものを何とおっしゃいますか。

鏡 (カガミ) 1. ga 2. ŋa 3. ~ga 4. ~ŋa 9. []

ヒント 303: ガラスの板

先ほども答えていただきましたが、これを標準語で発音してみてください。

(標準語は話せないと言われた場合)できるだけ、ということ結構ですので、発音してみてくださいませるか。

(調査員注:304.~310.は、標準語で単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。)

- 304.** 【カード】 猫 (ネコ) 1. k 2. g 9. []

1. \ 2. / 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 305.** 【カード】 蛇 (ヘビ) 1. x 2. φ 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 306.** 口からハーツとはくもの、これを何とおっしゃいますか。
できるだけ標準語でお答えください。

息 (イキ) 1. i 2. è 3. i 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 307.** 【カード】 駅 (エキ) 1. e 2. è 3. i 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 308.** 【カード】 鳥 (カラス) 1. u 2. i 9. []

1. \ 2. / 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 309.** 【カード】 団扇 (ウチワ) 1. i 2. i 9. []

1. \ 2. / 9. []

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

- 310.** 【カード】 寿司 (スシ)

第1母音 1. u 2. i 9. []

第2母音 1. i 2. i 9. []

ヒント 301: 酢を混ぜたご飯を握って、その上にマグロやイカなどをのせた食べ物を何とおっしゃいますか。

(調査員注:できるだけ標準語で回答してもらうこと。)

それでは、次の文も標準語の発音で読んでみてください。

(標準語は話せないと言われた場合)できるだけ、ということで結構ですので、読んでみていただけますか。

- 311. 【カード】 猫がいる。
- 312. 【カード】 ヘビがいる。
- 313. 【カード】 息が苦しい。
- 314. 【カード】 駅が見える。
- 315. 【カード】 カラスが見える。
- 316. 【カード】 ウチワがある。
- 317. 【カード】 寿司を食べる。

次は、鶴岡弁で発音してください。

ご自身がふだんお使いになることばということではなくて、例えば、昔、おじいさんやおばあさんが使っていたような発音を真似して、できるだけ鶴岡弁らしく発音してみてください。

(調査員注: 318.~324.は、鶴岡弁で単語だけを答えてもらう。また、調査員自身は絶対にその単語を発音してはいけない。)

- 318. 【カード】 猫 (ネコ) 1. k 2. g 9. []
 1. \ 2. / 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 319. 【カード】 蛇 (ヘビ) 1. x 2. ø 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 320. 口からハーッとほくもの、これを何とおっしゃいますか。
 できるだけ昔、おじいさんやおばあさんが使っていたような発音でお答えください。

 息 (イキ) 1. i 2. è 3. i 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 321. 【カード】 駅 (エキ) 1. e 2. è 3. i 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 322. 【カード】 烏 (カラス) 1. ʊ 2. i 9. []
 1. \ 2. / 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 323. 【カード】 団扇 (ウチワ) 1. i 2. i 9. []
 1. / 2. \ 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

- 324. 【カード】 寿司 (スシ)
 第1母音 1. ʊ 2. i 9. []
 第2母音 1. i 2. i 9. []

(調査員注: できるだけ、「鶴岡弁らしい」発音で回答してもらうこと。)

それでは、今度はふだんよく話をする親しい友達を思い浮かべてください。その方を仮に A さんとします。これから親しい A さんとふだん話すときに使うことばをおたずねします。

(調査員注:325.~331.は、必ず下線部の単語を含んだ文を答えてもらおう。

『 』の文そのままでもよいが、下線部の単語が抜けてしまった場合は、「●という言葉を入れて、もう一度おっしゃってください」と、促すこと。)

- 325. 猫にひっかかれて手に傷ができましたとします。A さんから「その傷はどうしたのか」というようなことを聞かれて、『猫にひっかかれたんだ』と答えるとしたら、何と言いますか。
- 326. A さんに『私は蛇が嫌いだ』と言うとしたら、何と言いますか。
- 327. A さんにうしろから「ワッ」と大きな声でおどかされたとします。そのようなとき、『おどろいた。息が止まるかと思った』と言うとしたら、何と言いますか。
- 328. A さんに『向こうに見えるのは駅かなあ』と聞くとしたら、何と言いますか。
- 329. 遠くの方に黒い鳥が見えます。A さんから「あの鳥はなんだろう」というようなことを聞かれて、『たぶんカラスではないか』と答えるとしたら、何と言いますか。
- 330. A さんに『悪いけど、うちわを持ってきてくれ』と頼むとしたら、何と言いますか。
- 331. A さんに『今から寿司を食べに行かないか』と言うとしたら、何と言いますか。
- 332. ところで、今、思い浮かべていただいた A さんは鶴岡出身の方ですか。

1.はい

2.いいえ →どこのご出身ですか [

]

最後に、ことば以外のことについて伺います。

□ 401. お生まれはどちらですか。ずっとここにお住まいですか。

1. はい 2. いいえ → それでは、これまでに1年以上お住まいになったところを教えてください。

(調査員注:「2.いいえ」の場合には以下の二重線枠内に記入)

年齢 (歳)	居 住 地		理由 (就職・結婚等)
	鶴 岡 市 内	鶴 岡 市 内 以 外	
0～	(町・大字など)	都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～		都道 府県	市・町・村
～			

□ 402. あなたの本籍はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	(都道 府県)	市・町・村	3. N.A.(回答なし)	4. D.K.(わからない)
--------	----------	---	----------	---	-------	---------------	----------------

□ 403-1 父親の出身地はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	(都道 府県)	市・町・村	3. N.A.(回答なし)	4. D.K.(わからない)
--------	----------	---	----------	---	-------	---------------	----------------

□ -2 母親の出身地はどちらですか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外	(都道 府県)	市・町・村	3. N.A.(回答なし)	4. D.K.(わからない)
--------	----------	---	----------	---	-------	---------------	----------------

□ -3 配偶者(夫・妻)の出身地はどちらですか。

(調査員注:配偶者がいない場合は「1 配偶者なし」に○印をつけること。)

1. 配偶者なし	2. 鶴岡市	3. 鶴岡市以外	(都道 府県)	市・町・村	4. N.A.(回答なし)	5. D.K.(わからない)
----------	--------	----------	---	----------	---	-------	---------------	----------------

□ 404. この半年間に庄内以外へおいでになったことがありますか。

場 所	回 数	用 事

□ 405.-1 【カード】あなたのご職業・定職は何ですか。この中から、あてはまるものを1つお答えください。いくつかの職業をお持ちの方は、主なものを1つだけお答えください。

1. 農林水産業	8. 主婦(専業主婦)
2. 自営の商工業	9. 無職・休職中
3. 専門, 自由業(教員, 医者など)	10. 定年退職
4. 管理職(課長以上)	11. その他 (具体的に)
5. 事務系の勤め人	
6. 作業系の勤め人	
7. 学生	

□ 405.-2 <405.-1で「8.主婦(専業主婦)」「9.無職・休職中」「10.定年退職」と答えた人に>
【カード】一番最後になされたお仕事を教えてください。

1. 農林水産業	7. 仕事の経験はない
2. 自営の商工業	8. その他 (具体的に)
3. 専門, 自由業(教員, 医者など)	
4. 管理職(課長以上)	
5. 事務系の勤め人	
6. 作業系の勤め人	

<全員に>

□ 406.-1 【カード】小学校を卒業した後、どんな学校にいらっしゃいましたか。この中から最後に行かれた学校を1つだけお答えください。

1. 高等小学校	2. (新制)中学校	3. 旧制中学校	4. (新制)高等学校
5. 旧制高等学校	6. 専門学校	7. 短期大学	8. 大学
9. 大学院	10. その他()		

<405.-1で、「7 学生」以外を答えた方に>

□ 406.-2 【カード】最後に行かれた学校は、ご卒業されましたか。

1. 卒業	2. 中退	3. N.A.
-------	-------	---------

<全員に>

□ 406.-3 その学校(最後に通った学校)はどこにありましたか。鶴岡市ですか。それ以外の市ですか。(鶴岡市以外の場合)具体的には何市(町・村)にありましたか。

1. 鶴岡市	2. 鶴岡市以外 (_____ 市・町・村(_____ 都道府県))	3. N.A.
--------	---------------------------------------	---------

＜405.-1 で、「7 学生」以外を答えた方に＞

- 407.-1 あなたは、町内会や婦人会、青年団、PTAなどで役員をした経験がありますか。

1. 経験あり 2. 経験なし 3. 非加入 4. N.A.

＜全員に＞

- 407.-2 あなたは、学校で何か委員をした経験がありますか。

(経験がある場合)どんな委員ですか。経験したことのある委員名を、すべてお知らせください。

(複数回答可)

1. 経験あり 2. 経験なし 3. N.A.

委員名 _____

501. 最後になりましたが、国立国語研究所では、将来も鶴岡市で今回の様な「ことばの調査」を継続していきたいと考えています。何年後になるか分かりませんが、そのときに改めて、あなた様にもご協力をお願いを差し上げてよろしいでしょうか？ もちろん協力するか否かはそのときに判断いただいてもかまいません。

1. 可 2. 不可(辞退する) 3. N.A.

502. 後でまたお聞きしたいことが出てくるかもしれませんので、電話番号を教えていただけませんか。

N.A.

- ガイドライン説明
 承諾書の記入
 謝礼品を渡す

503. (調査員注:レコーダーは停止せずに資料を片付けながら、調査は終了した様子でできるだけ自然に聞く。記入は対象者宅を出てから(直後に)行うこと。)

ありがとうございました。

ところで、ちょっとお伺いしますが、この近くの郵便局(コンビニ)はどちらでしょうか。

1. 標準語 2. 方言 3. 混ざる

- 録音終了

【これ以降は、対象者宅を出てから記入】

504. 終了時刻

1. 午前		時		分	(調査時間: _____分)
2. 午後					

505. 調査全般の被調査者のことば〔調査員判定〕

1. 正しい 共通語	2. 共通語だがどこ となくちがう	3. 共通語が 混ざる	4. 共通語を 話さない	5. 共通語が 通じない
---------------	----------------------	----------------	-----------------	-----------------

506. -1 調査に対する被調査者の態度〔調査員判定〕

(調査員注: 調査の途中で被調査者の態度が変わった場合は、○印をつけるとともに、その推移に従って矢印でつないで示すこと)

1. 積極的	2. ふつう	3. 消極的	4. 拒否的
--------	--------	--------	--------

-2 調査した場所

1. 自宅	2. 勤務先	9. [_____]
-------	--------	--------------

〃

1. 部屋の中	2. 玄関先	3. 店先	9. [_____]
---------	--------	-------	--------------

-3 同席者

1. 本人のみ	2. 配偶者	3. 子ども	9. [_____]
---------	--------	--------	--------------

-4 反応までの時間

1. 長いほう	2. 普通	3. 短いほう
---------	-------	---------

-5 質問に対する問いかえし

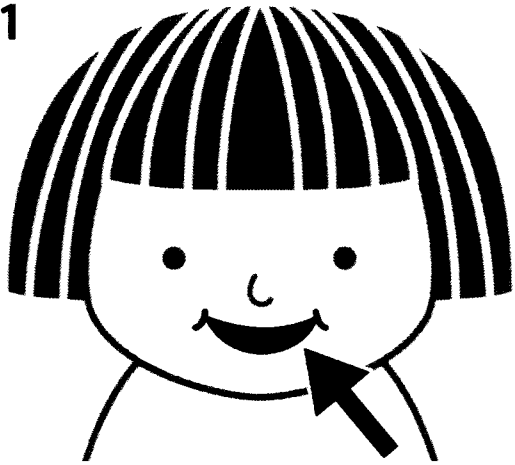
1. 多いほう	2. 普通	3. 少ないほう
---------	-------	----------

【メモ欄】

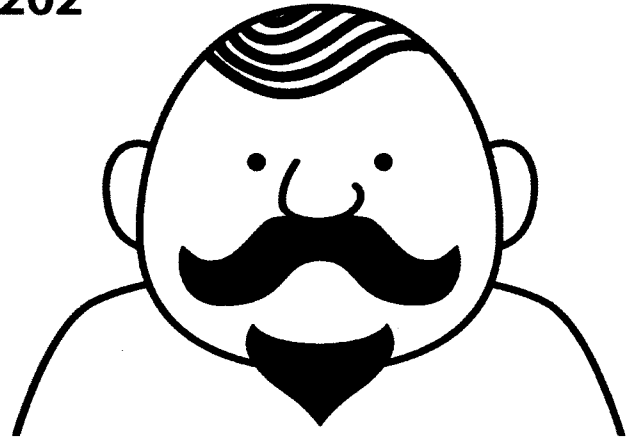
■録音状況をできるだけ記入(例: 犬の鳴き声がうるさかった等)

■その他, 調査をしていて感じたこと, メモに残しておきたいこと等, 何かあれば記入

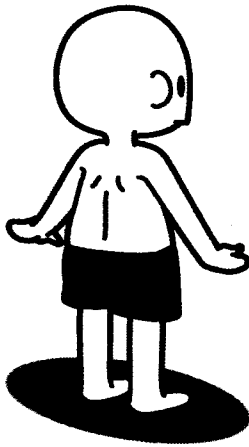
201



202



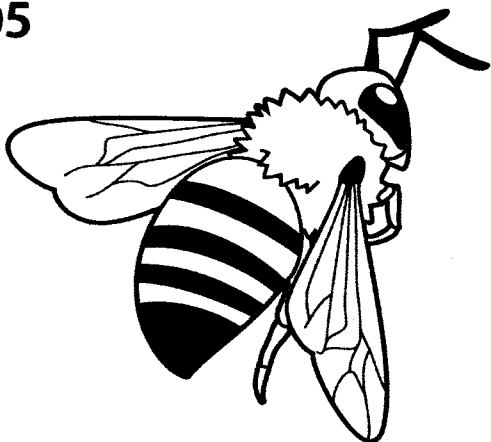
203



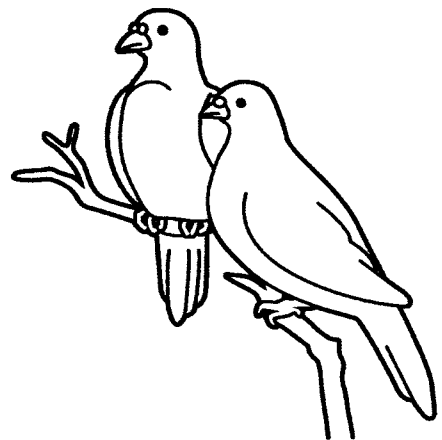
204

この質問には
イラストがありません

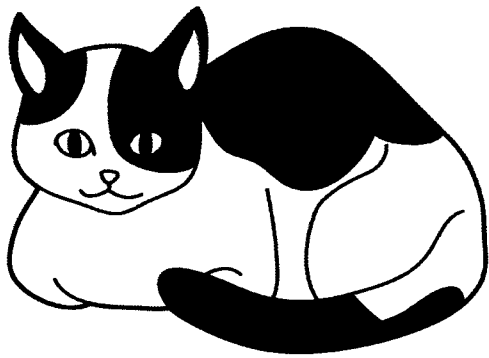
205



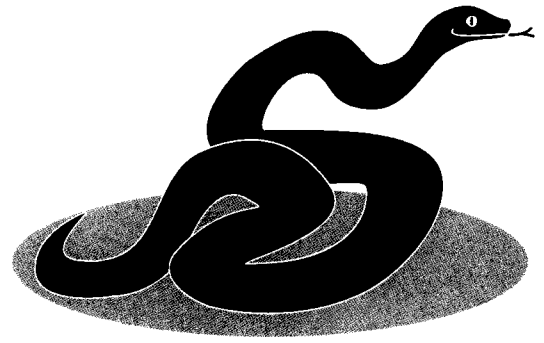
206



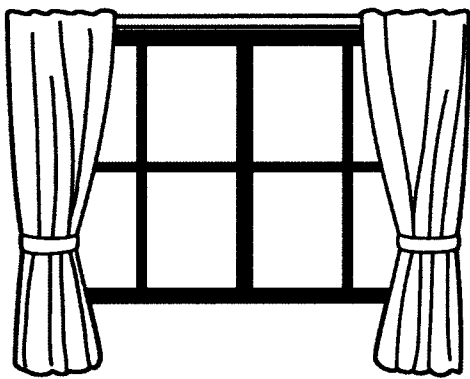
207



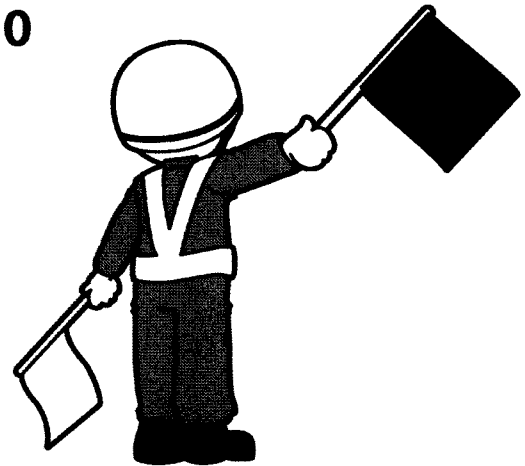
208



209



210



211



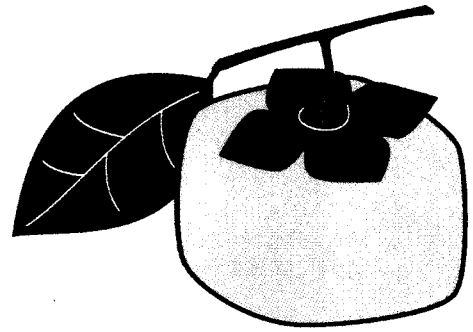
212



213



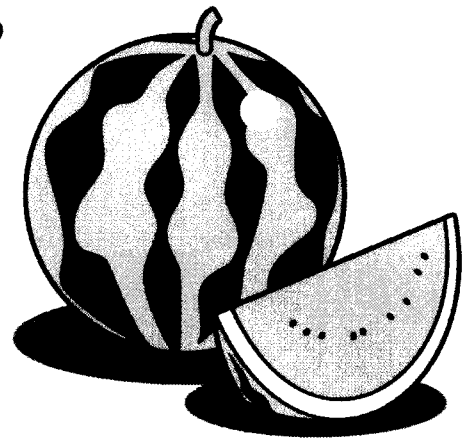
214



215



216



217

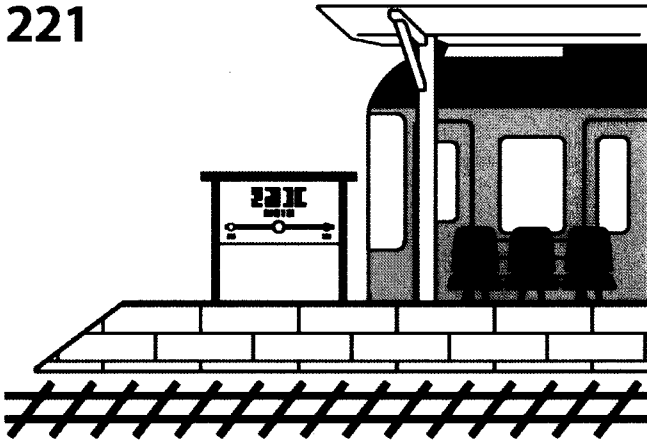
この質問には
イラストがありません

218

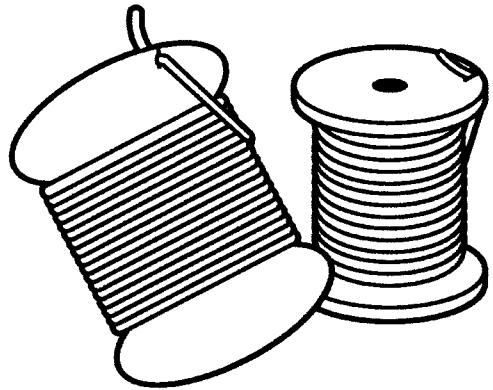
97,98,99,

この質問には
イラストがありません

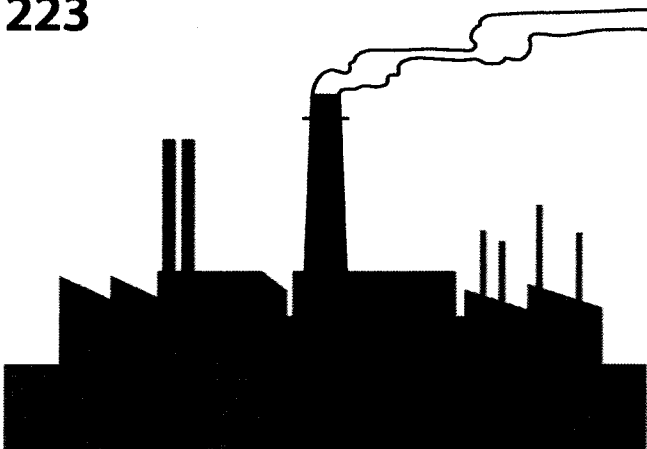
221



222



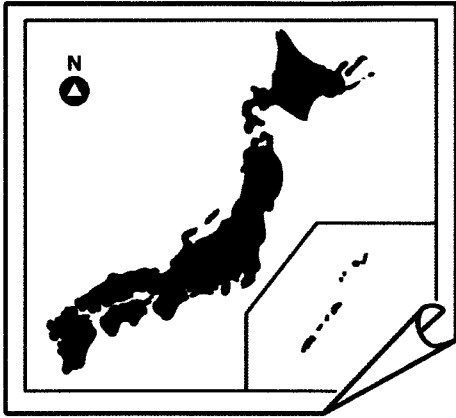
223



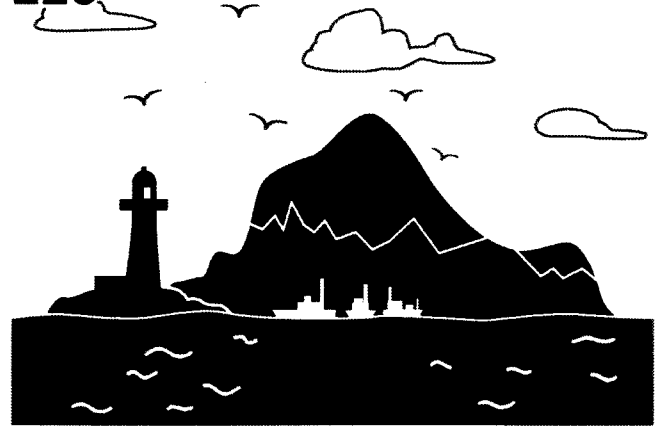
224

この質問には
イラストがありません

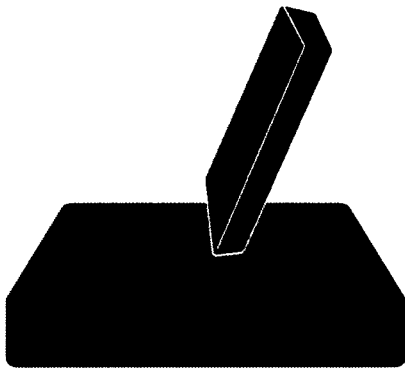
225



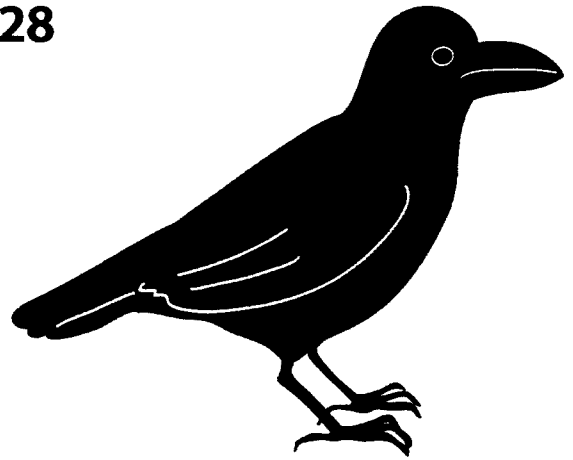
226



227



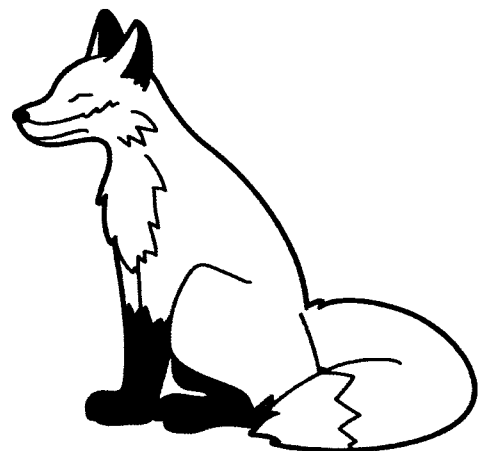
228



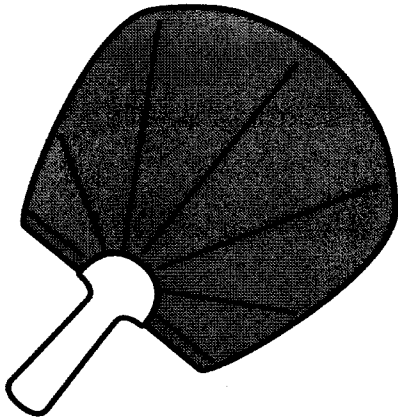
229

この質問には
イラストがありません

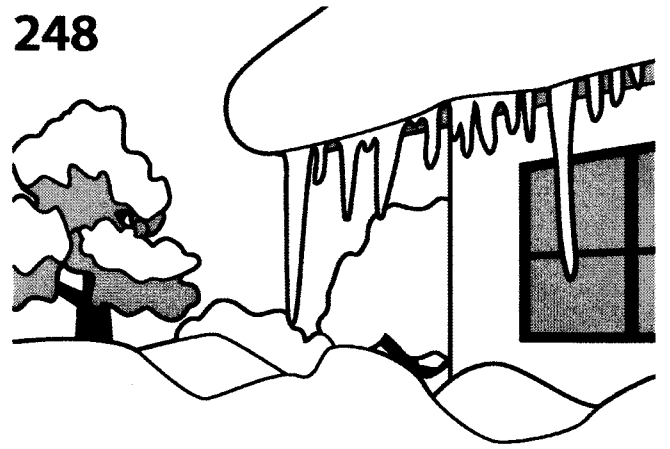
230



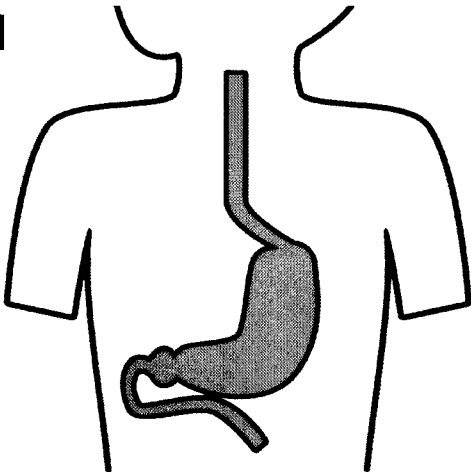
231



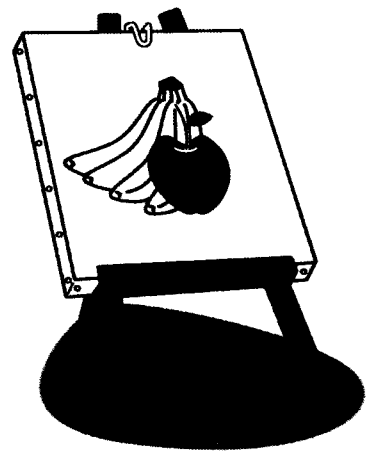
248



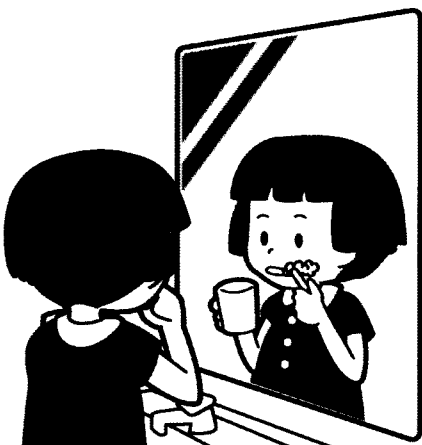
301



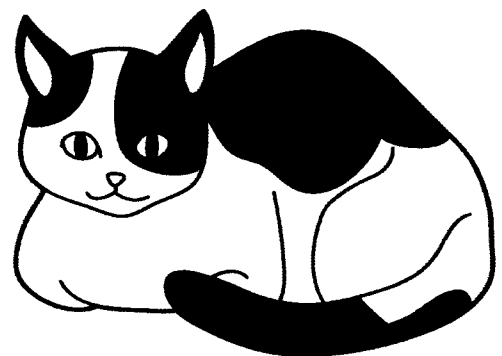
302



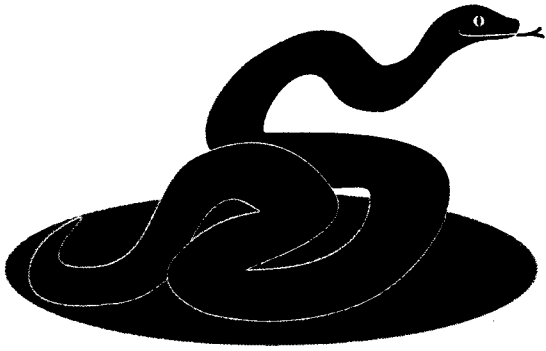
303



304



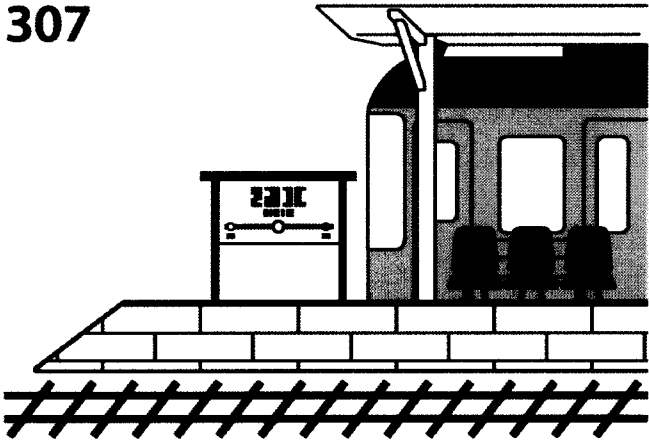
305



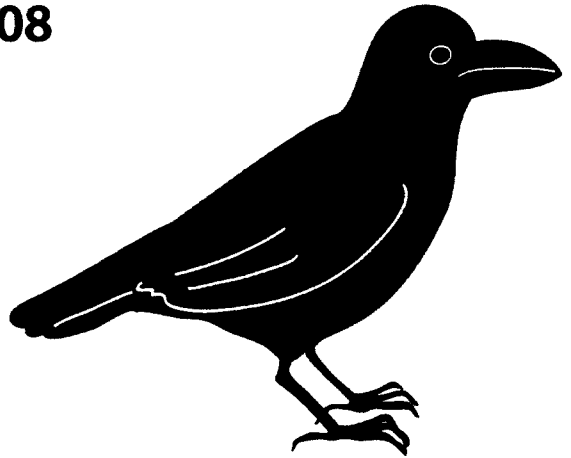
306

この質問には
イラストがありません

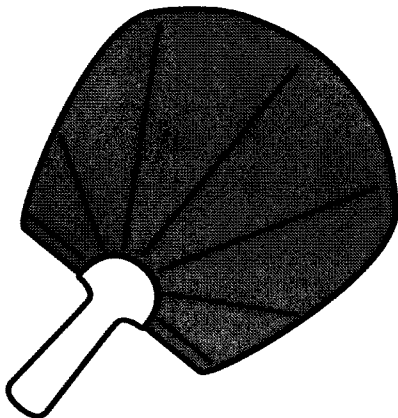
307



308



309



310



311

猫がいる

312

へびがいる

313

息が苦しい

314

駅が見える

315

カラスが見える

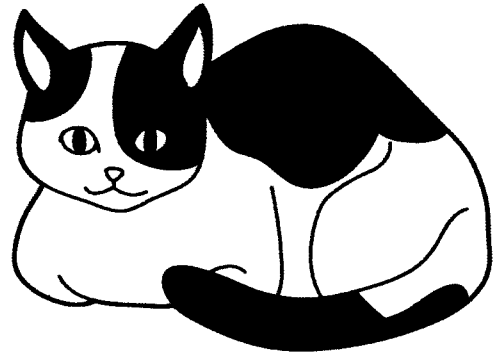
316

ウチワがある

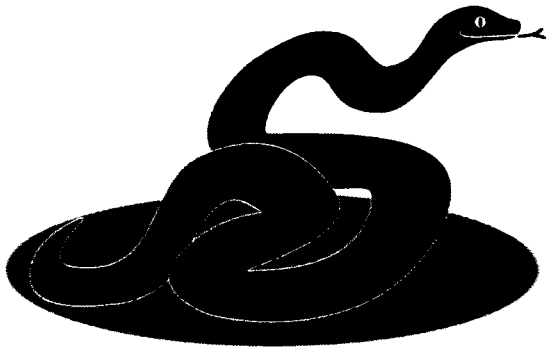
317

寿司を食べる

318



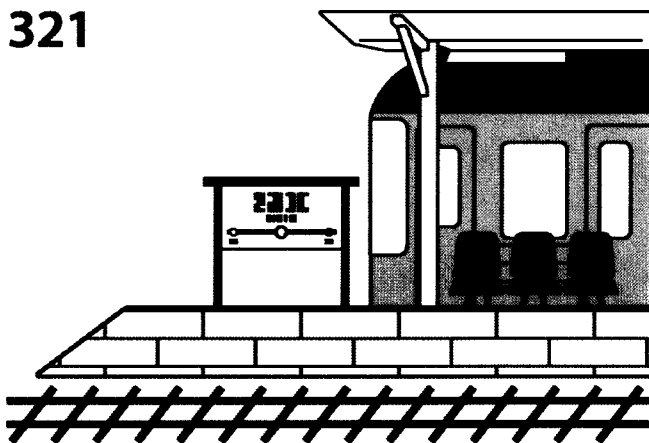
319



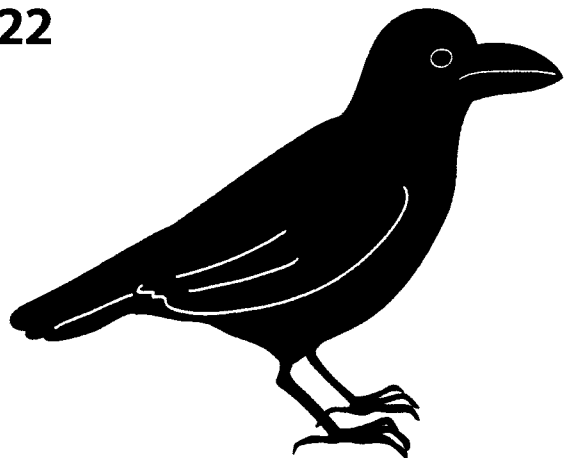
320

この質問には
イラストがありません

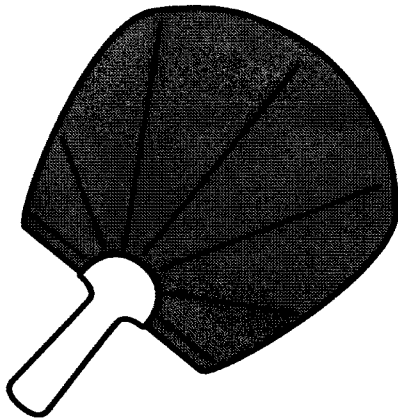
321



322



323



324



405-1

405-2

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1. 農林水産業 | 6. 作業系の勤め人 |
| 2. 自営の商工業 | 7. 学生 |
| 3. 専門、自由業
(教員、医者など) | 8. 主婦(専業主婦) |
| 4. 管理職(課長以上) | 9. 無職・休職中 |
| 5. 事務系の勤め人 | 10. 定年退職 |

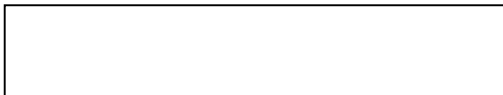
- | | |
|------------------------|-------------|
| 1. 農林水産業 | 6. 作業系の勤め人 |
| 2. 自営の商工業 | 7. 仕事の経験はない |
| 3. 専門、自由業
(教員、医者など) | |
| 4. 管理職(課長以上) | |
| 5. 事務系の勤め人 | |

406-1

406-2

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 高等小学校 | 6. 専門学校 |
| 2. 新制中学校 | 7. 短期大学 |
| 3. 旧制中学校 | 8. 大学 |
| 4. 新制高等学校 | 9. 大学院 |
| 5. 旧制高等学校 | 10. その他 |

1. 卒業
2. 中退
3. 在学中



第4回 鶴岡市における言語調査 言語生活調査票

2011（平成23）年11月

国立国語研究所・統計数理研究所

＜ご回答いただくにあたってのお願い＞

- (1) このアンケート用紙にお答えいただきたいのは、**宛名のご本人様**です。
- (2) 質問番号の順番に、**鉛筆か、黒又は青のボールペン**であてはまる番号に○をつけてください。
- (3) きたる **11月11日(金)～11月28日(月)の間**に、両研究所の調査員または委託先である(株)日本リサーチセンターの調査員がお宅を訪問いたします。その際、ご記入済みのアンケート用紙を、調査員にお渡しください。
- (4) お礼の粗品を用意しておりますので、調査員からお受け取りください。

日常生活の中でふだん使っておられることばやことばに対するご意見をお尋ねします。むずかしく考えないでお答えください。

【昨日のことについておうかがいします。】

問1. あなたは昨日、「家の中」で次のようなやりとりをしましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 相談 | 5. さしずした |
| 2. 言い争い | 6. さしずされた |
| 3. 家人に注意やごごと | 7. 御用聞き・集金人・セールスマンとの応対 |
| 4. 用事の話 | 8. その他お客との応対 |
| | 9. やりとりはしていない |

問2. あなたが昨日、「家の中」で、家族と雑談をしたのはいつでしたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 朝食のとき | 4. お茶・夜食のとき |
| 2. 昼食のとき | 5. その他（具体的に) |
| 3. 夕食のとき | 6. 雑談はしていない |

問3. あなたは昨日、職場や学校や喫茶店など「家以外の場所」で、次のような人と話をしましたか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1. 先生や上役の人と | 5. あまり心安くない人と |
| 2. 友達や同僚と | 6. はじめて会った人と |
| 3. 部下や生徒と | |
| 4. 来客と | |
| | 7. 話していない →次ページの間5へお進みください |

<問3で「1先生や上役の人と」～「6.はじめて会った人と」と答えた方にうかがいます。>

問4. 問3で○をつけた人とは、次のような内容の話をしましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| 1. 質問 | 4. 会議 | 7. 雑談 |
| 2. 相談・打合せ | 5. さしずした | 8. この中にはない |
| 3. 交渉・話し合い | 6. さしずされた | |

<全員の方にうかがいます。>

問5. あなたは昨日、次のようなものを聞きましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------|-------------|--------------------|
| 1. ラジオ | 3. 宣伝カーの放送 | 5. 外国語での会話・説明・放送など |
| 2. テレビ | 4. その他の街頭放送 | 6. この中にはない |

問6. では、あなたは昨日、次のような内容を聞きましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 演説 | 3. 案内・お知らせ | 5. この中にはない |
| 2. 講義・訓話・説教 | 4. ニュース | |

問7. あなたは昨日、次のようなものを読みましたか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-----------|------------|----------|----------------|
| 1. 新聞 | 4. 教科書・参考書 | 7. 小説の本 | 10. パソコンのEメール |
| 2. 週刊誌 | 5. 辞書 | 8. 漫画 | 11. 携帯電話のメール |
| 3. その他の雑誌 | 6. 外国語 | 9. その他の本 | 12. インターネットの情報 |
| | | | 13. この中にはない |

問8. あなたは昨日、次のようなものを書きましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------|--------------|-------------|
| 1. 日記 | 4. 職場での書き物 | 8. ブログ |
| 2. はがき | 5. 署名 | 9. その他の文章 |
| 3. 手紙 | 6. パソコンのEメール | 10. この中にはない |
| | 7. 携帯電話のメール | |

問9. では、あなたは昨日、次のようなものは書きましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------|----------------|------------|
| 1. 伝票 | 4. メモ | 7. この中にはない |
| 2. 帳簿 | 5. ノート | |
| 3. 家計簿 | 6. 届・申込みその他の書類 | |

問10. あなたは昨日、次のような筆記用具・道具を使いましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 1. 鉛筆 | 5. ボールペン | 9. パソコン |
| 2. 万年筆 | 6. サインペン | 10. 携帯電話・携帯端末 |
| 3. 筆 | 7. タイプライター | 11. この中にはない |
| 4. シャープペンシル | 8. ワープロ専用機 | |

【ここからは、あなたご自身のことについて、いくつかおうかがいします。】

問11. あなたは、近所の人とおしゃべりをするのが好きですか。(○は1つだけ)

1. 好き 2. どちらかといえば好き 3. どちらかといえば嫌い 4. 嫌い

問12. 集会や会議などに出席するのは好きですか。(○は1つだけ)

1. 好き 2. どちらかといえば好き 3. どちらかといえば嫌い 4. 嫌い

問13. 人前で話ができるほうですか。(○は1つだけ)

1. できる 2. どちらかといえばできる 3. どちらかといえばできない 4. できない

問14. 他人と話をするとき、自分のことばが気になるほうですか。(○は1つだけ)

1. 非常に気になる 2. 少し気になる 3. あまり気にならない 4. 全然気にならない

問15. 旅先で、あなたは見知らぬ人に気軽に話しかけるほうですか。(○は1つだけ)

1. はい 2. いいえ

問16. 旅先で、あなたは見知らぬ人に話しかけられたら気軽に応じるほうですか。(○は1つだけ)

1. はい 2. いいえ

問17. あなたは、ご近所の方との程度のおつき合いがありますか。(○は1つだけ)

1. 親しくつき合っている人がかなりいる 3. 世間話をする程度の人だけ
2. 親しくつき合っている人が数人いる 4. あいさつをかわす程度の人だけ
5. ほとんどつき合いがない

問18. 「標準語で話すと話の真実味が少ない」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

1. 全く賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 全く反対

問19. 「方言まるだしでも話が通じればよい」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

1. 全く賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 全く反対

問20. 「小中学校で、方言のよさを見直す教育をすべきだ」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。

(○は1つだけ)

1. 全く賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 全く反対

問21. 日記や友人に出す手紙を書くときに、方言が混ざることがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. ほとんど方言で書くことが多い | 3. 方言と標準語がほぼ半々のことがある |
| 2. 方言がかなり混ざることがある | 4. 方言がすこしは混ざることがある |
| | 5. 方言が混ざるとは全くない |

問22. ブログや友人に出すEメールを書くときに、方言が混ざることがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. ほとんど方言で書くことが多い | 3. 方言と標準語がほぼ半々のことがある |
| 2. 方言がかなり混ざることがある | 4. 方言がすこしは混ざることがある |
| | 5. 方言が混ざるとは全くない |

問23. あなたは庄内が好きですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|--------------|
| 1. 好き | 2. 嫌い | 3. どちらともいえない |
|-------|-------|--------------|

問24. あなたはこの地方に伝わる文化を後世に残すべきだと思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|---------|------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらでもよい |
|-------|---------|------------|

問25. あなたの標準語の手本は何だったと思いますか。あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

(○は2つまで)

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| 1. 家族のことば | 4. 書物・新聞・教科書 | 7. その他(具体的に) |
| 2. 知人・親戚のことば | 5. テレビ | 8. わからない |
| 3. 教師のことば | 6. 職場の人たちのことば | 9. 特になし |

問26. あなたが話をしているとき、使っていることばからよその地方の人に出身地を当てられたら、どのような感じがしますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. 誇らしく思う | 4. よく当てたと思ひ面白く感じる |
| 2. いやな感じがする | 5. その他(具体的に) |
| 3. 何とも感じない | 6. わからない |

問27. ことばに関係なく、紹介などで他の地方の人に出身地を知られたらどのような感じがしますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 誇らしく思う | 4. その他(具体的に) |
| 2. いやな感じがする | 5. わからない |
| 3. 何とも感じない | |

問28. 自分の子どもや孫にはどんなことばを使ってほしいと考えていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 標準語だけを使ってほしい | |
| 2. 場合によって、標準語と鶴岡弁を使い分けてほしい | |
| 3. 鶴岡弁だけを使ってほしい | |
| 4. どちらでもよい | |
| 5. その他(具体的に) | |
| 6. わからない | |

問29. 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいということになったら、あなたはどこに住んでみたいと思いますか。最も住んでみたいと思うところに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 鶴岡市 | 3. (庄内地方以外の)山形県 |
| 2. (鶴岡市以外の)庄内地方 | 4. その他の都道府県 (具体的に) |
| | 5. 特になし |

問30. 東京に住んでいる親せきやお知り合いがいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1. いる | 2. いない →問 32 へお進みください |
|-------|-----------------------|

<問 30 で「1.いる」と答えた方にうかがいます。>

問31. 東京に住んでいる親せきやお知り合いとは、どの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-----------------------|--------------|
| 1. 行き来をしている | 2. 往来はないが、電話で話し合う | 5. 特につきあいはない |
| | 3. 往来や電話はないが、文通をしている | |
| | 4. 往来や電話はないが、メールをしている | |

<全員の方にうかがいます。>

問32. あなたは普段、テレビを1日にどのくらい見ますか。1週間の平均でお答えください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 30分以下 | 5. 2時間30分以下 | 8. 4時間以下 |
| 2. 1時間以下 | 6. 3時間以下 | 9. 4時間超 |
| 3. 1時間30分以下 | 7. 3時間30分以下 | 10. テレビは見ない |
| 4. 2時間以下 | | |

問33. あなたは普段、ラジオを1日にどのくらい聞きますか。1週間の平均でお答えください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 30分以下 | 5. 2時間30分以下 | 8. 4時間以下 |
| 2. 1時間以下 | 6. 3時間以下 | 9. 4時間超 |
| 3. 1時間30分以下 | 7. 3時間30分以下 | 10. ラジオは聞かない |
| 4. 2時間以下 | | |

問34. テレビやラジオのニュースでは、「庄内地方や鶴岡のことを取りあげたニュース」と「東京や全国のことを取りあげたニュース」とでは、どちらが好きですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 庄内地方や鶴岡のことを取りあげたニュース | 3. どちらでもない |
| 2. 東京や全国のことを取りあげたニュース | 4. ニュースは見ない (聞かない) |

問35. 新聞はどの程度読みますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|---------|--------------------------------|
| 1. 毎日読む | 2. 時々読む | 3. 新聞は読まない →次ページの間 37 へお進みください |
|---------|---------|--------------------------------|

<問 35 で「1.毎日読む」「2 時々読む」と答えた方にうかがいます。>

問36. あなたがお読みになっている新聞をすべて教えてください。(〇はいくつでも)

【全国紙】	【地方紙】	【その他の新聞】
1. 朝日新聞	4. 産経新聞	6. 山形新聞
2. 毎日新聞	5. 日本経済新聞	7. 荘内日報
3. 読売新聞		8. その他の新聞 (具体的に)

問36-1. (問 36 で2つ以上〇をつけた方のみ)〇をつけた新聞のうち、あなたが最もよくお読みになるものを1つ教えてください。(番号を1つ記入)

<全員の方にうかがいます。>

問37. あなたは次の2つの意見のうち、どちらに賛成ですか。「どちらかといえば」という程度でも結構ですからどちらか1つをお選びください。(〇は1つだけ)

1. 鶴岡には長い間につくりあげてきた生活の仕方(暮らし方)がある。これからもそれに従っていけばよい。
2. もっと新しい生活の仕方を積極的にとりいれて、生活をどんどん合理的にしてゆく必要がある。

問38. 次の(a)～(d)のそれぞれの場面であなたが使うことばは、標準語ですか。それとも鶴岡弁ですか。あるいは標準語と鶴岡弁が混ざりますか。(a)～(d)のそれぞれについて〇を付けてください。

(〇はそれぞれ1つずつ)

		標準語で話す	鶴岡弁で話す	標準語と鶴岡弁が混ざる	その他の方言で話す
(a) お宅で家族の方たちといろいろな話をする時	→	1	2	3	4
(b) 近所の顔見知りの方と話をする時	→	1	2	3	4
(c) 鶴岡の人で顔見知りでない方と話をする時	→	1	2	3	4
(d) 観光客など旅の人などと話をする時	→	1	2	3	4

問39. あなたは「鶴岡弁」についてどんなふうに感じますか。(a)～(c)のそれぞれについてお答えください。

(〇はそれぞれ1つずつ)

(a)	1. 軽快だ	2. 重苦しい	3. どちらともいえない
(b)	1. 深みがある	2. 薄っぺらだ	3. どちらともいえない
(c)	1. 好きだ	2. きらいだ	3. どちらともいえない

問40. それでは「東京弁」についてはどんなふうに感じますか。(a)～(c)のそれぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(a)	1. 軽快だ	2. 重苦しい	3. どちらともいえない
(b)	1. 深みがある	2. 薄っぺらだ	3. どちらともいえない
(c)	1. 好きだ	2. きらいだ	3. どちらともいえない

問41. 鶴岡弁について次のような意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。「どちらかといえば」という程度でも結構ですからどちらか1つをお選びください。(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1. 鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。鶴岡弁はできるだけなくしてしまったほうがよい。 |
| 2. 鶴岡弁は鶴岡の大事な文化だから、できるだけ鶴岡弁を使い続けたほうがよい。 |

問42. 現在、あなたと同居している人を教えてください。(○はいくつでも)

1. 父親	6. 配偶者の父	11. 兄弟姉妹
2. 母親	7. 配偶者の母	12. 他の親族
3. 配偶者(夫・妻)	8. 孫	13. 住み込みの雇い人
4. 子ども	9. 祖父	14. その他(具体的に)
5. 子どもの配偶者	10. 祖母	15. 同居している人はいない(ひとり暮らし)

問43. このアンケートにご記入くださったのはいつですか。

<input type="text"/>	月	<input type="text"/>	日の	1 朝	2 昼	3 夕方	4 夜
----------------------	---	----------------------	----	-----	-----	------	-----

(○は1つだけ)

以上でこのアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

このアンケート用紙は調査員がお伺いしましたときにお渡しく下さい。

また、その場で面接形式でお聞きするのも、ことばに関する簡単な内容です。是非ご協力をお願いいたします。

平成23年11月


国立国語研究所・統計数理研究所

調査要領（調査メモ）

作成日	作成者	確認日	確認者
11.11.07	鈴木	11.11.07	吉田

* 調査員の皆様はこの調査要領（調査メモ）に従って、調査を正確に進めてください。

調査名	2011-10005-000 「第4回 鶴岡市における言語調査」
調査目的	言語の経年変化、特に方言の共通語化の過程を明らかにすることが本調査の目的です。1950年から20年に一度、山形県鶴岡市で行われてきた調査の第4回目に当たるのが本調査であり、この地域の言語の共通語化がどのように進展してきたかを考察するための資料となります。
調査実施主体	国立国語研究所と統計数理研究所とによる合同調査 調査結果は基礎集計報告書（平成24年10月刊行予定；第一次報告書）として公表するほか、国立国語研究所のホームページでも公表。
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター（調査実施主体からの委託を受けて調査を実施）
調査エリア	山形県鶴岡市の一部地域
サンプル数	1地点 30s程度（地点により異なります）
調査対象	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">山形県鶴岡市内の調査対象地域在住の15歳以上79歳以下の男女個人約1000名</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査実施主体が住民基本台帳から抽出。 ・ 以前の調査から継続して調査を行う対象者を含めて約1000名が対象者です。NRCで調査を行うのはそのうちの630名（新規の方のみ）です。 ・ <u>名簿の本人</u>に依頼。家族等、他の人への依頼は厳禁。
調査方法	<p>訪問面接調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICレコーダー（ボイスレコーダー）を用いて、対象者の発音やアクセントを録音する言語調査です。 ・ 事前に対象者に郵送している郵送調査票（自記入式）の受け取ってください。 ・ 対象者に承諾書を書いていただく必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒この承諾書は、調査データの使用・音声録音に対する承諾書、（対象者が中学生の場合）親の同意書という3つの意味を兼ねています。 ⇒対象者の年齢により、承諾書を書いていただくタイミングが異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ①対象者が15歳(中学生)の場合：調査実施前（＝問101を始める前） ②それ以外：調査終了後（＝502の後） ⇒「調査のガイドライン」は対象者に渡してください。 ・ 対象者の音声録音の際に、面接調査票を記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒郵送票・承諾書・面接調査票・録音の4点セットで完了扱いとなります。 ・ 対象者が不在の場合は、日時を変えて最低3回訪問し、回収率を高めるように努めてください。多忙という場合は、都合のよい時間帯を伺って再訪問してください。 ・ 調査を行う際は、方言を使用せず、共通語で行ってください。

スケジュール	<p>郵送調査票の発送：11月 1日(火) 東京本社から投函</p> <p>※11月 1日(火) 鶴岡市報に本調査の実施について掲載</p> <p>調査期間：11月11日(金)～11月28日(月)</p> <p>※調査活動の前後に、NRC 本部に立ち寄ってください。</p> <p>活動前：資材の受け取り</p> <p>活動後：調査票(郵送票・面接票)・承諾書・音声データの4点セットを提出。</p> <p>(名簿への対象者情報転記・音声データの吸い上げ等を行います)</p>
監査	<p>調査終了後、お礼の意味も込めて、往復葉書を送付します。</p> <p>指示された方法で正しく調査を行って下さい。対象者の住所/氏名/生年月または年齢の確認してください。</p>
<p>個人情報・名簿・録音データの取り扱い</p> 	<p>*対象者名簿・地図・録音データは個人情報です。紛失しないよう十分気をつけてください。</p> <p>*名簿と地図は現地 NRC 本部で保管します。安全管理のために、対象者名簿の住所・氏名・生年月等の調査に必要な情報を、地図に転記してください。その際、転記ミスに気をつけてください。</p> <p>*地図も個人情報です。指定の地図フォルダーに地図をしっかりと留め、飛んだり抜け落ちたりしないようバッグに紐で括りつけ紛失しないよう気をつけてください。</p> <p>*万が一、紛失等生じた場合は、速やかに NRC 本部に電話連絡してください。</p> <p>*日本リサーチセンターはプライバシーマークを取得しております。</p> <p>プライバシーマークは、個人情報について十分な保護策を講じている企業・団体に対して(財)日本情報処理開発協会が認定しているマークです。</p>
担当者連絡先	<p>担当：鈴木(ほ)・吉川・吉田</p> <p>現地 NRC 本部：鶴岡ワシントンホテル</p> <p>電話番号：080-5898-7650</p> <p>現地本部管理者：11月11日(金)～18日(金)：鈴木(ほ)</p> <p>11月19日(土)～29日(火)：吉川</p>
名簿への記入	<p>対象者名簿は、NRC 本部で保管するため、地図の余白に訪問日時・接触者・完了不能区分等をメモし、調査終了後に NRC 本部にて転記してください。</p> <p>1) 訪問した日付・時間・接触相手・住居形態を対象者ごとに記入。</p> <p>※訪問日時は、訪問した日付・時刻まで記入する事!</p> <p>※「接触相手」は</p> <p><u>「A:本人」「B:家族」「C:その他」「D:不在」</u>の4つ。</p> <p>C:その他の場合は詳細を記入。 例) 近所の人、親戚</p> <p>※住居形態は、</p> <p><u>「1 一戸建て」「2 集合住宅(オートロックなし)」</u></p> <p><u>「3 集合住宅(オートロックあり)」</u>「4 その他」の4つ。該当する記号を記入。</p> <p>「4 その他」の場合は詳細を記入。 例) 寮、長屋</p>

	<p>2) 承諾書の有無・郵送票の回収有無の欄に○印をつける。</p> <p>3) 完了不能区分を忘れずに記入。 ※完了不能区分は、 <u>「1:面接完了」「2:転居」「3:長期不在」「4:一時不在」「5:住所不明」</u> <u>「6:病気(障害・難聴・入院・老衰を含む)」「7:拒否(本人)」「8:拒否(家族)」</u> <u>「9:接触不可能」「10:その他」</u>の10区分。 《注意!》 「9:接触不可能」 : オートロックで入れない、管理人などに阻まれ調査不可能等の状態を指す。 「10:その他」 : その他の場合は詳細を記入してください。 なお、「死亡」の場合には「10:その他」を記入してください。</p>
<p>Q & A</p>	<p>Q: どこで私の名前を調べたのですか? A: 鶴岡市の許可をいただいて、住民基本台帳の閲覧リストより、ランダム(無作為)に選ばせていただきました。公益性が高く学術的にも有益な調査の場合は、市区町村に住民基本台帳の閲覧を申請し、閲覧が許可されます。</p> <p>Q: プライバシーは守られるのですか? A: はい、厳格に守られています。回答頂きましたご意見は全て〇〇と回答された方が〇%というような統計的数字にまとめますので、ご迷惑をおかけするようなことは絶対ございません。</p> <p>Q: 何で録音するのですか? A: この調査は、皆様が単語をどのように発音されるのかという点についても研究するため、後に研究者が聞き直しを行います。言語調査ですので、調査目的をご理解のうえご協力ください。</p> <p>Q: 調査の結果はどのようになっているのですか? A: 統計的に処理した結果は、基礎集計報告書(平成24年10月刊行予定;第一次報告書)として公表するほか、国立国語研究所のホームページでも公表。</p> <p>Q: 調査主体はどんな団体ですか? A: 国立国語研究所は、1948年以来、言葉の研究を行っている大学共同利用機関法人人間文化研究機構の機関です。言葉の研究を通じて人間文化に関する理解と洞察を深め、国語及び国民の言語生活並びに外国人に対する日本語教育に貢献する事を目的とし活動を続けております。 統計推理研究所は、統計に関する理論と応用を研究する研究機関です。統計の応用の一分野として今回のような言語調査も実施しています。</p>

調 査 資 材	1. 調査要領（調査メモ 本紙）	1 部
	2. 対象者名簿（黄色・A3版）	1 部 ※NRC本部で保管
	3. 住宅地図	1 セット ※NRC本部で保管
	4. 調査票	サンプル数
	5. 提示カード	1 部
	6. 事前郵送挨拶状（見本）	1 部
	7. 郵送調査票（見本+予備）	10 部
	8. 面接調査票	サンプル数
	9. ガイドライン・承諾書	サンプル数
	10. 鶴岡市市報（見本）	1 部
	11. 謝礼（500円図書カード）	サンプル数
	12. NRCパンフレット	サンプル数
	13. メッセージカード	1 セット
	14. 調査終了のおわび	1 セット（後日配布します）
	15. ICレコーダー	1 台
	16. 予備用電池	単4電池2本
	17. 住宅地図フォルダー	1 部
	18. OCR&交通費精算書	1 セット
	19. 完了報告書&アンケート	1 部

調査実施の際の注意事項

- 1) 録音開始直後に、必ず地点番号と対象者番号を読み上げ、録音してから面接調査を開始してください。
- 2) □NA（回答なし）は余白にその旨を記入すること。どうしても回答が出ない場合のみ記入すること。
- 3) 調査の結果、被調査者が昭和25年、昭和46年、平成3年のサンプルであることが判明した場合は、コードの末尾にⓅを書き加えること。
- 4) 面接調査実施前・後に承諾書を対象者に書いていただく必要があります。忘れずに持ち帰ってきてください。
※承諾書には対象者の住所と氏名をご記入していただく欄があります。
- 5) 電話や来客があつて、調査が途中中断した時は録音を止めないでください。何分程度の中断だったのかを、調査票の最後にある(●ページ)メモ欄に記入をしてください。

《面接票の表紙について》

- ①No. 『名簿』および『調査員記録簿』に記載された地点番号（2桁）と対象者番号（2桁）を表紙右上の□の中に入れて記入する。
- ②調査員 調査員名を□の中に入れて記入。
- ③001.～003 後のデータ整理に使用するところなので、記入しないでください。
- ④004. 調査が複数日にわたる場合は、調査を開始した日を記入する。
- ⑤005. 開始時刻は1分単位で記入。開始時刻を記入後、録音器の電池を確認して、録音状態にする。
- ⑥101. 対象者の生年月を地図を参考に____に予め生年月を書き込んでおき、この101.でそれを確認する形で質問する

調査全般について

- (1) ICレコーダーはハンカチなどの上に置き、マイク部分を対象者に向けてください。
- (2) この調査は、調査開始から終了までを録音します。あとで研究者が聴き直しをして結果を記録しますので、被調査者の回答と自分の声が重ならないようにしてください。被調査者の回答と自分の声が重なった場合は「もう一度お願いします」などと言って、回答し直してもらってください。⇒ **ビデオ**
- (3) 調査項目は、①調査員が書き込む（○印を付ける等）項目と、②録音だけすれば良い項目に分かれます。①の質問は選択肢が二重枠で囲んでありますので、忘れずに記入してください（図1）。②の場合は一番左に□があります。質問が終わったら、これにチェック（☑）を付けてください（図2）。

図1 記入する項目（二重枠）

<input type="checkbox"/>	201. 【絵】 口(クチ)	1. tʃ	2. z	9.[]
<input type="checkbox"/>	202. 【絵】 髭(ヒゲ)	1. ç	2. φ	9.[]
<input type="checkbox"/>	203. 【絵】 背中(セナカ)	1. s	2. ś, ç	9.[]

図2 チェック欄

- (4) 調査項目は、(A)「カラス」「ネコ」「クチ」などの単語だけを答えてもらいたい質問項目と、(B) 単語だけでなくても良い質問項目があります。調査票の指示に従ってください。(A)の質問では「カラスです」「ネコだ」「クチビル」といった回答が出てくる場合があります。この場合は「“です”を取って発音してください」「“だ”を取って～」「“ビル”を取って～」などといって、必ず単語だけで答えてもらうようにしてください。⇒ **ビデオ**
- (5) なかなか回答が引き出せない場合は、提示リストの下にある文言（＝「2. 各質問についての注意など」）を参考に質問してください。

<注意が必要な質問項目>

<101. > 1 ページ

質問するときは、調査という感じを比較的薄くし、より自然に近い形で回答が得られるようにしてください。

<201. ~231. > 2 ~ 3 ページ

- (1) 201.~231.は単語だけを答えてもらう質問です。単語だけを答えてもらってください。
調査員は絶対に単語を言わないでください。
- (2) ①絵を見せて答えてもらう質問と、②絵が無く、なぞなぞのようにで答えてもらう質問があります。
絵がない質問項目のリストは、調査員が読みあげる項目である。
- (3) 絵を使用する質問項目で、絵だけで回答が引き出せない場合は、調査票の注意書きのヒントを与えてください。
⇒ ビデオ

<241. ~271. > 4 ~ 6 ページ

- (1) 単語だけの回答でなくても良い質問です。
- (2) 2度読み上げてもなかなか質問の意図が伝わらない場合は、すべての選択肢を示して、使うか/使わないかを誘導して聞いてください。
- (3) 261.の「こども(弟・妹)」は、被調査者の年齢に合わせて適宜変更して質問してください。ここでの「こども」とは、「自分のこども」という意味ではなく、「年齢の小さな子」という意味です。
- (4) 262.で「ワレワレ」という回答が出たら、「他の言い方はありませんか?」と尋ねてください。

<301. ~303. > 5 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。
302.で回答がなかなか引き出せない場合は、「1文字で言うと…」 「絵画のことを簡単に言うと」などのヒントを出してください。⇒ ビデオ
- (2) 303.で回答がなかなか引き出せない場合は、「ガラスの板」等のヒントを出すこと。

<304. ~310. > 6 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。
- (2) 304.~310.は、質問が進むにつれて、質問の意図(=標準語で発音)が忘れられ、自分自身の発音になってしまうことが予想されます。質問毎に「これも、標準語の発音です」などと言って答えてもらってください。

<318. ~324. > 6 ~ 7 ページ

- (1) 単語だけを答えてもらう質問です。
- (2) 昔、おじいさんやおばあさんが使っていた発音で答えてもらう項目である。
質問が進むにつれて、質問の意図(=おじいさんやおばあさんが使っていた発音)が忘れられ、自分自身の発音になってしまうことが予想されます。質問毎に「これも、おじいさんやおばあさんが使っていた発音です」などと言って答えてもらってください。

<325. ~331. > 7 ページ

- (1) 鶴岡でよく話をする親しい友達を思い浮かべてもらって質問します。
- (2) 文のかたちで自由に回答してもらう項目ですが、各質問文で下線を引いている部分を必ず入れて答えてもらってください。

<501.~503.> 9~10 ページ

- (1) 501.の調査終了時刻を記入しても、503.が終了するまでは録音を止めないこと!
- (2) 503.は、調査が終わったという安心感を対象者に与えた上で、道を尋ね、その答えが共通語であるか方言であるかを調査員が判定するものである。
- (3) 504.は調査全体の印象に従って判定し、その選択肢に○印をつける。
- (4) 505.の「積極的」などは対象者の調査に対する態度のことです。調査の途中で態度が変わった場合は、その推移に従って矢印でつないで示してください。
- (5) 504.以下は、対象者と別れてから後に記入する箇所です。対象者から見えない場所になったら、印象が薄くなる前にすみやかに記入をしてください。

<メモ欄> 10 ページ

- (1) 録音状況をできるだけ記入すること。例えば、犬の鳴き声がうるさかった等。
- (2) そのほか、調査員が感じたこと、メモに残して置きたいこと等、何を記入してもよい。

「第4回鶴岡市における言語調査」 結果の概要

2013年3月

 国立国語研究所

 統計数理研究所

1章 山形県鶴岡市における共通語化調査とは

1. 調査の目的は？

国立国語研究所は昭和 23 (1948) 年の創立以来、日本各地で大規模な調査研究を行ってきました (図 1)。国立国語研究所の創成期に行われた調査は、東京都八丈島 (1949 年)、福島県白河市 (1949 年)、山形県鶴岡市 (1950 年) における「共通語化」をテーマとしたものでした。

当時、地域社会で生まれ育った人が共通語を使うことは珍しいことでした。しかし、地域で使われてきた方言も、共通語の影響を受けて、共通語に近づいていくと考えられます。これを共通語化と言います。地域社会のことばがどのように共通語化するのか、共通語化を牽引するのはどのような人なのかといったことに学術的な興味がありました。その 3 つの調査の中で、後に複数回の調査を重ね、半世紀以上にわたることばの変化を追究することになるのが山形県鶴岡市における言語調査 (以下、鶴岡調査) です。約 20 年間隔で、1971 年に第 2 回調査、1991 年に第 3 回調査、2011 年に第 4 回調査を実施しました。鶴岡調査とはどのような調査なのかを説明し、これまでにどのようなことが分かったのかをご報告します。



図 1 国立国語研究所の国内の主な調査

2. 鶴岡市の選定理由

共通語化を調べる地域として、なぜ鶴岡市が選ばれたのでしょうか。まず、調査地を選ぶにあたって次のような基準をたてました。

1. (1950 年当時)に共通語の影響しか受けていないと考えられる地域であること。
2. 著しい方言的特徴が数多く見られる地域であること。
3. 前年 (1949 年) に調査した福島県白河市と同じくらいの人口で、同じような社会状況であること。

1. の理由から、関西周辺などの地域は除外されます。関西周辺 (ないし関西以西) の地域は、共通語の影響も受けながら、関西のことばの影響も受けます。地元のことば、共通語、関西のことばの 3 つが複雑にからみ合って、共通語化の分析が困難になってしまうのです。ここから、関西のことばの影響を受けにくい東日本が候補となります。

東日本の中でも 2. のような方言的特徴が数多く見られる地域と言え、何と言っても東北地方でしょう。元々共通語に近いことばを話す地域を選んでしまうと、やはり共通語化の分析が難しくなってしまいます。このことから、候補地は東北地方に絞られました。

3. は調査結果の比較のためです。規模の違う地域では地域社会を取り巻く様々な状況が違って比較ができません。福島県白河市の調査で得られた知見が他の地域でも言えるかどうかを確認するために、同規模の地域を探しました。秋田県や山形県の複数の地域が候補地となり、最終的に選ばれたのが鶴岡市だったのです。

なお、鶴岡市と言っても、調査地は図 2 の橙色の枠で囲んだ地域に絞りました。1950 年当時、枠の外側の地域は田んぼで人が住んでいなかったからです。

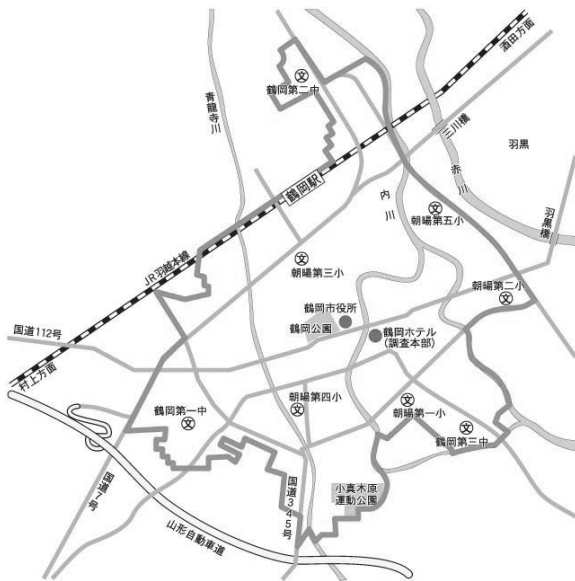


図2 鶴岡調査の調査範囲

3. 調査項目

伝統的に鶴岡で使われてきたことば（以下、鶴岡方言）は様々な点で特徴があります。かつて東北の方言はズーズー弁と呼ばれることがありました。発音に関する特徴をとらえた命名です。語彙の「ウルガス（水につける、ひたす）」「ジョサネ（簡単だ）」などや、文法の「東京セ行く」「泳ガイネ（泳げない）」等々、方言が非常に豊富です。そこで、表1のように、発音に関するもの（詳細は2章で説明します）と、語彙、文法などについて調べました。

調査では、調査員が調査協力者のお宅を訪問し、面接式のインタビューを行いました。また、第3回調査と第4回調査ではアンケートによる調査（言語生活調査）も加えて実施しています。

表1 鶴岡調査の主な調査項目

音 声	唇音性	I : 「カヨウビ(火曜日)」「スイカ(西瓜)」／II : 「ヘビ(蛇)」「ヒャク(百)」「ヒゲ(髭)」
	口蓋化	「ゼイムシヨ(税務署)」「セナカ(背中)」「アセ(汗)」
	有声化	「マツ(松)」「カキ(柿)」「クツ(靴)」「ハト(鳩)」「ハタ(旗)」「ハチ(蜂)」「クチ(口)」「ネコ(猫)」
	鼻音化	「オビ(帯)」「マド(窓)」「スズ(鈴)」
	中舌化	I : 「チズ(地図)」「スミ(墨)」「カラス(烏)」「キツネ(狐)」 II : 「シマ(島)」「ウチワ(団扇)」「チジ(知事)」「カラシ(芥子)」
	イとエ	I 「エキ(駅)」「エントツ(煙突)」／II 「イキ(息)」「イト(糸)」
アクセント	「ネコ(猫)」「ハタ(旗)」「セナカ(背中)」「カラス(烏)」「ウチワ(団扇)」	
語 彙	「いつも」「いらっしゃい」「驚いた」「ずいぶん」「はずかしい」「もう(副詞)」「留守番」「あげる」「つらら」	
文 法	「起きろ」「勉強しないで」「わたくしたち」「見に行く」「静かなら」「行くから」「行くけれども」「強かったなあ」	
その他	言語意識に関する項目、協力者に関する情報(出身地)など	

4. 調査対象者

鶴岡調査は2つの調査を組み合わせる実施してきました。ランダムサンプリング調査(以下、RS 調査)とパネル調査というものです。どちらも基本的に同じ質問・同じ方法による調査ですが、対象者が違います。

RS 調査は、ランダムサンプリング(無作為抽出)によって人を選びます(図3)。



図3 ランダムサンプリングのイメージ
(無作為に選びました)

いわば「くじ引き」によって人を選んでいるわけです。その理由は「鶴岡市の代表を選ぶため」と言うことができます。鶴岡市には様々な属性（年齢、職業、出身地など）を持った人が住んでいます。ある特定の属性を持った人だけを調べたのでは「鶴岡市民は〇〇である」と一般化して結論の述べることはできません。鶴岡市における共通語化を調べるためには、鶴岡市民の代表を選ぶ必要があります。代表を選ぶための科学的な方法がランダムサンプリングなのです。

一方のパネル調査は、過去のRS調査にご協力くださった方に、再度調査にご協力いただくというものです。例えば図4のように、第1回調査から第4回調査までの4回連続でご協力くださった方ならば、少年時代からシニア世代までの約60年間の個人のことばの変化を知ることができます。

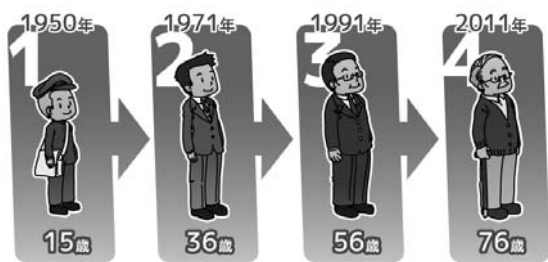


図4 パネルサンプルのイメージ

RS調査とパネル調査にご協力くださった方々の人数は図5のようになります。

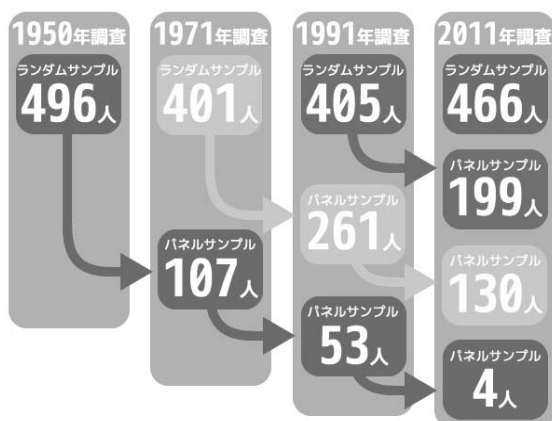


図5 鶴岡調査の調査協力者数

RS調査では毎回400名を超える方々にご協力いただきました。また、パネル調査では4回

連続でご協力くださった方が4名、3回連続が130名、2回連続が199名いらっしゃいました。鶴岡市民のご協力なくしては、これだけの規模の調査を60年にわたって継続することはできませんでした。

5. 第4回調査の概要

第4回調査は、国立国語研究所と統計数理研究所の共同研究プロジェクトとして、下記のような要領で実施しました。

■ 調査期間

2011年11月～12月に本調査を実施しました。また、この期間にご都合がつかない方については、2012年1月～2月の補充調査でご協力いただきました。

■ RS調査

鶴岡市旧市街に居住する15歳から79歳の男女700名を、住民基本台帳から等間隔抽出によって選定しました（第1回から第3回調査までは15歳から69歳が対象でしたが、今回は年齢範囲を10歳延長しました）。回収率は66.6%です。

■ パネル調査

鶴岡市役所に全面的な協力をいただき、第1回から第3回までの調査協力者を追跡し、所在の判明した方（437名）に調査を依頼しました。76.2%の方にご協力いただきました。

6. 調査で分かったこと

約20年間隔で4回継続してきた鶴岡調査では、鶴岡市における共通語化について、実に様々な知見を得て、研究成果をあげてきました。以降は、調査で得られた結果について、下記のような構成で紹介していきます。

- (1) RS調査の面接調査（主に発音項目）から分かったこと【2章+3章】
- (2) RS調査の言語生活調査（アンケート）から分かったこと【4章】
- (3) パネル調査から分かったこと【5章】

2章 鶴岡市における共通語化とバイリンガル化

1. はじめに

東北は方言が豊かだと言われます。語彙や文法もそうですが、東北弁らしさの代表格はやはり【発音】でしょう。そこで、調査結果の中から発音に関する結果を取りあげて報告することにします。

東北の方言には日本語の古い発音がたくさん残っています。例を挙げてみましょう(図1参照)。「ハ ヒ フ ヘ ホ」という音は「ha hi hu he ho」のように、子音(h)と母音(a i u e o)の組み合わせで成り立ちます。日本語の古い発音(上代以前)では、子音は「p」だったと考えられています。カタカナで発音を表記するなら「パ ピ プ ペ ポ」という発音だったと考えられているのです。この時代には、お母さんを意味する「ハハ」は「パパ」だったわけです。

平安時代くらいになると、「Φ」のような発音に変わりました。カタカナ表記すると「ファ フィ フ フェ フォ」となります。平安時代の文献に『後奈良院御撰何曾』というものがあります。後奈良天皇が収集・編纂したナゾナゾ集です。この中に「母には二度あひたれども、父には一度もあはず」というナゾナゾがあり、答えに「くちびる」と書いてあります。つまり、この時代の「母」の発音は「ファファ」なので上唇と下唇が2回つきます(出会います)が、父(チチ、ただし当時の発音はティティ)のときは唇が一度もつかない(出会わない)というわけです。現代の「ハハ」という発音であれば、唇は1度もつかないわけですから、このナゾナゾは現代では通用しなくなりました。

その後は複数の子音が使われるようになって、現代共通語では「ハ ヒ フ ヘ ホ」と発音するようになりました。ところが、東北には現代共通語では使用しなくなった古い「Φ」という発音が残りました。「髭(ヒゲ)」や「蛇(ヘビ)」という発音は、「フィゲ」「フェビ」のよう

に発音されるのです。

	は	ひ	ふ	へ	ほ
上代	p	p	p	p	p
↓	パ	ピ	プ	ペ	ポ
平安	Φ	Φ	Φ	Φ	Φ
↓	ファ	フィ	フ	フェ	フォ
現代 (共通語)	h	ç	Φ	h	h
	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ

図1 日本語のハ行子音の変遷

しかし、共通語の影響は避けられません。通信技術の発達などによって、地方に居ながらにして共通語に接する機会も多くなりました。その影響で方言が共通語に近づいていく「共通語化」という現象が起こります。

果たして、鶴岡市民の“東北弁らしい”発音はどのくらい共通語化したのでしょうか。1953年、1971年、1991年、2011年の4回の調査結果から、60年間にわたる変化を見ていきましょう。

2. 鶴岡市民の共通語化

鶴岡調査では次頁の表1のような語彙について調査しました。図2のようなイラストを見てもらい、「これは何ですか？」と尋ねたり、イラストに描けないものについては口頭でナゾナゾ式で尋ねました。

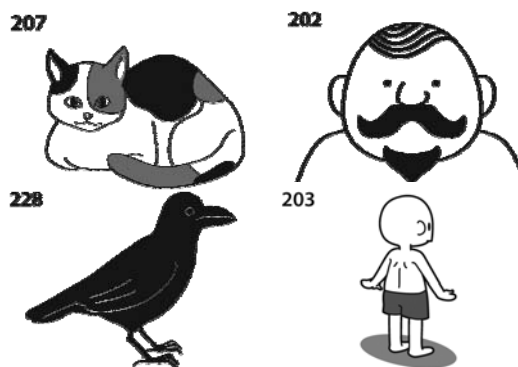


図2 調査で使ったイラスト(一部)

表 1 鶴岡調査の調査項目

分類名	調査の観点	調査語
唇音性 I	合拗音 kwa の有無	スイカ, カヨウビ
唇音性 II	ハ行における両唇音の有無	ヒゲ, ヘビ, ヒヤク
口蓋化	「せ」「ぜ」における口蓋化の有無	セナカ, アセ, ゼイムシヨ
有声化	非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無	クチ, ハチ, ハト, ネコ, ハタ, クツ, カキ, マツ
鼻音化	非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無	マド, スズ, オビ
中舌化 I	ウ段音における中舌化の有無	チズ, スミ, カラス, キツネ
中舌化 II	イ段音における中舌化の有無	チジ, シマ, カラシ, ウチワ
イとエ I	語頭の母音エにおける狭母音化の有無	エキ, エントツ
イとエ II	語頭の母音イにおける広母音化の有無	イキ, イト
アクセント	共通語のアクセント型の実現／非実現	セナカ, ネコ, ハタ, カラス

この質問では、東京などから来た初対面の調査員が質問していますから、方言よりも共通語

の発音による回答が期待されます。下の図 2 がその結果です。

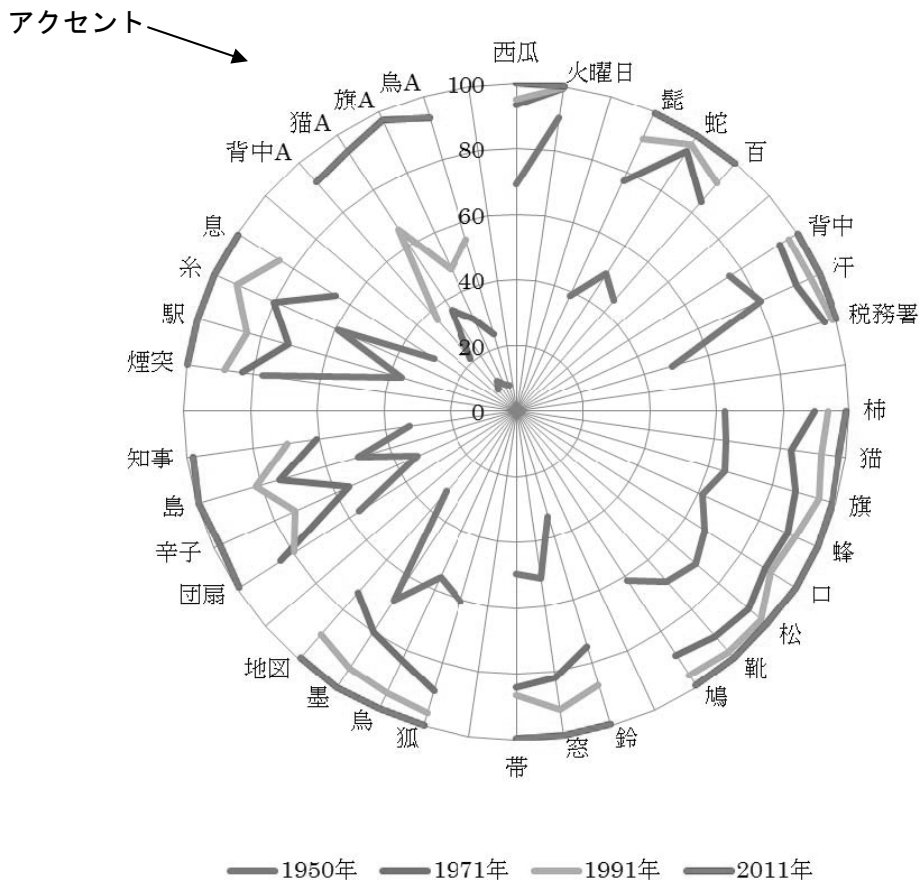


図 2 共通語で反応した比率

図2は、中心より外側に位置するほど共通語で回答する割合が高いことを示しています。調査回を重ねるごとに共通語での回答率が高くなり、第4回調査では、アクセントを除いて、ほぼ100%に近くなっています。鶴岡市民の多くが共通語を使うようになったのです。

年代別の結果も見てください。図3はカラスの共通語率を年代(10歳刻み)別にグラフ化したものです。スをシに近い音で発音するのが伝統的な方言です。

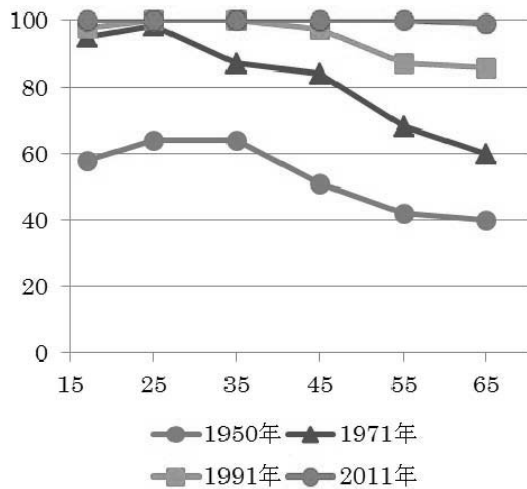


図3 カラスの共通語率(年代別)

調査回を重ねるごとに徐々に共通語率が高くなっていくことがわかります。第2回調査が終わった後、私たちは年齢と共通語化の関係について図4のような予想を立てました。

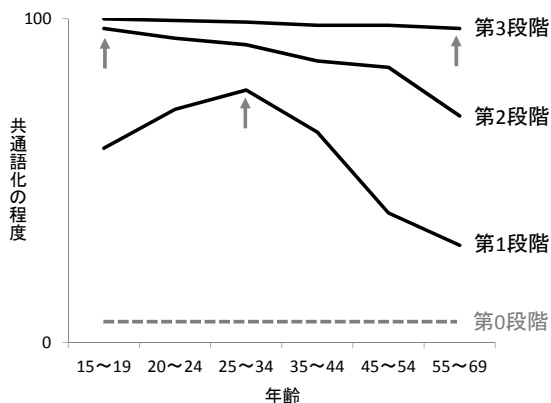


図4 年齢曲線の変化の予想モデル

まず第0段階として、(実際の調査結果では観察されていませんが)どの年層でも方言がよく使われ、共通語率が低い時代があったと考えられ

ます。次に調査結果に基づくと、25~34歳くらいの方が共通語をよく使用し、グラフが凸型を描く第1段階がきます。この年層が共通語化を牽引していたのです。そして10代・20代前半の方の共通語率が高まり、年齢が若いほど共通語率が高い第2段階をむかえます。第2回・第3回調査ではこの第2段階が確認できました。さらに将来は、年齢の高い人の共通語率も高まり、どの年層でも共通語率が高く、ほぼ直線を描くような第3段階がくるだろうと予想したのです。第3段階はいわば共通語化の最終段階と言えます。図3の結果は、まさにこの予想モデル通りに変化したことを示しています。この変化はカラス以外の多くの項目にも言えることです。つまり、鶴岡市における共通語化は最終段階に達したと言ってよいでしょう。

3. 方言の運用能力

鶴岡市民がよく共通語を使うようになったことがわかりました。だからと言って、鶴岡市民が方言を使えなくなったことを示しているわけではありません。しかし、そもそも鶴岡市民は伝統的な鶴岡方言を使えるのでしょうか。若い人は既に方言が使えなくなっているかもしれません。

そこで2011年の第4回調査では、方言の発音が真似できるかどうかを尋ねました。表1の語彙から下記の(A)~(F)を選んで、「昔、おじいさんやおばあさんが使っていた発音を真似して、できるだけ鶴岡弁らしく発音してみてください」と尋ねたのです。【 】内は鶴岡調査で注目してきた発音です。

- (A) ネコ【コをゴと発音するか、アクセントでコを高く発音するか】
- (B) ヘビ【へをフェのように発音するか】
- (C) イキ【イをエに近い音で発音するか】
- (D) エキ【エをイに近い音で発音するか】
- (E) カラス【スをシに近い音で発音するか】
- (F) ウチワ【チをツに近い音で発音するか】

結果(図5)を見てみましょう。

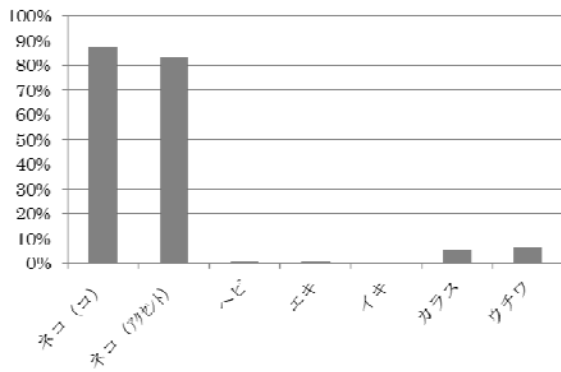


図5 方言／共通語の運用能力

この質問の結果は、年齢別に見ても大きな違いはありませんでした。若い人でも、(A)のネコのコをゴと発音して、伝統的な鶴岡方言を真似することができました。ネコのコを高く発音するというアクセントの結果も同様です。

その一方で、(B)～(F)については年齢の高い人でも真似できなくなっていることが分かります。このうち、「イキ」「エキ」「ウチワ」については、多くの人がキやチを濁音で発音して「イギ」「エギ」「ウヂワ」と発音していました。先の「ネゴ」の結果とも合わせると、「濁音を使う」という東北方言の特徴は、世代を超えてよく真似できていることになります。

4. 今後の追及テーマはバイリンガル化

調査を始めた第1回調査当時、地域社会で生まれ育った人が共通語を使うことは珍しいことだったようです。方言と共通語を使い分けることができなかったからです。

確かに、方言が真似できなくなってきた(=方言がなくなってきた)という調査項目もあります。方言を使わなくなるというのは、少し寂しい気もします。しかし、濁音やアクセントについては、共通語でも発音できるし、方言でも発音できるようになって、両者を使い分けるようになりました。日本語と英語など、2つ以上の異なった言語を使い分ける人をバイリンガルと言います。方言と共通語を使い分ける鶴岡市民は、バイリンガルになったと言えるでしょう。

これまでの研究の関心は、方言がどのようにして、どのくらい共通語化するのか、どんな人が共通語化を牽引しているのかということでした。これからの研究は、方言と共通語のバイリンガルに焦点を当てることになりそうです。

ところで、発音以外に目を向けると方言はまだ健在です。「早く起きなさい」というときにどう言うかを尋ねると、オキレ(共通語はオキロ)という回答が多く得られました。「強かったなあ」に対する「ツヨイッケノー」「ツエッケノー」も同様です。また、鶴岡調査の結果ではありませんが、間投助詞のノー(シェバノーなど)や、①の読み方(マルイチではなくイチマルと読む)など、方言が日常生活の中でよく使われています。また、井上史雄氏の研究による新方言(ワガンネなど)のように、新たな方言を生み出してもいます。鶴岡で使われる方言には興味が尽きません。

最後に、図3と同じ結果を生年別に描いたグラフを示します。図3とは逆に、左側は年齢が高く、右側が若い人の結果です。

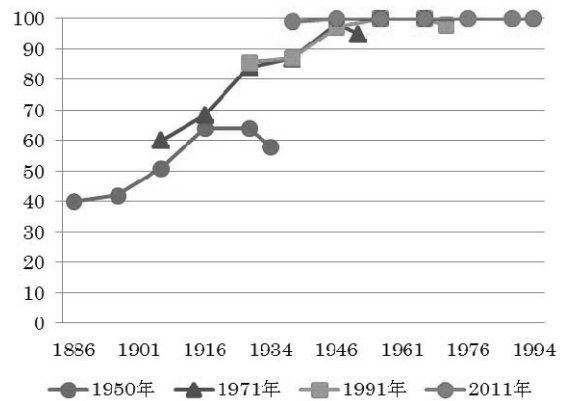


図6 カラスの共通語率(生年別)

同時期に生まれた人の回答結果は重なっていて、全体として一本につながっているように見えます。どうやら共通語率には生年が強く関係していそうです。同時期に生まれた人を出生コウホートと言います。次章ではコウホートに関する分析をみてみましょう。

(担当：阿部貴人)

3章 鶴岡市における共通語化はどう進展したのか —コウホート分析～世代差・加齢・時勢の観点から—

1. はじめに

鶴岡市における共通語化を捉えるためには、鶴岡市で生活している人の中で共通語を使う人がどの程度いるか、その割合（共通語率）を測り、共通語率が時代を経るにつれてどのように変化してきたかを見ます。鶴岡市に生活している人すべてを訪れて聴くわけにはいかないので、ランダムサンプリングという方法を使って対象者を選び、調査をし、設定した音声・アクセント項目について共通語で回答した対象者の割合を得ます。鶴岡調査は、1950年来このような方法によって鶴岡市における共通語化を追究してきました。

図1に、2章の3節で言及された(A)～(F)、項目としては7項目に、後に出てくる「鈴」を加えた8項目の共通語率の推移を示します。この図は、内容としては2章の図2の一部であり、同じ数値を表示したのですが、あらためて鶴岡市民“全体”についての半世紀以上にわたる共通語化の進展を印象づけます。

確かに、鶴岡市における共通語化は最終段階に達したといえるでしょう。このような社会全体としての変化は、個々の人が共通語を使うように変わっていかなくても起こります。生まれ育った歴史環境の違いによって、世代ごとに共通語率が異なれば、個人個人はずっと変わらなくても、世代交代によって社会全体は変化することになります。第1回～第4回の鶴岡調査に現れる世代は、1882年生まれから1996年生まれにまで広がっていて、歴史環境としては明治から平成時代までをカバーしています。

もちろん、個々の人が共通語を話す方向が変わったことも十分考えられます。共通語化が、世代交代によるのか、個々人の変化によるのか、以下では、このことを明らかにする統計的な方法であるコウホート分析法の紹介と、鶴岡調査データを分析した結果について報告します。

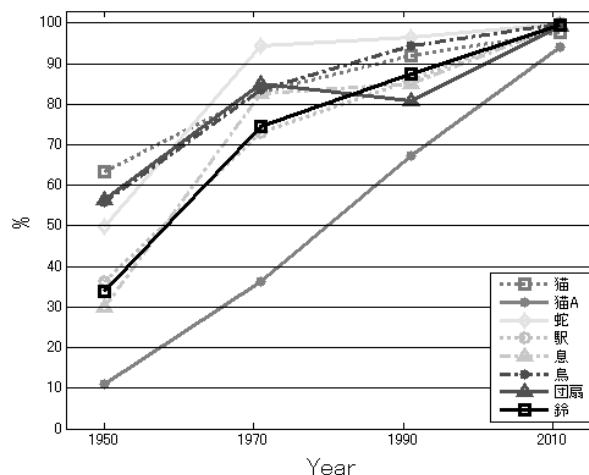


図1 共通語率の推移 (鶴岡 RS 調査, 8項目)

ここで、コウホートという言葉について簡単に説明しておきます。コウホート (cohort, コーホート, コホートとも書かれます) とは、語源的にはローマ時代の軍団の1単位のこと、転じて人口学・政治学・社会学などの分野で人生のある契機 (出生, 就職, 結婚など) を同時期に経験した集団のことを指すようになりました。何も冠さなければ同時出生集団 (birth cohort) を意味し、昭和ヒトケタ世代, 団塊の世代というときの世代とほぼ同じ意味となります。

2. 年齢・時代・世代効果を分けて考える

共通語化についてもう少し考えてみましょう。まず、先に述べたように世代ごとに共通語率が異なることは容易に想像がつきます。生まれ育った歴史環境の違いにより生じる世代差を捉えたのが世代効果 (世代差の大きさ) です。世代効果が大きいことがわかれば、個人は変化しなくとも世代交代によって社会全体は緩やかに変化したといえます。

つぎに、1950年代から70年代にかけてのテレビジョンの普及を取り上げてみると、共通語化が年齢や世代を問わず進行したであろうこと

が思いつきます。その時々々の社会全体の変化を捉えたのが時代効果（時勢の影響の大きさ）です。時代効果が大きいことがわかれば、社会の個々人が同じように時勢の影響を受け変化したことがわかります。もちろん大きな社会環境の変化は、生育環境の変化でもあり（次世代との）世代差をもたらすこ

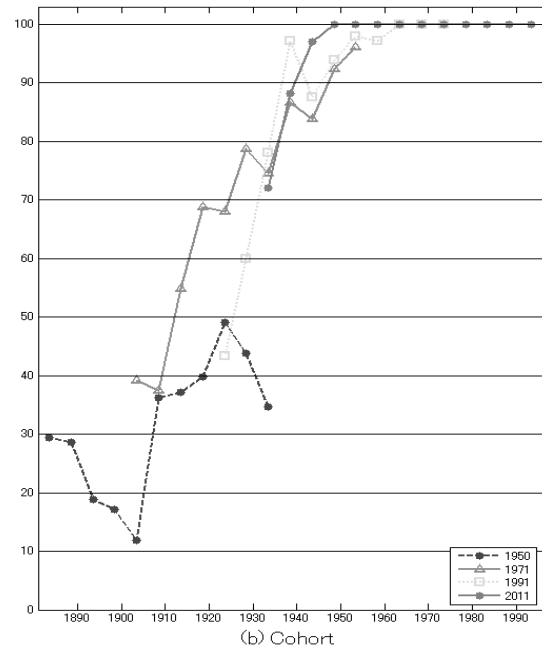
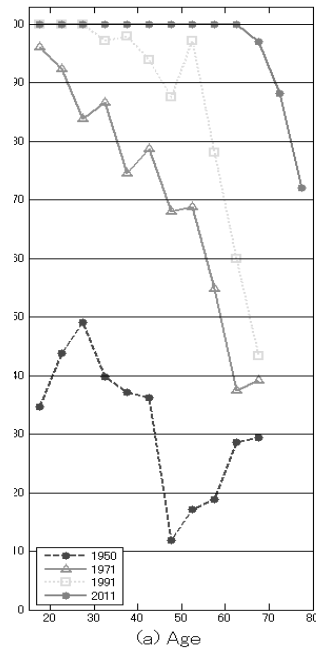


図2 「鈴 (スズ)」の共通語率の変化（第1回～第4回鶴岡RS調査。男女計。左パネル：年齢別、右パネル：出生年別）

とでしょう。

最後に、加齢と共通語化の関係です。たとえば、世代を問わず20歳台までは大都市志向が強く共通語を取り入れやすく、一方中高年以降は鶴岡での生活が定着する、といったことを想像すると、加齢とともにいったん共通語率が上昇し、その後低下することが考えられます。このような傾向を捉えるのが年齢効果（加齢による変化の大きさ）です。年齢効果が大きいことがわかれば、個人は加齢につれ変化しますが、一方社会全体は比較的安定的であるということがいえます。

以上見てきたように、世代差・時勢・加齢要因の影響の程度（効果の大きさ）がわかれば、社会の変化（ここでは共通語化）のメカニズムに迫ることができ、将来の予測にもつながります。このような目的のために、鶴岡調査のような継続調査データから、年齢・時代・世代効果を統計的に分離するのが、コウホート分析と呼ばれる方法です。

図2に、コウホート分析が対象とするデータの1例として、鶴岡調査の音声項目から非鼻音化に分類される「鈴 (スズ)」の共通語率の変化を示します。データ自体は左右のパネル(a)(b)でまったく同じものですが、左は横軸に各調査時点の年齢を、右は出生年（コウホート）をと

って、4時点の結果を比較しています。左パネル(a)では、その時々々の年齢別の傾向と全体としての共通語率の上昇がわかり、右パネル(b)では、（多少の段差に目をつぶれば）コウホートが新しくなるにつれ共通語率が高くなり、世代ごとに共通語化が進んできた様子が見てとれます。なお、右パネルは、2章の図6と同じ趣旨です。

3. コウホート分析モデルとは

共通語率の変動には、3つの効果による変化だけでなく、サンプリングによる誤差も含まれます。統計モデルの力を借りる必要があります。

年齢階級別・調査時点別の共通語率を $\{P_{ap}\}$ とまとめて書くことにしましょう。 a が年齢階級、 y が調査時点を指します。共通語率の変動が、第 a 年齢階級の効果、第 y 調査年の効果、そして a と y で決まる（西暦年から年齢を引けば生年となります）第 c コウホートの効果の和で表されると考えます。つまり

$$P_{ap} = (\text{第 } a \text{ 年齢階級効果}) + (\text{第 } y \text{ 調査年効果}) + (\text{第 } c \text{ コウホート効果}) + (\text{サンプリング誤差})$$

のように3つの効果と誤差の和で共通語率変動するとするのです。これがコウホート分析の

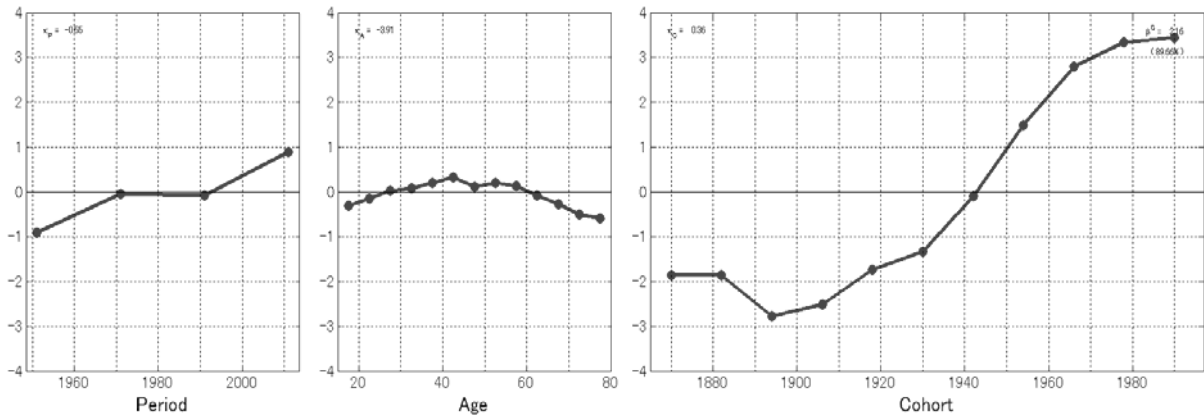


図3 「鈴 (スズ)」の共通語率のコウホート分析結果 (男女計。左パネル：時代効果，中央パネル：年齢効果，右パネル：世代効果)

モデルです。実際には、左辺は割合 P_{ap} のロジット変換と呼ばれる $\log P_{ap} / (1 - P_{ap})$ を使ったりしますが、詳細はここでは省略します。

4. 共通語化のコウホート分析結果

図3に、図2に示した音声項目「鈴 (スズ)」の共通語率のコウホート分析結果を示します。

「鈴」については、年齢・時代・世代効果があるとするモデルが得られました。図には3つのパネルがあり、左から順に、時代 (Period) 効果、年齢 (Age) 効果、世代 (Cohort) 効果をプロットしています。グラフの点が上にあるほど、共通語率が高いことを意味します。

まず図3右パネルの世代効果の変化幅が大きいことが見てとれ、図2右パネルでみたコウホートによる共通語化の進行の印象を裏付けてくれます。図3左パネルの時代効果も、1950から1971年への上昇が大きく、図2右パネルで目を

つぶった段差を説明してくれます。パーセントでの変化は小さいですが、1991年から2001年への上昇もあります。3効果いずれについても2節で想像したような動きになっています。

鶴岡調査の音声・アクセント項目は全部で36項目ありますが、全項目のコウホート分析を通して「鈴」と同様に世代効果が支配的であり、続いて時代効果がかなりの項目で認められました。年齢効果が認められる項目は比較的少数でした。鶴岡市全体としての共通語化の進展は、第1に世代交代によっていたのであり、特に1950年代から1970年代の戦後の日本社会の変化が、また1990年代から今日へ変化が駆動していたと見ることができます。

図4として、2章図6で取り上げた「烏 (カラス)」の結果も示しておきます。こちらは、年齢効果が認められませんでした。

(担当：中村 隆)

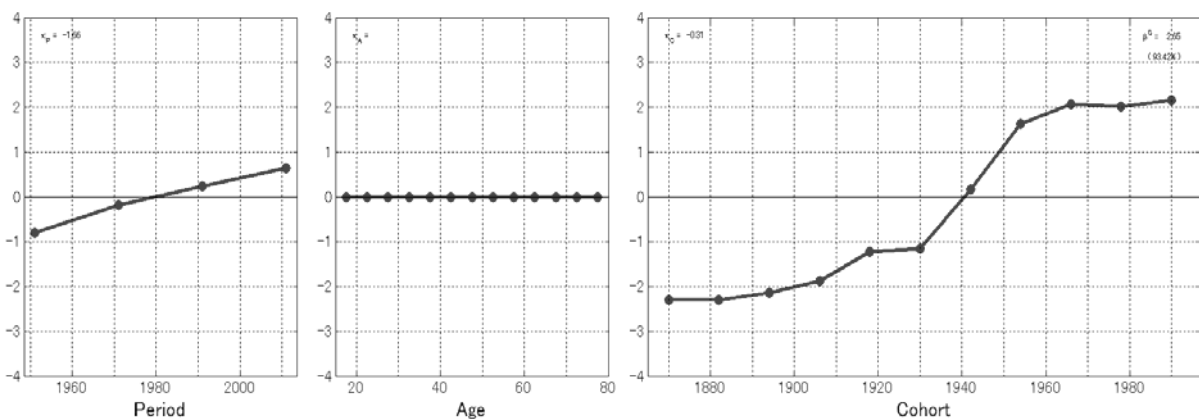


図4 「烏 (カラス)」の共通語率のコウホート分析結果 (男女計)

4章 鶴岡市民はどのような言語生活を送っているか —言語生活に関わる意識や行動に関わる調査項目から—

1. はじめに

2章では鶴岡市における音声の面で共通語化はほぼ最終段階に達したとの結果を述べました。そこでも述べられているように、「共通語化の最終段階」というのは、鶴岡方言が使われなくなったという意味ではなく、社会の成員のほとんどの人が（年齢を問わずに）共通語の音声を用いる能力を身につけた、という意味と理解いただきたいと思います。

ところで多くの皆様は、恐らく日常的には方言と共通語を使い分けているという風にお考えだと思います。このことについては、さまざまな角度から今後も検討を続けたいと考えていますが、第4回調査の中では、「言語生活調査票」という調査票（いわゆるアンケート）で、皆様がことばに関わる日常的な活動や考えをどのように捉えているかについてお答えいただきました。

ここでは共通語と方言の使い分けという項目を中心に、皆様のことばに関連する行動や意識について、全4回の調査の中からいくつかの側面の結果をご説明することにします。

2. 場面による共通語と方言の使い分け

本調査では、(a)「対家族」、(b)「対隣人」、(c)「対市民」、(d)「対旅人」という4つの場面で、共通語を使うか、方言を使うか、両方が混ざるかということをお伺いしています。質問の表現は正確には次の通りです：

問38. 次の(a)~(d)のそれぞれの場面であなただが使ふことばは、標準語ですか。それとも鶴岡弁ですか。あるいは標準語と鶴岡弁が混ざりますか。(a)~(d)のそれぞれについて○を付けてください。

- (a) お家で家族の方たちといろいろな話をする時
- (b) 近所の顔見知りの方と話をする時

- (c) 鶴岡の人で顔見知りでない方と話をする時
- (d) 観光客など旅の人などと話をする時

第4回調査では言語生活調査票の中で、それ以前の調査では面接調査の中でお聞きしました。このことの違いはさておき、過去4回の調査で場面別の使い分けがどのように変化してきたのかを図1~4で見てみましょう。

図は4つの場面ごとにそれぞれどの言葉をつかうかという回答を選んだ割合を、横軸には生年（10年刻み）をとって、調査回別に示したものです。生年は右ほど新しい世代を表しています。同じ選択肢には同じ記号と色を使ってグラフを描いており、左の折れ線から順に第1回、第2回、第3回、第4回の調査結果です。調査回毎の折れ線の中でみれば、横軸方向は年齢層の違いに相当します。1枚の図に4つの調査回と3つの選択肢を同時に示していますので、ちょっと見えにくい点はお断念いただくとして、大まかな傾向を捉えることはできるでしょう。

さてこの図1「対家族」によれば、第一回調査の頃は8割以上の人が方言で話すと答えていたのに、第2回、第3回、第4回と順次方言で話すと答える人の割合が減ってきているようです。代わりに勢力を伸ばしているのは、「共通語で話す」よりもむしろ「混ざる」のようです。

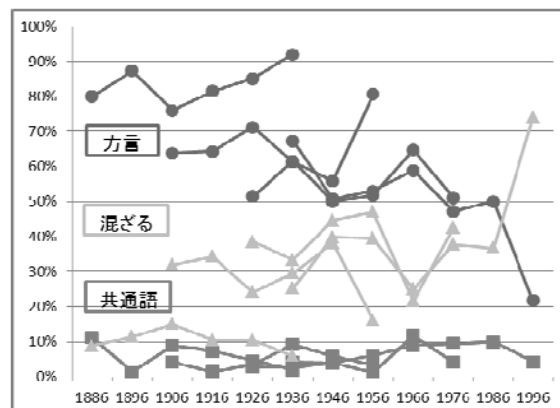


図1 「対家族」の場面で使われることば

またこの場面に関して最も変化が大きかったのは第1回と第2回調査の間であることがうかがわれます。

この傾向は図2の「対隣人」場面でも類似しています。ただし対隣人場面では、対家族場面に比べて近年の調査で新しい世代に「共通語」という回答が増加する傾向が見られるようです。

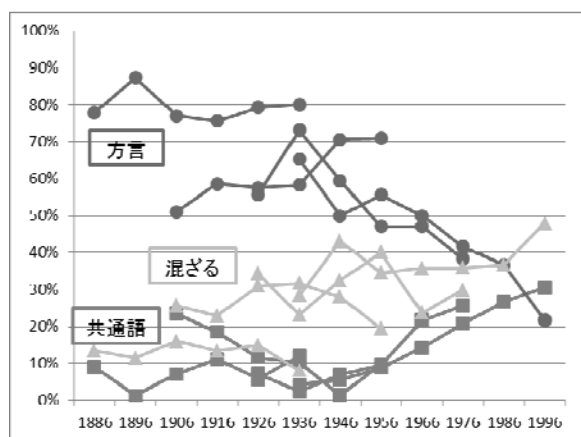


図2 「対隣人」 場面で使われることば

以上は内輪意識の強い場面での話し方ですが、それよりもややよそゆきの姿が出ると思われる「対市民」と「対旅人」の場面ではどうでしょうか。図3は線が重なってやや見えにくくなっていますが、方言を使う方は調査回を追って、また世代が新しくなるにしたがって減って現在では少数派になり、共通語を使うか混ざる方が勢力を伸ばしています。共通語を使う方と混じる方は、現在ではほぼ同程度と見てよさそうです。

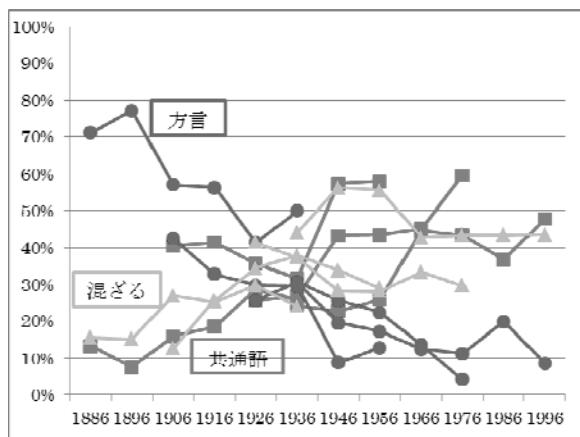


図3 「対市民」 場面で使われることば

更に「対旅人」の場面では、共通語を使う人が勢力を伸ばして、第3回調査以降は多数派となりました。

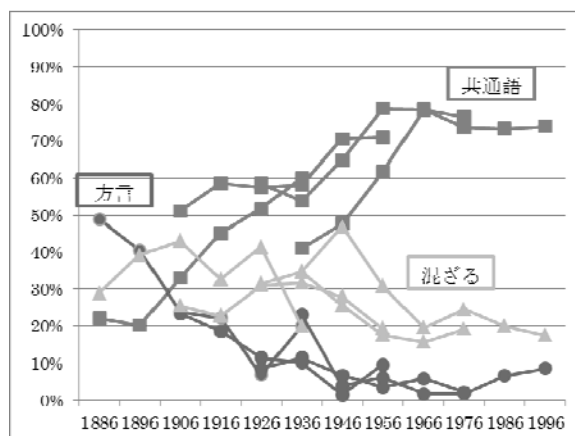


図4 「対旅人」 場面で使われることば

以上のような結果はおそらく鶴岡で暮らしている皆さんの実感に合っているのではないでしょうか。

3. 鶴岡の方言や庄内の文化についての意識

言語生活調査票の中では、他にも鶴岡方言や庄内地方の文化についての意見をお聞きしました。紙幅の関係で詳細な結果は紹介できませんが、「庄内が好きですか」という質問に8割以上の方が「好き」と答え、「鶴岡の方言は鶴岡の大事な文化だから、使い続けるべきだ」という意見に賛成の人が9割以上という結果があります。後者の質問は第2回調査の時から結果に大きく変わりはなく、鶴岡方言が市民に愛され続けている様子うかがわれます。他方、ことばには限らない生活の様式については、長い間作り上げてきた鶴岡での暮らし方にこだわるよりも、「新しい生活の仕方を取り入れて、生活を合理的にする」という意見の人が多数派で、その割合も少しずつ増えてきています。

このような生活の変化への志向と伝統を守る意識が併存する中で、鶴岡市民が今後、どのように方言と共通語を使い分けていくのか、ということが今後の重要な研究テーマになると考えています。

(担当：前田忠彦)

5章 「ことば」の生涯変化を追う

アクセントと発音の共通語化に関するパネル分析

1. はじめに

山形県鶴岡市における「ことばの調査」は共通語化の研究を目的にしています。そこでは、同一人物を追跡する調査（以下、「パネル調査」と呼びます）もおこなってきました。パネル調査のイメージを図1に示します。

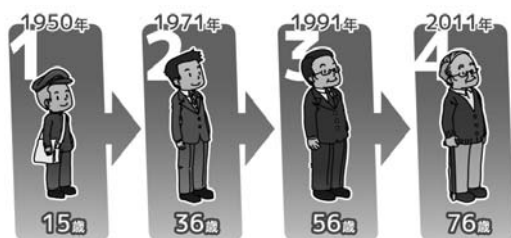


図1 パネル調査（追跡調査）の例

たとえば、Aさんという人が、1950年（昭和25年）におこなわれた第1回の共通語化調査を15歳で受けたとします。21年後の1971年（昭和46年）に第2回調査が実施された時、Aさんは36歳でした。また20年後の1991年（平成3年）に第3回調査がおこなわれ、Aさんは56歳でした。さらに20年後の2011年（平成23年）に第4回調査があり、Aさんは76歳になりました。

このAさんが1950年（昭和25年）から2011年（平成23年）までに実施された4回の調査をすべて受けたとすると、15歳から76歳までの61年間の生涯にわたる共通語化のデータが得られたことになります。

このように、数十年間もの長い期間にわたって同じ人から集めた「ことば」のデータは世界的にもたいへん珍しく、貴重です。

2. パネル調査データから分かったこと

1950年から1991年までの41年間におこなわれた3回の調査にすべて参加した人は男女あわせて53名です。この53名のみなさんから得たデータ

を分析した結果を紹介しましょう。まず、分析方法と結果の一部を説明しておきます。

方法

分析の観点には「調査年」と「性差」の2つに絞りました。調査年は1950年、1971年、1991年の3つに区分できます。性差は男性、女性の2つに区分できます。

まず、アクセント（音の高低）のデータを整理しました。「セナカ、ネコ、ハタ、カラス、ウチワ」の5項目のうちアクセントが共通語と同じものがいくつあるかを53名の一人一人について調べて数えました。それを共通語化得点（0～5点）と呼びます。

たとえば、図1に登場したAさんは1950年にはアクセントが共通語と同じ発音で答えたものが「ネコ」だけだったとすると、1950年の共通語化得点は1点になります。1971年は「ネコ、カラス」の2項目のアクセントが共通語と同じだったとすると、1971年の共通語化得点は2点です。1991年は「ネコ、ハタ、カラス」の3項目が共通語と同じアクセントだったとすると、1991年の共通語化得点は3点になります。このようにして、Bさん、Cさん、などについてもアクセントの共通語化得点を求めました。

アクセントとは別に発音（例：「ネコ」か「ネゴ」か、共通語発音は前者）についても、同じようにして共通語化得点を整理しました。

結果

■1950年～1991年の3回のパネル

前にも言いましたが、第1回調査から第3回調査まで3回にすべて参加した人は53名（男性29名、女性24名）でした。以下に分散分析という方法で解析した結果を示します。

☆アクセント（音の高低）

図2はアクセントの共通語化得点の平均値を、男女別ならびに調査年別にグラフ化したものです。このグラフから以下の情報が読み取れます。

1. グラフは全体的に右肩上がりのパターンになっています。つまり、共通語化得点は1991年の方が1950年よりも高いという結果が出ました。これは調査年が新しいほどアクセントの共通語化が進むことを示唆しています。
2. グラフを見ると男性と女性で共通語化得点に差があるように感じます。が、男女の間に統計的に意味のある差はありませんでした。

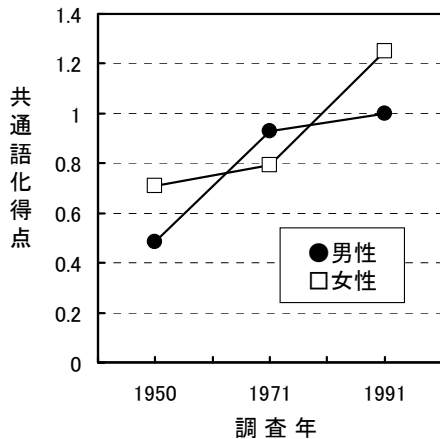


図2 アクセント共通語化得点の平均値

☆発音

図3に発音の共通語化得点の平均値を示しました。このグラフから読み取れる情報は以下のようになります。

1. グラフは全体的に平坦、あるいは男性などは右肩下がりのパターンに見えます。発音の共通語化得点は1991年の方が1950年よりも低くなり、調査年が新しいほど方言化することが明らかになりました。これはアクセントの生涯変化の方向とは逆になっています。
2. また、女性が男性よりも共通語化得点が高いことも分かりました。

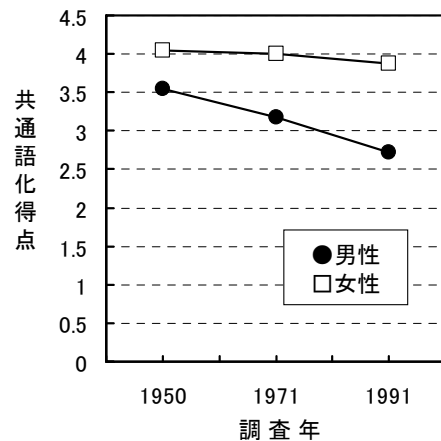


図3 音韻共通語化得点の平均値

まとめ

ほかにも、いろいろな分析をおこないました。それらの結果を総合すると次のようになります。

- アクセントは同じ人のなかで、ゆっくりとではあるが、生涯を通じて着実に共通語化していくことが明らかになりました。
- 一方、発音は同じ人のなかで、生涯を通じて方言化していく傾向があることが分かりました。その傾向には男女差があり、男性の方が顕著なようです。

これまでは、時間経過とともに日本全国で共通語化が進むと考えられてきました。しかし、同一人物の「ことば」の生涯変化を40年間の時間経過にそってじっくりと観察してみると、男性の発音は方言化することが分かりました。もちろん、日本社会全体をながめてみると、発音とアクセントの両者が共通語化していくことは明らかです。ただし、それは若い世代の人口が増えていた時代の現象なのかもしれません。これからの少子高齢化社会においては、地域社会の日本語の発音は方言への「ゆりもどし」が生じるのではないか、そのような予測を鶴岡市の「ことばの調査」から導き出せるのかもしれません。

今後は鶴岡市の言語データから、さらに豊かな情報を抽出できる解析法の開発に統計数理研究所と国立国語研究所は取り組んで参ります。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(担当：横山詔一)

「第4回鶴岡市における言語調査」結果の概要

編集：国立国語研究所・統計数理研究所

発行：2013年3月1日



本資料は、国立国語研究所と統計数理研究所の鶴岡調査担当の下記メンバーが作成しました。

国立国語研究所 横山詔一，米田正人
統計数理研究所 阿部貴人，中村 隆，前田忠彦

本資料の内容に関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

統計数理研究所（調査科学研究センター，前田研究室）
電話：0120-961-179（フリーダイヤル）
国立国語研究所（鶴岡調査担当，横山研究室）
電話：042-540-4614
E-MAIL: tsuruoka-chosa@googlegroups.com

「鶴岡市における言語調査」研究グループ編

第4回鶴岡市における言語調査 報告書
資料編：第2分冊「語彙・文法, 言語生活項目」編

発行：統計数理研究所
〒190-8562 東京都
立川市緑町10-3

国立国語研究所
〒190-8561 東京都
立川市緑町10-2

発行日：平成27(2015)年3月31日

印刷：株式会社ノマド

